

授業テーマ：『夏の夜の夢』(A Midsummer Night's Dream)上演

授業の概要：このクラスでは3年次の Shakespeare Production I , II で学んだシェイクスピアの戯曲『夏の夜の夢』(A Midsummer Night's Dream)を舞台上演する。

到達目標：1. 実際の舞台上演を通して、シェイクスピアの戯曲をより深く理解する。2. 舞台制作にかかわる共同作業を通して、リーダーシップや仲間を思いやる力を養う。

授業方法：通年を通して、舞台制作活動を行う。全体ミーティングとパートごとの作業の2本立てで進めていく。担当教員はあくまでアドバイザーの役割であり、参加学生が主体的に取り組んでいく。特に秋学期は上演本番までは、授業時間外の長時間の活動が必須となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	春学期 火曜日:オリエンテーション、スタッフの役割説明、キャストオーディションの説明 金曜日:アシスタント・ディレクター決定 火曜日:オーディションのための事前打ち合わせ(個人面談含む) 金曜日:オーディション 火曜日:オーディション(予備日)	授業後、各自、希望の役を決定し、必要な書類の提出を行う。 役割決定後、各自の取り組み内容を理解し、必要な準備を進めていくこと。
4.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業(これ以降、全体ミーティングはSPルームで行う。キャスト、スタッフの作業はそれぞれの必要に応じて、学内の諸施設で行う。特にキャストは、授業時間外で身体訓練を行う。) 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
5.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
6.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
7.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
8.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
9.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
10.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
11.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
12.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
13.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。

14.	火曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業 金曜日:全体ミーティングの後、キャストは台本読み合わせ、スタッフは資料研究及び作業	各自が毎回の授業に先立って、上演台本の精読、舞台制作のための基礎知識の習得など必要な準備を行うこと。授業後は、必ず作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
15.	火曜日:各パートの研究発表(スタッフ) 金曜日:各パートの研究発表(キャスト)	発表後、各パートでフィードバックを行い、秋学期の活動へ向けての準備始めること。
16.	秋学期 火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備(シラバスの便宜上授業回数を週2回としているが、実際には週平均5回の活動となる) 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
17.	火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
18.	火曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備 金曜日:全体ミーティングの後、舞台稽古および広報活動を含めた全体的な上演準備	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
19.	火曜日:第1ドレス・リハーサルの予行演習 金曜日:第1ドレス・リハーサル	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
20.	火曜日:第1ドレス・リハーサルのフィードバック、及び第2ドレス・リハーサルの準備 金曜日:第2ドレス・リハーサル	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
21.	火曜日:第2ドレス・リハーサルのフィードバック、及び本番の準備 金曜日:本番1日目 土曜日:本番2日目	各自が毎回の授業に先立って、上演への準備作業を積極的に行うこと。授業後は、必ず、作業内容のフィードバックを行い、必要な修正をすること。
22.	火曜日:反省会 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成(並行して個人レポートも作成)	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
23.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
24.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
25.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
26.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
27.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
28.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
29.	火曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成 金曜日:パートごとに次年度へ向けての資料作成	資料作成に当たっては、本番の反省を踏まえ、次年度の受講生にとってわかりやすいものになるよう心がけること。
30.	火曜日:SPルームの整頓 金曜日:SPルームの整頓	

受講者へのメッセージやアドバイス: 舞台上演を行うに当たっては、参加者一人一人の積極的な取り組み、仲間との連帯が何よりも大切である。授業時間外の作業が多く(特に秋学期の上演までの期間)、体力と気力が大いに必要とされるので、覚悟の上、臨んでほしい。

フィードバックの方法: 春学期の成果発表、秋学期の本番の舞台上演へ向けての作業に対しては、担当教員が適宜、コメント、アドバイスをしていく。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への取り組み姿勢	30%	授業への意欲的な取り組み姿勢を評価する。
	春学期の成果発表	20%	春学期の取り組みの成果を評価する。
	本番での発表	40%	本番までの取り組みの成果を評価する。
	レポート、資料作成	10%	授業内容の総括ができているかを評価する。

教科書: ハンドアウト(上演用台本)を用意する。

参考書： 授業時に適宜紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力： 創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡
方法： htsuji@dwc.doshisha.ac.jp
tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

第二言語としての文法能力の役割とliteracy (reading & writing) について研究論文を書くことを通して、研究する。

授業の概要:

この授業では、第二言語習得における文法能力の役割とliteracyの関係、また文法能力とreading とwritingの関係について、理解し、実際に実験を試み、論文を書く過程を通して研究する。文法はreadingやwritingと関係があるとされているが、具体的にどのように関係しているかが不明確である。授業では、最も基本的なテーマについて教師の説明を聞きながら、各自が論文を読み、それぞれの内容について理解し、議論した上で、独自のresearch questionを作る。次に、扱ったテーマの中から各自が興味あるテーマを見つけ、研究に発展させることが第二の目標である。前半は、主な文献を購読し、実際に調査を行い、その調査についてまとめていくことが中心となる。後半は、実際に実験を行い、研究論文にまとめる。

到達目標:

(1) 文法能力とliteracyに関する文献を批判的に読むことができる。(2) 文献講読や議論を通して、独自のresearch questionを作る。(3) research questionに基づいて、実験計画を立て、実際に実験を試みることができる。(4) 実験結果をまとめ、発表することができる。(4) 論文の形式で実験結果をまとめ、議論することができる。

授業方法:

授業で扱うテーマは以下のものがある。ただし、そのテーマを全て扱うのではなく、受講者の希望が優先される。受講者が勉強したいテーマが選ばれる。毎回の授業は、それぞれのテーマに関する論文を読み、問題点やその論文の示唆することを議論する。そのような議論から、research questionを作るようにする。後半は、research questionに基づいた実験の結果について報告し、議論し、それを論文の形式にまとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体の授業内容の紹介と心構え	授業内容についてシラバスを読み、理解した上で授業に臨む。
2.	文法と文法能力の関係について研究論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
3.	文法能力とメタ言語能力関係について論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
4.	文法能力とメタ言語能力関係について論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
5.	バイリンガルの文法能力とメタ言語知識についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
6.	バイリンガルの文法能力とメタ言語知識についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
7.	発話と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
8.	発話と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
9.	理解と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
10.	理解と文法の関係についての論文を読み、議論する。。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
11.	読解と文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
12.	Writingと文法の関係についての論文を読み、議論する。	論文を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
13.	先行研究のまとめ及びresearch questionについて議論する。	先行研究をまとめた上で、research questionを作る。
14.	改訂されたresearch questionと研究方法について議論する。	授業で議論したことを活かし、research question を改訂し、研究方法を確立する。
15.	Research question、研究方法を確立し、予備実験を行い、その経過について報告し、方法について議論する。	改訂されたresearch quetionと研究方法を基に予備実験を行う。
16.	研究方法について深める。改訂された質問紙について議論する。	一度使った質問紙について振り返り、改訂する。
17.	結果の分析方法について学ぶ。実験計画における統計学の利用に関して理解する。	結果の分析方法についてまとめ、実験計画を作る。
18.	実際に行った実験について報告する。	実際に実験を行う。
19.	実験結果について信頼性、妥当性の観点から議論する。	実験結果について整理する。
20.	SPSSを使ってまとめた結果を議論する。	実験結果をまとめる。SPSSを使って、統計分析を行う。
21.	Resultの内容について議論する。	Resultのまとめを完成させる。
22.	Resultの内容について議論する。先行研究の結果と照らし合わせる。	議論したResultの内容に関して再度分析を行う。
23.	Resultの内容について議論する。	再度議論したResultの内容に関して、別の観点からまとめる。
24.	Resultの内容について議論する。先行研究の結果と照らし合わせる。	Resultの内容に関して、先行研究と比較しまとめる。
25.	Resultとして書いたものを議論する。	Resultの内容について考え、まとめる。
26.	書かれたDiscussionの内容について議論する。	Discussionの書き方について理解し、Discussionの部分を書く。
27.	Discussionの内容について議論する。先行研究と照らし合わせる。	再度、Discussionの内容について改訂する。

- | | | |
|-----|---|--------------------------------|
| 28. | Discussionとしてまとめたものについて議論する。研究の結果の意義について議論する。 | 先行研究を参考にした上で、Discussionを完成させる。 |
| 29. | Conclusionとして書いたものについて議論する。 | Conclusionをまとめる。 |
| 30. | 論文の形式にして提出する。最終的なチェックを行う。 | 論文として全体をまとめる。 |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

この研究では、文献研究から始めて、実際に論文を書き終えるまでの過程に焦点を当てて、授業を展開します。一つひとつの作業を通して、論文を完成させる過程が楽しめます。

フィードバックの
方法:

毎回読んできた内容に関しては、受講者と担当者とのやり取りの中で、フィードバックを行う。p論文作成過程に関しては、授業中に提出された論文等について口頭でコメントしたり、マナビーを通して提出された論文にコメントを加えて返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の文献レポート	30	到達目標(1)に関して、毎回の文献レポートを内容面と議論の深さから評価する。
research questionと実験計画の作成	20	到達目標(2),(3)に関して、research questionと実験計画を独自性、内容の深さから評価する。
実験結果のまとめ	20	到達目標(3)に関して、実験のまとめを内容面と分かり易さの観点から評価する。
論文	30	到達目標(4)に関して、提出された論文を独自性、英語、論理性の観点から評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法:

E-mail, マナビー

授業テーマ:

英詩講読

授業の概要:

19世紀を中心にしながら、英詩全般の魅力を探り理解を深める。

到達目標:

英詩に関する知識を深める。

授業方法:

演習形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	準備学習は必要ない。
2.	偉大な詩人たち(1)Shakespeareの詩の読解と分析	授業で進む範囲の予習をする。
3.	同上	同上
4.	同上	同上
5.	偉大な詩人たち(2)Spenserの詩の読解と分析	同上
6.	同上	同上
7.	偉大な詩人たち(3)Miltonの詩の読解と分析	同上
8.	同上	同上
9.	ロマン主義の黎明(1)Thomsonその他の作品紹介と分析	同上
10.	ロマン主義の黎明(2)Grrayのエレジーの読解と分析	同上
11.	ロマン派詩とは何か?—Blakeの詩による分析	同上
12.	ロマン派文学のマニフェスト:Lyrical Balladsの序文	同上
13.	ロマン派の詩の読解と分析	同上
14.	同上	同上
15.	同上	同上
16.	同上	同上
17.	同上	同上
18.	同上	同上
19.	同上	同上
20.	同上	同上
21.	同上	同上
22.	同上	同上
23.	同上	同上
24.	同上	同上
25.	同上	同上
26.	ヴィクトリア朝時代の詩の読解と分析	同上
27.	同上	同上
28.	同上	同上
29.	同上	同上
30.	同上	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	受講態度	20%	授業に臨む際の積極性や意欲で評価する。
	課題	80%	研究倫理遵守、ならびに提出物の内容で評価する。

教科書:

Jerome J. McGann, The New Oxford Book of Romantic Period Verse, Oxford Univ. Press
ロマン主義時代以外の詩についてはプリント教材を配布する。

参考書:

クラスで指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡方法:

オフィスアワーとEメール(ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:

Thomas Hardyの小説研究

授業の概要:

(1) The Return of the Native (1878)の研究手法(講義) (2) 作品の精読と分析 (3) 作品に関連した研究書のまとめの発表

到達目標:

19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840-1928)の6大作の一つThe Return of the Native (1878)を精読することによって、小説の高度な研究方法の習得を目指す。

授業方法:

人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的には、講義と精読と発表を中心に授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。
2.	講義: The Return of the Nativeの研究手法(1)	質問を準備しておく。
3.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
4.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
5.	講義: The Return of the Nativeの研究手法(2)	質問を準備しておく。
6.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
7.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
8.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
9.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
10.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
11.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
12.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
13.	発表: 研究書のまとめ	レジュメの準備をする。
14.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
15.	学期末の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
16.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。
17.	講義: The Return of the Nativeの研究手法(3)	質問を準備しておく。
18.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
19.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
20.	発表: 研究書のまとめ	レジュメの準備をする。
21.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
22.	レポートについて	質問を準備しておく。
23.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
24.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
25.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
26.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
27.	これまでのまとめ	これまでの授業内容を復習しておく。
28.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
29.	作品の精読と分析: The Return of the Native	十分な準備をしておく。
30.	おわりに	質問を準備しておく。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

レポートとは採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	秋学期の学期末のレポート1回	50%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
	発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
	授業への積極的参加度	25%	準備学習への意欲によって評価する。

教科書:

Thomas Hardy, The Return of the Native (1878) (Norton Edition)

参考書:

授業中に提示する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

Eメールの連絡、および授業前後と授業外のアポで対応する。

授業テーマ: Literary Translation

授業の概要: The focus of this course will be literary translation. Besides the textbook, we will look at various articles and samples of literary translation from Japanese to English and vice versa (poetry as well as prose). We will consider the reading and writing skills, as well as the flexibility of approach, required to translate a work of art that does justice to the original. Actual works examined will vary with the students' interests.

到達目標: --to develop a sophisticated understanding of translation
 --to be able to critique a translation and analyze the approaches taken in it
 --to further develop knowledge of translation theory and apply what is learned
 --to enjoy the differences between English and Japanese

授業方法: Students will do assigned readings, including sections of books and papers as well as various sample translations, and discuss them in class. Each student will do at least two assigned translations (E-J and J-E) as well as two translations of works of her own choosing.

「授業内容」
 および
 「準備学習等の内
 容」:

授業内容

1. Introduction to literary translation J-E
2. Literary translation (J-E) 1
3. Literary translation (J-E) 2
4. Literary translation (J-E) 3
5. Literary translation (J-E) 4
6. Literary translation (J-E) 5
Discuss the translations
7. Literary translation (J-E) 6
Translation and introduction due
8. Literary translation (J-E) 7
9. Literary translation (J-E) 8
10. Literary translation (J-E) 9
11. Literary translation (J-E) 10
12. Literary translation (J-E) 11
13. Literary translation (J-E) 12
14. Literary translation (J-E) 13
Final translation and analytical introduction due
15. Student presentations
16. Introduction to literary translation (E-J)
17. Literary translation (E-J) 1
18. Literary translation (E-J) 2
19. Literary translation (E-J) 3
20. Literary translation (E-J) 4
21. Literary translation (E-J) 5
22. Literary translation (E-J) 6
Translation and analytical introduction due
23. Literary translation (E-J)
24. Literary translation (E-J)
25. Literary translation (E-J)
26. Literary translation (E-J)
27. Literary translation (E-J)
28. Literary translation (E-J)
Final draft of the translation due, with analytical introduction.
29. Literary translation (E-J)
30. Literary translation (E-J)
Student presentations

準備学習等の内容

- Read assigned chapter of The Routledge Course in Japanese translation
- Read assigned section of the Routledge book
- Read assigned section of the Routledge book
Begin translating an assigned work
- Read assigned section of the Routledge book
Work on the translation
Bring questions to class
- Read assigned section of the Routledge book
Work on the translation
- Revise the translation and prepare to hand it in with analytical introduction.
- Do the assigned reading
- Select a work of Japanese literature for translation, in consultation with the instructor.
Bring questions to class
- Continue working on the translation.
Do assigned reading.
- Continue working on the translation.
Do assigned reading.
- Revise the translation
Do assigned reading
- Prepare draft translation with introduction
- Revise paper
- Prepare presentation based on translation, for discussion
- Do the assigned reading
- Read a section of the Routledge book
- Read a section of the Routledge book
Begin translating an assigned work
- Read a section of the Routledge book
Work on the translation
- Read a section of the Routledge book
Work on the translation
- Do the assigned reading
Revise the translation
- Do the assigned reading
Prepare final draft of the translation with introduction.
- Do the assigned reading. Select a work of English literature for translation, in consultation with the instructor.
- Work on the translation
- Work on the translation
- Work on the translation
Do the assigned reading
- Work on the translation
Do the assigned reading
- Work on the translation
Prepare a draft translation with analytical introduction
- Do assigned reading
- Prepare presentation based on the translation, for discussion.

受講者への
メッセージや
アドバイス:

Literary translation is not easy, but it's not totally impossible either, so have courage! It is an adventure. There are no "right" answers, but if you have a love of language, reading and writing, you can do it. Practice makes perfect. The more you translate, the better you will become! Think ahead of time about what sort of literary translating would be most interesting and useful for you. Then let's learn and explore together. (Class will be conducted primarily in English but of necessity some Japanese will be used as well.)

フィードバックの方法:

Homework from the textbook will be discussed in class. Translations will be rewritten with guidance from the instructor and feedback from classmates.

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and class participation	40%	Preparation, attitude, ability to ask questions and demonstrate understanding of the materials.
	Translations	60%	Accuracy, ability to apply what is learned, and flair for language.

教科書:

Hasegawa, Yoko. The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge, 2012.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

、思考力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

--office hour
--email
--by appointment

授業テーマ:

授業の概要:

In this class, students will learn about areas of communication of their choice and do research on those areas. (Note: The actual fields of communication covered in the class will depend on the students' interests. The schedule below is an example.)

到達目標:

The purpose of the course is for students to further develop their knowledge of communication theory and its application.

授業方法:

Students will read papers and chapters from books and will discuss them in class. They will choose an area of interest and write a research paper on it.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. Introduction to Communication	none
	2. Interpersonal Communication 1	Read materials and answer questions.
	3. Interpersonal Communication 2	Read materials and answer questions.
	4. Interpersonal Communication 3	Read materials and answer questions.
	5. Interpersonal Communication 4	Read materials and answer questions.
	6. Interpersonal Communication 5	Read materials and answer questions.
	7. Interpersonal Communication 6	Read materials and answer questions.
	8. Interpersonal Communication 7	Read materials and answer questions.
	9. Interpersonal Communication 8	Read materials and answer questions.
	10. Interpersonal Communication 9	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	11. Interpersonal Communication 10	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	12. Interpersonal Communication 11	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	13. Interpersonal Communication 12	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	14. Interpersonal Communication 13	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	15. Interpersonal Communication 14	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	16. Intercultural Communication 1	Read materials and answer questions.
	17. Intercultural Communication 2	Read materials and answer questions.
	18. Intercultural Communication 3	Read materials and answer questions.
	19. Intercultural Communication 4	Read materials and answer questions.
	20. Intercultural Communication 5	Read materials and answer questions.
	21. Intercultural Communication 6	Read materials and answer questions.
	22. Intercultural Communication 7	Read materials and answer questions.
	23. Intercultural Communication 8	Read materials and answer questions.
	24. Intercultural Communication 9	Read materials and answer questions.
	25. Intercultural Communication 10	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	26. Intercultural Communication 11	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	27. Intercultural Communication 12	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	28. Intercultural Communication 13	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	29. Intercultural Communication 14	Read materials and answer questions. Work on research paper.
	30. Intercultural Communication 15	Read materials and answer questions. Work on research paper.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussion with student about materials and research paper

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	Attendance and class participation	40%	Participating in class; number of classes missed
	Research papers	60%	Design of research, application of statistics, conclusion

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

授業テーマ:

学習者スタイルと方略: EFL環境下におけるBest-Fit-Strategyの探求

授業の概要:

このコースでは、外国語学習者方略 (Learner Strategy=LS) についての最新の研究を概観しながら日本のようなEFL環境下で外国語として英語をどのように学ぶべきなのかそのアプローチについて、Strategyをキーワードに議論します。

到達目標:

最終的には、
(1) 学習者の特徴に応じた最適の方略 (Best-Fit Strategy) を学習者に発見させる方法について理解が深まる、
(2) 教える側すなわちTeaching Strategyにも議論を拡げ、また現在の第二言語習得研究 (Second Language Acquisition Research) の知見にも依拠しながらEFL環境における英語教育のあり方について理解が深まる、

授業方法:

授業計画のテーマに沿い、授業を進めます。ディスカッションベースの自ら考え・意見交流ができるような形をとります。予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることも求められます。できる限り、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	Section 1. Best-Fit Strategyを発見させる方法論としてのStrategying (ストラテジー・トレーニング) LS研究の現在:定義の問題 (1)	授業に対する期待を考える
2.	LS研究の現在:定義の問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
3.	LS研究の現在:定義の問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
4.	LS研究の現在:分類の問題 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
5.	LS研究の現在:分類の問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
6.	LS研究の現在:分類の問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
7.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
8.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
9.	LS研究の現在:理論的枠組みの問題 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
10.	自己調整学習とLS研究 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
11.	自己調整学習とLS研究 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
12.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
13.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
14.	ストラテジー・トレーニングとStrategyig の理論的背景 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
15.	自己最適化方略 (Best-Fit Strategy) の発見 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
16.	自己最適化方略 (Best-Fit Strategy) の発見 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
17.	Section 2. 第二言語習得理論 (SLA)の知見、語彙の習得方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
18.	語彙の習得方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
19.	語彙の習得方略 (3)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
20.	語彙の習得方略 (4)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
21.	読解方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
22.	読解方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
23.	コミュニケーションストラテジー (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
24.	コミュニケーションストラテジー (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
25.	発音能力向上の方略 (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
26.	発音能力向上の方略 (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
27.	Section 3. EFL環境における英語教育、音読とストラテジー (1)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
28.	音読とストラテジー (2)	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
29.	インプット、アウトプット、インターアクション、ストラテジー	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく
30.	まとめ	関連するテキストの一部又は論文を事前に読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

全体を通して、予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。

フィードバックの方法:

プレゼンテーションについては評価を事後にManaba等で提示します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業中のディスカッション態度	40	到達目標(1)～(2)に関する知識により評価する
	ファイナルペーパー	60	到達目標(1)～(2)に関する知識により評価する

教科書:

ハンドアウトを配布します。

参考書:

授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

授業テーマ:

卒業論文作成のための研究指導。

授業の概要:

4年間の集大成として、各自が研究課題を設定。資料の調査・収集、検討・考察を加えて、卒業論文を作成する。

到達目標:

①適切な資料の調査収集。②先行研究の検討。③論旨の組み立て。④論文作成。

授業方法:

演習を基本とし、発表と質疑応答。質疑応答と進行状況によって、授業内容の配分は変更する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究課題の設定についてのガイダンス①。3年次演習の成果の検討。今後の課題の確認。「卒論作成ガイド」の説明。	3年次演習の成果と今後の課題について、資料をまとめておく。
2.	研究課題の設定についてのガイダンス②先行研究の整理と検討。テーマに関する文献リストの作成指導(その1)。	先行研究をリストアップしておく。
3.	研究課題の設定についてのガイダンス③。先行研究の整理と検討。テーマに関する文献リストの作成指導(その2)。	研究課題の検討。文献リストの作成。
4.	研究課題の設定についてのガイダンス④。先行研究の整理と検討。テーマに関する文献収集の指導。	研究課題の検討。文献リストの作成。現状報告の準備。
5.	各自の進行状況を報告。論題・目次案の検討①。	進行状況・論題・目次案の報告準備。
6.	各自の進行状況を報告。論題・目次案の検討②。	進行状況・論題・目次案の報告準備。
7.	各自の進行状況を報告。論題・目次案の検討③。	進行状況・論題・目次案の報告準備。論文構成案の発表準備。
8.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表①。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
9.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表②。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
10.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表③。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
11.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表④。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
12.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表⑤。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
13.	論題・目次案にもとづき各自の論文構成案を発表⑥。全員で質疑応答。	論文構成案の発表準備。質疑に対応。
14.	夏季休暇中の研究計画①草稿執筆にむけて、各自の問題点と今後の課題を明確にする。	夏季休暇中の研究計画を立てる。問題点と今後の課題をあげておく。
15.	夏季休暇中の研究計画②草稿執筆にむけて、各自の問題点と今後の課題を明確にする。	夏季休暇中の研究計画を立てる。問題点と今後の課題をあげておく。
16.	草稿をもとに中間発表①。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表準備。
17.	草稿をもとに中間発表②。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
18.	草稿をもとに中間発表③。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
19.	草稿をもとに中間発表④。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
20.	草稿をもとに中間発表⑤。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
21.	草稿をもとに中間発表⑥。質疑応答。改稿を指示する。	中間発表と改稿。
22.	改稿をもとに再発表①。質疑応答。再改稿。	中間発表と再改稿。
23.	改稿をもとに再発表②。質疑応答。再改稿。	中間発表と再改稿。
24.	改稿をもとに再発表③。質疑応答。再改稿。	中間発表と再改稿。
25.	完成原稿作成指導①	論文点検、完成原稿作成。
26.	完成原稿作成指導②	論文点検、完成原稿作成。
27.	完成原稿作成指導③	
28.	講評①。	感想のまとめ。
29.	講評②	感想のまとめ。
30.	講評③	

受講者へのメッセージやアドバイス:

本文テキストと参考文献は、各自のテーマに応じて個別に指導する。多くの研究論文を読んで、優れた論文の書き方を参考にするとよい。他大学図書館、公共図書館なども積極的に利用するとよい。

フィードバックの方法:

目次案、論文構成案、草稿を添削し、教室で返却。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応。オフィスアワー。個別対応も可。

授業テーマ:	日本古典文学(漢文学も含む)の研究		
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料の収集・調査の上、十分な考察を加えて卒業論文を作成するのを支援する。猶、定期的に各自の進捗状況を報告してもらい、指導を受けることを基本とします(原則的に本間は毎週時間割通りに実施している)。また、随時報告発表会を行い、夏期休暇中には中間発表会を計画している。		
到達目標:	各自の設定した研究対象(テーマ)に沿って、調査・研究を進めると共に、その成果を逐次報告、また発表する。		
授業方法:	履修者の進捗状況に合わせて助言するのが中心になるが、発表会も行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 授業計画・研究論文の書式等	研究対象の相談内容をまとめる	
	2. 研究対象(作品・作者)の絞込み(1)	研究対象の相談内容をまとめる	
	3. 研究対象(作品・作者)の絞込み(2)	研究対象(テーマ)を決める	
	4. 研究対象の確定とテーマ選定	参考文献目録リスト・複写収集	
	5. 研究対象の研究文献目録作成(1)	参考文献目録リスト・複写収集	
	6. 研究対象の研究文献目録作成(2)	参考文献目録リスト・複写収集	
	7. 研究対象の研究文献目録作成(3)	参考文献目録リスト・複写収集	
	8. 研究対象の研究文献目録作成(4)	参考文献目録リスト・複写収集	
	9. 研究対象の分析と報告発表(1)	現在考えている方向性を報告発表	
	10. 研究対象の分析と報告発表(2)	現在考えている方向性を報告発表	
	11. 研究対象の分析と報告発表(3)	現在考えている方向性を報告発表	
	12. 研究対象の分析と報告発表(4)	現在考えている方向性を報告発表	
	13. 論文の構想(含、目次)(1)	執筆予定の目次化とコメント・説明	
	14. 論文の構想(含、目次)(2)	執筆予定の目次化とコメント・説明	
	15. 論文の構想(含、目次)(3)	執筆予定の目次化とコメント・説明	
	16. 中間発表会(8月下旬の予定)	発表資料(B4、2枚以内)を作成し、教員宛に送付。レジュメ人数分用意。	
	17. 中間発表会(8月下旬の予定)	発表資料(B4、2枚以内)を作成し、教員宛に送付。レジュメ人数分用意。	
	18. 問題点の確認と検討(1)	中間発表をふまえ検討しておこう	
	19. 問題点の確認と検討(2)	中間発表をふまえ検討しておこう	
	20. 論文の執筆と推敲(1)	文章案を持参して相談	
	21. 論文の執筆と推敲(2)	文章案を持参して相談	
	22. 論文の執筆と推敲(3)	文章案を持参して相談	
	23. 論文の執筆と推敲(4)	文章案を持参して相談	
	24. 完成原稿作成指導(1)	提出予定原稿の調整	
	25. 完成原稿作成指導(2)	提出予定原稿の調整	
	26. 完成原稿作成指導(3)	提出予定原稿の調整	
	27. 卒業論文提出	提出予定原稿の調整	
	28. 卒業論文提出		
	29. 卒業論文提出		
	30. 卒業論文提出		
	* 反省会		
受講者へのメッセージやアドバイス:	就職内定より、卒論作成を優先! でないと後悔するよ。		
フィードバックの方法:	すべての対応は、授業の前後やオフィスアワー、又は研究室在室時に行う。		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業研究	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。
教科書:	特になし		
参考書:	授業時等に適宜指示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	オフィスアワー・授業の前後や研究室在室時		

授業テーマ:	卒業論文作成に向けて																																																																																															
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集・調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。春学期は概要を含む演習形式、秋学期は個人発表ならびに論文執筆が主となる。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を研究発表するのみならず、授業担当教員の指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。																																																																																															
到達目標:	卒業論文完成に向けて、各自のペースでスケジュールを考える。それによって資料の収集・調査を行い、その結果を逐次口頭発表し、質疑応答を通してよりよい論文の制作をめざす。論文執筆にあたっては、書式の修得や論理的な展開・構成に留意しつつ、各自のオリジナリティーを明確に打ち出していく。																																																																																															
授業方法:	演習																																																																																															
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><thead><tr><th></th><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr></thead><tbody><tr><td>1.</td><td>ガイダンス</td><td>各自研究テーマについて考えておく。</td></tr><tr><td>2.</td><td>個人発表などのスケジュール調整</td><td>用例の調査などを行っておく。</td></tr><tr><td>3.</td><td>スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>4.</td><td>スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>5.</td><td>スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>6.</td><td>スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>7.</td><td>スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議</td><td>発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>8.</td><td>個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整</td><td>二回目の個人発表の準備。</td></tr><tr><td>9.</td><td>スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>10.</td><td>スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>11.</td><td>スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>12.</td><td>スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>13.</td><td>スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>14.</td><td>スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議</td><td>二回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>15.</td><td>夏休み中のゼミ合宿についての話し合い</td><td>春学期提出のレポートの準備。</td></tr><tr><td>16.</td><td>夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>17.</td><td>夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>18.</td><td>夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>19.</td><td>夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>20.</td><td>夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>21.</td><td>夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議</td><td>三回目の発表資料を用意しておく。</td></tr><tr><td>22.</td><td>以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う</td><td>質問事項などを整理しておく</td></tr><tr><td>23.</td><td>個人指導を行う</td><td>質問事項などを整理しておく</td></tr><tr><td>24.</td><td>個人指導を行う</td><td>質問事項などを整理しておく</td></tr><tr><td>25.</td><td>卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う</td><td>卒業論文の草稿をまとめておく。</td></tr><tr><td>26.</td><td>論文提出に向けて最終チェックを行う</td><td>完成原稿を用意する</td></tr><tr><td>27.</td><td>提出後は反省・総括を行う</td><td>各自自らの論文を総括しておく。</td></tr><tr><td>28.</td><td>卒業論文集作成に向けて作業を行う</td><td>論文原稿の再確認。</td></tr><tr><td>29.</td><td>卒業論文集作成に向けて作業を行う</td><td>論文集の編集作業を行う。</td></tr><tr><td>30.</td><td>卒業論文集を完成させる</td><td>論文集の編集作業を行う。</td></tr></tbody></table>		授業内容	準備学習等の内容	1.	ガイダンス	各自研究テーマについて考えておく。	2.	個人発表などのスケジュール調整	用例の調査などを行っておく。	3.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	4.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	5.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	6.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	7.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。	8.	個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整	二回目の個人発表の準備。	9.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	10.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	11.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	12.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	13.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	14.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。	15.	夏休み中のゼミ合宿についての話し合い	春学期提出のレポートの準備。	16.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	17.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	18.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	19.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	20.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	21.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。	22.	以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う	質問事項などを整理しておく	23.	個人指導を行う	質問事項などを整理しておく	24.	個人指導を行う	質問事項などを整理しておく	25.	卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う	卒業論文の草稿をまとめておく。	26.	論文提出に向けて最終チェックを行う	完成原稿を用意する	27.	提出後は反省・総括を行う	各自自らの論文を総括しておく。	28.	卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文原稿の再確認。	29.	卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文集の編集作業を行う。	30.	卒業論文集を完成させる	論文集の編集作業を行う。		
	授業内容	準備学習等の内容																																																																																														
1.	ガイダンス	各自研究テーマについて考えておく。																																																																																														
2.	個人発表などのスケジュール調整	用例の調査などを行っておく。																																																																																														
3.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																																																														
4.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																																																														
5.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																																																														
6.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																																																														
7.	スケジュールに従っての個人発表並びに自由討議	発表資料を用意しておく。																																																																																														
8.	個人発表後の論文執筆状況の確認並びに二回目の個人発表のスケジュール調整	二回目の個人発表の準備。																																																																																														
9.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
10.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
11.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
12.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
13.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
14.	スケジュールに従って二回目の個人発表並びに自由討議	二回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
15.	夏休み中のゼミ合宿についての話し合い	春学期提出のレポートの準備。																																																																																														
16.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
17.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
18.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
19.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
20.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
21.	夏休み明けにスケジュールに従って三回目の個人発表並びに自由討議	三回目の発表資料を用意しておく。																																																																																														
22.	以後は卒業論文完成に向けての個人指導を行う	質問事項などを整理しておく																																																																																														
23.	個人指導を行う	質問事項などを整理しておく																																																																																														
24.	個人指導を行う	質問事項などを整理しておく																																																																																														
25.	卒業論文提出に向けて書式・体裁などの最終確認を行う	卒業論文の草稿をまとめておく。																																																																																														
26.	論文提出に向けて最終チェックを行う	完成原稿を用意する																																																																																														
27.	提出後は反省・総括を行う	各自自らの論文を総括しておく。																																																																																														
28.	卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文原稿の再確認。																																																																																														
29.	卒業論文集作成に向けて作業を行う	論文集の編集作業を行う。																																																																																														
30.	卒業論文集を完成させる	論文集の編集作業を行う。																																																																																														
受講者へのメッセージやアドバイス:	悔いのないよう全力で取り組んでほしい。																																																																																															
フィードバックの方法:	個人発表に際して意見を述べる。論文の草稿に朱を入れる。論文集作成に向けて全体の書式などを統一させる。																																																																																															
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	<table><thead><tr><th>評価方法</th><th>割合</th><th>評価基準</th></tr></thead><tbody><tr><td>卒業論文</td><td>100</td><td>卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。</td></tr></tbody></table>	評価方法	割合	評価基準	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。																																																																																									
評価方法	割合	評価基準																																																																																														
卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。																																																																																														
教科書:	特になし																																																																																															
参考書:	特になし																																																																																															
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力																																																																																															

教員との連絡
方法： 研究室での応対、連絡メールによるやりとり。

授業テーマ:

卒業論文作成に向けて取り組む授業である。

授業の概要:

開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

到達目標:

四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。

授業方法:

春学期には中間発表を各自一回する。
秋学期には夏休み中に書き上げた論文の下書きにもとづき、個別に指導する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体での打ち合わせ(春学期)	なし
2.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備
3.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備
4.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備
5.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備
6.	論文の計画についての個別指導	卒論執筆の下準備
7.	学生による中間発表	発表の準備
8.	学生による中間発表	発表の準備
9.	学生による中間発表	発表の準備
10.	学生による中間発表	発表の準備
11.	学生による中間発表	発表の準備
12.	学生による中間発表	発表の準備
13.	学生による中間発表	発表の準備
14.	学生による中間発表	発表の準備
15.	今後に向けて	なし
16.	全体での打ち合わせ(秋学期)	なし
17.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
18.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
19.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
20.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
21.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
22.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
23.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
24.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
25.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
26.	論文の下書きに基づく個別指導	卒論の下書き
27.	ふりかえり	なし
28.	ふりかえり	なし
29.	ふりかえり	なし
30.	ふりかえり	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

面談

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:

卒業論文作成に取り組む

授業の概要:

講義に加え個別指導にもとづいて各人の問題意識に基づいた卒業論文を作成する。

到達目標:

四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

授業方法:	講義・個別指導など	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス・グループ分け	
	2. 文学研究の方法(応用)	
	3. 個別面談1	卒論の対象を明確にしておく
	4. 個別面談2	卒論の対象を明確にしておく
	5. 論文執筆の基礎	卒論で解明したい謎を明確にしておく
	6. 個別指導1	卒論で解明したい謎を明確にしておく
	7. 個別指導2	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
	8. 個別指導3	卒論で謎を解明するためのアプローチを明確にしておく
	9. グループ内での中間発表1	
	10. グループ内での中間発表2	
	11. 個別指導4	
	12. 個別指導5	
	13. 個別指導6	
	14. グループ内での中間発表3	
	15. グループ内での中間発表4	
	16. 論文の書式	
	17. 論文の文体1	
	18. 論文の文体2	10月初旬に卒論合宿を行う
	19. 個別指導7	
	20. 個別指導8	
	21. 個別指導9	
	22. 論文相互添削1	
	23. 論文相互添削2	
	24. 個別指導10	11月中旬にプレ論文をマナビーで提出する
	25. 個別指導11	
	26. 個別指導12	
	27. 振り返り	
	28. 振り返り	
	29. 振り返り	
	30. 振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

フィードバックの方法:

個別指導の中でコメントする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

論文を書く。

授業の概要:

『中興禅林風月集抄』を読む。

到達目標:

卒業論文を書く。

授業方法:

演習と発表。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概説	なし
	2. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	3. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	4. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	5. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	6. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	7. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	8. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	9. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	10. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	11. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	12. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	13. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	14. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	15. 研究レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	16. 卒業論文発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	17. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	18. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	19. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	20. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	21. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	22. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	23. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	24. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	25. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	26. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	27. 卒業論文レジュメ発表(2名)	『中興禅林風月集抄』の当該ページを読んでくる。
	28. まとめと反省	自己の論文の問題点を調べてくる。
	29. まとめと反省	自己の論文の問題点を調べてくる。
	30. まとめと反省	自己の論文の問題点を調べてくる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

調査をしっかりとしよう。

フィードバックの方法:

論文

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

プリント

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

eメール

授業テーマ:	卒業論文作成に向けて取り組む授業である		
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。 開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。		
到達目標:	①卒業論文作成のために必要な知識を集める(知識・理解) ②卒業論文作成のために論理的に考え、解決の方法を工夫し、主体的に取り組む(関心・意欲・態度) ③問題の設定、問題解決の方法、収集した情報の整理、推論の過程、その結果得られた結論を明快にわかりやすく論述し、卒業論文を完成させる。(表現・技能・能力)		
授業方法:	演習方式で行う。各自が事前に用意した進捗報告やデータをもとにディスカッションをし、対話を通して次の問題点を見つけ、解決策をともに考える。データがまとまり、文章としての執筆に入る際に合宿を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス、担当順決め	特になし	
	2. 第一回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	3. 第一回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	4. 第一回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	5. 第一回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	6. 一回目発表の総括と合評会	特になし	
	7. 第二回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	8. 第二回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	9. 第二回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	10. 第二回発表	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	11. 二回目発表の総括と合評会	特になし	
	12. 中間発表会準備	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。	
	13. 中間発表会準備	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。	
	14. 中間発表会	パワーポイントによるプレゼンテーションを準備すること。	
	15. 中間発表会	パワーポイントによるプレゼンテーションを準備すること。	
	16. 第三回発表会	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	17. 第三回発表会	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	18. 第三回発表会	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	19. 第三回発表会	担当者は事前にレジュメを用意する。それ以外は個別に質問ができるように進捗をまとめておく。	
	20. 中間発表会準備	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。	
	21. 中間発表会準備	個別に質問ができるように各自進捗をまとめておく。	
	22. 中間発表会	パワーポイントによるプレゼンテーションを準備すること。	
	23. 中間発表会	パワーポイントによるプレゼンテーションを準備すること。	
	24. 論文執筆について	特になし	
	25. 個別指導期間	各自論文執筆を進める	
	26. 個別指導期間	各自論文執筆を進める	
	27. 卒業論文反省会	特になし	
	28. 卒業論文反省会	特になし	
	29. 卒業論文合評会	特になし	
	30. 卒業論文合評会	特になし	
受講者へのメッセージやアドバイス:	指示を待つのではなく問題解決に向けて主体的にとりくむこと。		
フィードバックの方法:	Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		

教員との連絡
方法:

Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

授業テーマ:	卒業論文の作成				
授業の概要:	各自が設定したテーマについて、中間発表を繰り返し、受講者などからの意見を参考にしながら、草稿を作成し、さらに推敲を繰り返して、論文に仕立て上げる。				
到達目標:	論文の書き方を学び、卒業論文と呼ぶに足るものを完成させる。				
授業方法:	受講者の発表と受講者相互の質疑応答を中心とする。				
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容		
	1.	授業の進め方の説明	各自が設定した卒論のテーマを簡略に説明したレジュメを用意すること。 同上 前回発表のレジュメに考察を加えたものを用意すること。 同上 前回発表のレジュメにさらに考察を加えたものを用意すること。 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上 論文草稿を用意すること。 同上 完成稿を配布すること。		
	2.	第一回目の発表①			
	3.	第一回目の発表②			
	4.	第二回目の発表①			
	5.	第二回目の発表②			
	6.	第二回目の発表③			
	7.	第三回目の発表①			
	8.	第三回目の発表②			
	9.	第三回目の発表③			
	10.	第四回目の発表①			
	11.	第四回目の発表②			
	12.	第四回目の発表③			
	13.	第五回目の発表①			
	14.	第五回目の発表②			
	15.	第五回目の発表③			
	16.	第六回目の発表①			
	17.	第六回目の発表②			
	18.	第六回目の発表③			
	19.	第七回目の発表①			
	20.	第七回目の発表②			
	21.	第七回目の発表③			
	22.	第八回目の発表①			
	23.	第八回目の発表②			
	24.	第八回目の発表③			
	25.	草稿の検討①			
	26.	草稿の検討②			
	27.	完成稿の点検			
	28.	論文合評会①			
	29.	論文合評会②			
	30.	論文合評会③			
	受講者へのメッセージやアドバイス:	他の人の研究テーマを理解しておくこと。自分の研究過程で知りえたことで、参考になると思われることを提供しあうことで、互いに研究を深めていくことができる。常に情報交換できる体制を作っておくことがのぞましい。必要に応じて夏季休暇中に中間発表会を行なう。			
	フィードバックの方法:	授業の中で行う。			
	「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法		割合	評価基準
		卒業論文		100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。
教科書:	なし				
参考書:	各自の研究テーマに応じて随時紹介する。				
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力				
教員との連絡方法:	Eメール				

授業テーマ:	卒業論文作成に向けて取り組む授業である。		
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。		
到達目標:	論文作成を通じて、客観的・科学的なデータ収集・整理・分析の力、論理的な考察の力、分かり易く明確に表現する力をつける。長期的な目標に向かって自己管理する力をつける。		
授業方法:	学生の発表、議論と個別指導を中心とする。授業外にも随時指導を受けることができる。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	今後の授業方針の打合せ	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	2.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	3.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	4.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	5.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	6.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	7.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	8.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	9.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	10.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	11.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	12.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	13.	各自の中間報告と議論	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	14.	夏休みに向けての相談	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	15.	夏休みに向けての相談	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	16.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	17.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	18.	休み明けの成果発表	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	19.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	20.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	21.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	22.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	23.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	24.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	25.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	26.	個別指導	卒業論文完成に向け、各自自主的に計画を立て取り組むこと。
	27.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
	28.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
	29.	ふりかえり・講評	提出した卒業論文を見直してくること。
	30.	総まとめ	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。		

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力
教員との連絡 方法:	マナビーから、あるいは、研究室などでの面談による。

授業テーマ:

卒業論文を作成すに向けて取り組む授業である。

授業の概要:

四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。

到達目標:

四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成する。
開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を授業担当教員に報告し、指導を受けることを要する。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこととする。

授業方法:

クラスにおける学生の発表および質疑応答を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	第1回発表(1)	報告または質疑の準備をする。
3.	第1回発表(2)	報告または質疑の準備をする。
4.	第1回発表(3)	報告または質疑の準備をする。
5.	第1回発表の総括と合評	第1回発表の振り返りを行う。
6.	第2回発表(1)	報告または質疑の準備をする
7.	第2回発表(2)	報告または質疑の準備をする。
8.	第2回発表(3)	報告または質疑の準備をする。
9.	第2回発表の総括と合評	第2回発表の振り返りを行う。
10.	春学期中間発表会(1)	報告または質疑の準備をする。
11.	春学期中間発表会(2)	報告または質疑の準備をする。
12.	春学期中間発表会(3)	報告または質疑の準備をする。
13.	春学期中間発表会(4)	報告または質疑の準備をする。
14.	春学期中間発表会(5)	報告または質疑の準備をする。
15.	春学期の総括	夏季休暇中の課題を設定する。
16.	秋学期中間発表会(1)	報告または質疑の準備をする。
17.	秋学期中間発表会(2)	報告または質疑の準備をする。
18.	秋学期中間発表会(3)	報告または質疑の準備をする。
19.	秋学期中間発表会(4)	報告または質疑の準備をする。
20.	秋学期中間発表会(5)	報告または質疑の準備をする。
21.	秋学期中間発表会(6)	報告または質疑の準備をする。
22.	秋学期中間発表会(7)	報告または質疑の準備をする。
23.	秋学期中間発表会(8)	報告または質疑の準備をする。
24.	個別指導(1)	草稿の執筆。
25.	個別指導(2)	草稿の執筆。
26.	個別指導(3)	草稿の執筆。
27.	個別指導(4)	草稿の執筆。
28.	卒業論文反省会(1)	自分の卒論を再読する。
29.	卒業論文反省会(2)	自分の卒論を再読する。
30.	卒業論文反省会(3)	自分の卒論を再読する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

報告担当者は、事前に発表レジュメを作成し、配付すること。報告担当者以外の者は、事前に配付されたレジュメを熟読し、疑問点や助言できることなどを整理して授業に臨むこと。

フィードバックの方法:

授業時に全体または個別に対応する。Eメールで個別に対応することもある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合い(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール。

授業テーマ:

卒業論文作成に向けての取り組み

授業の概要:

各自で研究テーマを設定し、資料を収集・調査した上で十分な考察を加え、卒業研究を行う。

到達目標:

卒業論文を作成すること

授業方法:

前半3回は教師が講義を行う。その後は、個人指導とする。ただし、全員が出席するクラス授業として、夏休みの前後2回、中間発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 1	レジメを読んでおく。
2.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 2	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。
3.	卒業研究遂行と卒業論文執筆における基本的事項の確認 3	各自のテーマをもとに、基本的事項を確認する。
4.	個人指導 1	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
5.	個人指導 2	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
6.	個人指導 3	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
7.	中間発表 1	中間発表1の準備をする。
8.	中間発表 2	中間発表2の準備をする。
9.	個人指導 4	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
10.	個人指導 5	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
11.	個人指導 6	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
12.	個人指導 7	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
13.	個人指導 8	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
14.	個人指導 9	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
15.	個人指導 10	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
16.	中間発表 3	中間発表3の準備をする。
17.	個人指導 11	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
18.	個人指導 12	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
19.	個人指導 13	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
20.	個人指導 14	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
21.	個人指導 15	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
22.	個人指導 16	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
23.	個人指導 17	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
24.	個人指導 18	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
25.	個人指導 19	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
26.	個人指導 20	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
27.	個人指導 21	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
28.	個人指導 22	卒業研究を遂行し、その成果を論文として執筆する。その過程を通して何が問題かを常に確認する。
29.	振り返り 1	卒業研究の過程を成果を内省する。
30.	振り返り 2	卒業研究の過程を成果を内省する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒業研究は、4年間の学業の華・果実である。自分自身が大学でどういうことに興味を持ち、それをどう学んだか、その学びの成果を自分自身でどう組み立てたかが問われる。そのことを、十二分に心得ること。卒業論文は言われたから出すような位置づけにはない。まして、ちょっと長めのレポートなどではないし出せば通るというものでももちろんない。自分で自分に課す課題で、自分で評価すべきものがある。

フィードバックの方法:

個人指導を通して、フィードバックする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100%	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。

教科書:

マナビーで指示する。

参考書:	都度、指示する。
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	以下のアドレを使用すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	卒業論文作成に向けて取り組む授業		
授業の概要:	四年間の勉学の集大成として、各自が研究課題を設定し、資料を収集、調査の上、十分な考察を加えて、卒業論文を作成します。 開講期間中を通じて、定期的に各自の研究の進展状況を教員に報告し、指導を受けることを要します。何らかの支障がある場合は、担当教員の指示に従うこと。		
到達目標:	自らが設定した問題について追究し、自らの考えを構築し発信する作業である主体的学習活動を通じ、以下の能力や態度を養うことを到達目標とします。 ①自ら問題を設定し、それらの問題を解決するために必要な情報を収集、整理し、実証的、論理的、多角的に物事を考えることができる。 ②論理的に思考し、その結果を適正な日本語を用いて分かりやすく伝えることができる。 ③自分の考えを持ち、自分を表現できる真の国際人としての態度を培う。 ④生涯にわたって学び、真理探求することで今後の自己形成につなげていくことができる態度を培う。		
授業方法:	講義のほか、卒業研究に関する発表および討論・助言、個別の執筆指導などの方法で進めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。	
	2. 卒業論文の構成、文章作法	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。	
	3. 序論・研究の概要を書く	序論や研究の概要を書き進める。	
	4. 序論・研究の概要を書く	配布の『卒業論文の手引き』の該当ページを読んでおく。	
	5. 発表	各自研究を進める。	
	6. 発表	各自研究を進める。	
	7. 発表	各自研究を進める。	
	8. 発表	各自研究を進める。	
	9. 発表	各自研究を進める。	
	10. まとめ	各自研究を進める。	
	11. 発表	各自研究を進める。	
	12. 発表	各自研究を進める。	
	13. 発表	各自研究を進める。	
	14. 発表	各自研究を進める。	
	15. 発表	各自研究を進める。	
	16. 中間発表	各自研究を進める。	
	17. 中間発表	各自研究を進める。	
	18. 中間発表	各自研究を進める。	
	19. 中間発表	各自研究を進める。	
	20. 中間発表	各自研究を進める。	
	21. 個人指導	各自研究を進める。	
	22. 個人指導	各自研究を進める。	
	23. 個人指導	各自研究を進める。	
	24. 個人指導	各自研究を進める。	
	25. 個人指導	各自研究を進める。	
	26. 個人指導	各自研究を進める。	
	27. 個人指導	各自研究を進める。	
	28. ふりかえり		
	29. ふりかえり		
	30. ふりかえりと総評		
受講者へのメッセージやアドバイス:	発表の際は、自己の研究の単なる経過報告に止まらず、他者の意見が聞きたい点・議論したい点も明確に示すことで、ゼミの場が活かされます。十分な準備をして臨みましょう。		
フィードバックの方法:	授業中のほか、メールでの質問・相談にも応じます。 マナビー経由の提出物には、必要に応じマナビーでコメントを返します。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	100	卒業論文の完成度・論文作成に対して傾けた努力の度合(出席状況ならびに授業への参加度を含む)を総合的に考慮して評価する。
教科書:			
参考書:	J.V.ネウストブニー、宮崎里司共編著『言語研究の方法』(くろしお出版) 浜田麻里他著『論文ワークブック』(くろしお出版) S・B・メリアム『質的調査法入門』(ミネルヴァ書房) ゾルタン・ドルニエイ『外国語教育学のための質問紙調査入門』(松柏社)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に、教室内で対応します。 オフィスアワーやEメールも利用してください。 yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ:	卒業論文の完成		
授業の概要:	「卒業研究」に準じる		
到達目標:	卒業論文の完成を通じ、自律的な問題解決の態度と思考力を身につける		
授業方法:	担当教員の指導を受け、卒業論文を完成させ提出する		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. なし	なし	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	「卒業研究」に準じる		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法 卒業論文	割合 100%	評価基準 「卒業研究」の合格を必要条件とし、主査及び副査により下記の点を審査して評価する。卒業論文は、担当教員より十分な指導を受け、所定の期限内に提出されたものでなければならない。 (1) 卒業論文の完成度。 (2) 卒業論文の書式等が「卒業論文作成ガイド」(学科で配布)に準拠していること。 ※卒業論文は、原則として、論文形式で提出する。ただし、分野やテーマの特性上、論文形式になじまない場合は、指導教員の許可と学科主任の承認を受けて、論文相当の成果物を提出することができる。
教科書:	なし		
参考書:	担当教員の指示による		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力		
教員との連絡方法:	「卒業研究」の授業		

授業テーマ:

日本語学の研究方法

授業の概要:

主に、コーパスに立脚した言語研究の方法を扱う。コーパスからのデータ取得と、テキストファイル処理の技術を身につける。コーパスを用いた研究例や研究にあたって注意すべき点を学ぶ。各自関心のある問題について分析を行い、議論する。

到達目標:

コーパスを用いて日本語の研究を行う上での問題点を理解し、自らデータを取得・加工し、分析に利用できる技術を身につける。

授業方法:

講義・講読・実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 授業内容の説明	
	2. 回により、講義、文献の講読、データ取得・処理の実習、課題発表、議論 以下同じ	指定された文献を事前に読み、課題を行ってくる。また授業後も、各自で自主的な練習を行うこと。
	3. 総まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

ノートPC(Windows)を持っている人は持参、持っていない人はUSBメモリー等を持参のこと。毎回、相当量の課題がある。それらを行って来ない場合、授業の理解は困難である。

フィードバックの方法:

課題については総括的にコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	毎回の課題	40	課題を通じて、到達目標に向けての進歩が見られたかを評価する。
	授業への参加態度	30	授業へのとりくみを通じて、到達目標に向けての進歩が見られたかを評価する。
	最終レポート	30	コーパスを用いた日本語分析の力がついたかを評価する。

教科書:

参考書:

『講座日本語コーパス6 コーパスと日本語学』朝倉書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

マナビーから、または、面談

授業テーマ:

ヘボン訳新約聖書マタイ伝を読む

授業の概要:

ヘボン訳マタイ伝(全28章)を「明治元訳」および『和英語林集成』との関係を調べながら読み進める。

到達目標:

日本最初の公的和訳聖書(委員会訳)に果したヘボン訳の歴史的意義を明らかにする。

授業方法:

演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 研究対象の説明	ヘボンについて学習しておくこと。
	2. 調査方法の説明	
	3. 第1章の検討	授業で検討する章について事前に「明治元訳」との比較および『和英語林集成』所収語の有無を調査しておくこと
	4. 第2章の検討	同上
	5. 第3章の検討	同上
	6. 第4章の検討	同上
	7. 第5章の検討	同上
	8. 第6章の検討	同上
	9. 第7章の検討	同上
	10. 第8章の検討	同上
	11. 第9章の検討	同上
	12. 第10章の検討	同上
	13. 第11章の検討	同上
	14. 第12章の検討	同上
	15. 第13章の検討	同上
	16. 第14章の検討	同上
	17. 第15章の検討	同上
	18. 第16章の検討	同上
	19. 第17章の検討	同上
	20. 第18章の検討	同上
	21. 第19章の検討	同上
	22. 第20章の検討	同上
	23. 第21章の検討	同上
	24. 第22章の検討	同上
	25. 第23章の検討	同上
	26. 第24章の検討	同上
	27. 第25章の検討	同上
	28. 第26章の検討	同上
	29. 第27章の検討	同上
	30. 第28章の検討	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前に現代語訳『マタイ伝』を読んでおくこと。

フィードバックの方法:

授業中に回答する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	新しい発見がなされているかを重視する。
	発表	50	正確な事前調査が行われているかを重視する。

教科書:

用いない。こちらで本文のコピーを用意する。

参考書:

授業時に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ：『和泉式部日記』を読む。

授業の概要：各回、発表。

到達目標：読書の中から研究題目を見つけ出す。

授業方法：演習発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 概説、担当箇所割り振り。	なし
	2. 担当箇所1、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	3. 担当箇所2、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	4. 担当箇所3、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	5. 担当箇所4、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	6. 担当箇所5、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	7. 担当箇所6、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	8. 担当箇所7、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	9. 担当箇所8、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	10. 担当箇所9、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	11. 担当箇所10、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	12. 担当箇所11、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	13. 担当箇所12、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	14. 担当箇所13、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	15. 担当箇所14、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	16. 担当箇所15、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	17. 担当箇所16、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	18. 担当箇所17、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	19. 担当箇所18、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	20. 担当箇所19、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	21. 担当箇所20、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	22. 担当箇所21、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	23. 担当箇所22、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	24. 担当箇所23、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	25. 担当箇所24、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	26. 担当箇所25、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	27. 担当箇所26、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	28. 担当箇所27、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	29. 担当箇所28、レジュメ発表。	当該箇所を読んでくる。
	30. 担当箇所29、レジュメ発表。レポート提出	当該箇所を読んでくる。レポートを完成させておく。

受講者へのメッセージやアドバイス：研究題目を見つける姿勢で、本を読むこと。

フィードバックの方法:	レポート
-------------	------

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	60	満点を60%とする。
	出席	40	全出席を40%とする。

教科書：各自自由。

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:	eメール
-----------	------

授業テーマ:

今日の社会と日本語教育

授業の概要:

「留学生10万人計画」以降の日本語教育の変遷を取り上げ、社会と外国語教育がどのように関わるかを考える。

到達目標:

①「留学生10万人計画」以降の日本語教育を取り巻く社会的状況を理解すること
②①の状況下において、日本語教育がどのような質の変化を見せたかを理解すること
③社会のありようが外国語教育にどのように影響するか、その仕組みを国内の日本語教育の変遷を通して学ぶこと

授業方法:

演習形式。「留学生10万人計画」以降の日本語教育を4期に分け、実際の新聞記事などの読解やニュース・特集番組などの視聴を通して、社会の流れとそれによって日本語教育がどのような影響を受けたか、今日の日本語教育に何が求められているかを考える。したがって、ほとんど毎回VTRを視聴する。また、各期テーマを設け、それについて各自調べ発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	修士課程で学ぶことに関するオリエンテーション	レジメを読んでおく。
2.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 1	「留学生10万人計画」について調べておく。発表が当たっている場合は準備する。
3.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
4.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
5.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
6.	「留学生10万人計画」以降の「教員養成期」「機関整備期」を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
7.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
8.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
9.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
10.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
11.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
12.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 6	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
13.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 7	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
14.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 8	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
15.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」について解説する。 9	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
16.	「留学生10万人計画」以降の「定住外国人急増期」を理解する。 10	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
17.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」を理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
18.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」について理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
19.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」を理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
20.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」を理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
21.	「留学生10万人計画」以降の「日本語教育見直し期」を理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
22.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きについて理解する。 1	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
23.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きを理解する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
24.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きを理解する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
25.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きを理解する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
26.	日本語教育に関わる今日の新しい社会の動きを理解する。 5	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
27.	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れを踏まえた上で、今後の課題について検討する。 1	「留学生10万人計画」以降の動きをまとめた上で、レジメを読んでおく。
28.	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れを踏まえた上で、今後の課題について検討する。 2	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
29.	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れを踏まえた上で、今後の課題について検討する。 3	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。
30.	「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れを踏まえた上で、今後の課題について検討する。 4	レジメを読んでおく。発表が当たっている場合は準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中並びに前後に対応する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法		評価基準
	授業への積極的な参加度	割合 60%	
	発表	40%	教師への質疑応答並びに発表者への質疑応答などを通して、到達目標①～③がいかに達成されたかを評価する。ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。
教科書:	マナビー参照のこと。		発表内容とその仕方を、①～③の観点から評価する。
参考書:	都度、指示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力		
教員との連絡 方法:	以下のアドレス使用すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp		

授業テーマ：

近世演劇と出版文化

授業の概要：

17世紀以降、三都を中心に普及した印刷・出版の影響は大きく、古典や先行作品の利用が容易になることによって、江戸時代の表現技法は磨かれた。いっぽう都市機能の整備が進んで、芝居興行が制度化されると、ここに、演劇と出版が結びつき、新たな動きがはじまる。元禄歌舞伎を中心に、出版による芸評の成立と、その後の演劇書の多様な展開について述べる。

到達目標：

①授業内容の理解。②疑問点・問題点の指摘。③各自の課題の発見。

授業方法：

講義を基本として、適宜、発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業テーマの趣旨説明(毎回、資料配布)	適宜、参考文献を通覧する。
2.	江戸時代前期の都市と出版①	配布資料と参考文献の通覧。
3.	江戸時代前期の都市と出版②	配布資料と参考文献の通覧。
4.	江戸時代前期の都市と出版③	配布資料と参考文献の通覧。
5.	芸能興行体制の確立①	配布資料と参考文献の通覧。
6.	芸能興行体制の確立②	配布資料と参考文献の通覧。
7.	芸能興行体制の確立③	配布資料と参考文献の通覧。
8.	17世紀の演劇資料概説①(番付1)	配布資料と参考文献の通覧。
9.	17世紀の演劇資料概説②(番付2)	配布資料と参考文献の通覧。
10.	17世紀の演劇資料概説③(狂言本1)	配布資料と参考文献の通覧。
11.	17世紀の演劇資料概説④(狂言本2)	配布資料と参考文献の通覧。
12.	17世紀の演劇資料概説⑤(狂言本3)	配布資料と参考文献の通覧。
13.	17世紀の演劇資料概説⑥(評判記1)	配布資料と参考文献の通覧。
14.	17世紀の演劇資料概説⑦(評判記2)	配布資料と参考文献の通覧。
15.	17世紀の演劇資料概説⑧(評判記3)	配布資料と参考文献の通覧。
16.	『役者口三味線』を読む①	配布資料と参考文献の通覧。
17.	『役者口三味線』を読む②	配布資料と参考文献の通覧。
18.	『役者口三味線』を読む③	配布資料と参考文献の通覧。
19.	『役者口三味線』を読む④	配布資料と参考文献の通覧。
20.	芸評と芸談①	配布資料と参考文献の通覧。
21.	芸評と芸談②	配布資料と参考文献の通覧。
22.	芸評と芸談③	配布資料と参考文献の通覧。
23.	『役者論語』をよむ①	配布資料と参考文献の通覧。
24.	『役者論語』をよむ②	配布資料と参考文献の通覧。
25.	『役者論語』をよむ③	配布資料と参考文献の通覧。
26.	『役者論語』をよむ④	配布資料と参考文献の通覧。
27.	八文字屋版演劇書出版の展開①	配布資料と参考文献の通覧。
28.	八文字屋版演劇書出版の展開②	配布資料と参考文献の通覧。
29.	八文字屋版演劇書出版の展開③	配布資料と参考文献の通覧。
30.	八文字屋版演劇書出版の展開④	配布資料と参考文献の通覧。

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：

Eメールでレポートの講評をする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	60	講義の趣旨の理解
	授業への参加度	40	授業中の発言

教科書：

参考書：

守隨憲治・秋葉芳美共撰『歌舞伎図説』(『守隨憲治著作集・別巻』笠間書院)
赤間亮著・早稲田大学演劇博物館編『図説／江戸の演劇書』八木書店
歌舞伎評判記研究会編『歌舞伎評判記集成』I期(全10巻・別巻1)岩波書店
郡司正勝校注『役者論語』(日本古典文学大系『歌舞伎十八番集』所収)岩波書店
今尾哲也『役者論 評注』玉川大学主出版部
土田衛校訂「けいせい浅間嶽」(『新日本古典文学大系』「上」方歌舞伎集」所収)岩波書店
広瀬千紗子「歌舞伎役者論」(熊倉功夫編『日本の近世』11「伝統芸能の展開」所収)中央公論社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法：

Eメール(アドレスは授業中に指示)

授業テーマ：	音楽理論研究		
授業の概要：	和声・対位法（フーガを含む）の実習、および楽曲分析を各々の学生の進度に合わせ、授業を行う。		
到達目標：	楽曲分析、および調性音楽理論による高度な音楽書法の修得を目標とする。 過去の名曲といわれる楽曲を分析することにより、作曲に対する技法や時代背景を研究する。 そしてその一助となる和声法や対位法を学習する。		
授業方法：	基本としてグループレッスン形式にて行う。		
「授業内容」 および 「準備学習等の内 容」：	授業内容		準備学習等の内容
	1. 音楽理論研究 1		大学で学んだ理論科目の復習
	2. 音楽理論研究 2		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	3. 音楽理論研究 3		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	4. 音楽理論研究 4		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	5. 音楽理論研究 5		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	6. 音楽理論研究 6		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	7. 音楽理論研究 7		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	8. 音楽理論研究 8		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	9. 音楽理論研究 9		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	10. 音楽理論研究 10		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	11. 音楽理論研究 11		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	12. 音楽理論研究 12		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	13. 音楽理論研究 13		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	14. 音楽理論研究 14		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	15. 音楽理論研究 15		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	16. 音楽理論研究 16		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	17. 音楽理論研究 17		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	18. 音楽理論研究 18		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	19. 音楽理論研究 19		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	20. 音楽理論研究 20		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	21. 音楽理論研究 21		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	22. 音楽理論研究 22		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	23. 音楽理論研究 23		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	24. 音楽理論研究 24		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	25. 音楽理論研究 25		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	26. 音楽理論研究 26		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	27. 音楽理論研究 27		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	28. 音楽理論研究 28		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	29. 音楽理論研究 29		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
	30. 音楽理論研究 30		前回の授業で与えられた課題の実践と復習
受講者への メッセージや アドバイス：	大学で学んだ理論科目の知識および技術を基にした授業を行う。		
フィードバックの 方法：	適宜、予習及び復習を行わせる。 授業の復習としての宿題や、次回の授業の課題準備などを課す。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法	割合	評価基準
	平常点	50	課題の実践状況など
	レポート	50	実習した課題・作品の提出など
教科書：	適宜その都度指定する		
参考書：			
獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力：	分析力、思考力、創造力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法：	オフィスアワー他		

授業テーマ:	芸術と精神病理		
授業の概要:	芸術行為の臨床的意義を、臨床心理学や精神分析の関連理論を通して考察する。音楽療法・芸術療法関連の文献(主として英語による原著)を読み解くことを通して、1)その背景となる理論を理解し、2)芸術の臨床応用の実際と可能性について討議する。		
到達目標:	・音楽療法・芸術療法の理論を習得する ・芸術の臨床応用の実際について理解する。		
授業方法:	文献の講読と討議を中心とする演習形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	イントロダクション:音楽療法・芸術療法, および精神分析の概略	次回に講読する文献の予習
	2.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議1	講読文献の予復習
	3.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議2	講読文献の予復習
	4.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議3	講読文献の予復習
	5.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議4	講読文献の予復習
	6.	音楽療法の理論に関する文献講読と討議5	講読文献の予復習
	7.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。
	8.	研究発表1	発表の準備, および発表後に受けたコメントの整理
	9.	芸術療法に関する文献講読と討議1	講読文献の予復習
	10.	芸術療法に関する文献講読と討議2	講読文献の予復習
	11.	芸術療法に関する文献講読と討議3	講読文献の予復習
	12.	芸術療法に関する文献講読と討議4	講読文献の予復習
	13.	芸術療法に関する文献講読と討議5	講読文献の予復習
	14.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。
	15.	研究発表2	発表の準備, および発表後に受けたコメントの整理
	16.	音楽療法・芸術療法の実際についての討議1	学術雑誌から、音楽療法・芸術療法に関する事例を精査する。
	17.	音楽療法・芸術療法の実際についての討議2	学術雑誌から、音楽療法・芸術療法に関する事例を精査する。
	18.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議1	講読文献の予復習
	19.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議2	講読文献の予復習
	20.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議3	講読文献の予復習
	21.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議4	講読文献の予復習
	22.	芸術と精神分析に関する文献研究と討議5	講読文献の予復習
	23.	文献内容のまとめと討議	講読した文献から関心のあるテーマを見つけ、研究発表の準備をする。
	24.	研究発表3	発表の準備, および発表後に受けたコメントの整理
	25.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議1	講読文献の予復習
	26.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議2	講読文献の予復習
	27.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議3	講読文献の予復習
	28.	芸術と精神病理に関する文献研究と討議4	講読文献の予復習
	29.	研究発表4	発表の準備, および発表後に受けたコメントの整理
	30.	芸術行為の意義についての総括	芸術行為の意義について、自分の言葉で語れるよう、コメントを準備する。
受講者へのメッセージやアドバイス:	履修者は、音楽理論の十分な知識と心理学の基礎知識を備えていること。また、当科目分野の専門書は英語によるものがほとんどである事情から、英語読解力も必須である。		
フィードバックの方法:	提出物は、授業内でコメントした上で返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業への積極的な参加	60%	文献の予復習状況と、到達目標における、音楽療法・芸術療法の理論の習得に基づく討議ができていることについて評価する。
	研究発表およびレポート課題	40%	到達目標における、芸術の臨床応用の実際についての理解に基づき、論理的な考察ができていることを評価する。
教科書:	教材はプリント配布する。		
参考書:	『音楽が創る治療空間:精神分析の関係理論とミュージックセラピー』 ナカニシヤ出版(2012年)		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	日本人は「西洋音楽」をどのように受けとめ、理解し、一方で「日本音楽」をどのように異国の人に伝えたか？	
授業の概要:	本講義では、近代以降の日本人が、文化・民族・社会・音楽の関係をどのように捉え、「音楽」の送受信を行ってきたかを具体的な事例に基づいて考察する。 春学期は、19世紀から現代に至る日本近代音楽史に大きな位置を占めている「西洋芸術音楽／ポピュラー音楽」の導入と定着のプロセスを、「文化の振興」という切り口で読み解き、あわせて近代日本に着座した「西洋音楽」が世界の音楽市場でどのように位置づけられるのかをも探る。 秋学期は、日本人が創造／伝承してきた多様な「日本の伝統音楽」が、国外にどのように発信されたかについて、「脱コンテクスト化」された事例にもとづいて考察する。その際、日本音楽を受けとめた外国人の行動意識、発信のための人的ネットワーク、音楽実践における身体との関連性に着目して考察する。	
到達目標:	一年間の分析考察作業を通して、1)音楽文化の再生産の背後にある仕掛けを見抜く洞察力を養い、2)映し出される日本音楽の創出と伝承の特性を見出す力を養う。	
授業方法:	講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 日本音楽文化の世界にどのように扉をあけ、西洋をどのように観察したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	2. 世界に発信された日本音楽文化は西洋からどのように観察されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	3. 官立音楽学校において「西洋芸術音楽」の受容システムはいかに構築されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	4. 私立音楽学校において「西洋芸術音楽」の実践はどのように推進されたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	5. 総合大学において「西洋芸術音楽」をどのように取り入れたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	6. 一般企業において西洋音楽をどのように宣伝媒体として取り込んだか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	7. 西洋音楽をどのように企業がサポートしたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	8. 西洋のポピュラー音楽がラジオというメディアによってどのように拡散していったか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	9. 日本人演奏家がどのようにして「西洋芸術音楽」を生業とできるようになったか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	10. 亡命音楽家が日本の「西洋芸術音楽」の振興にどのように貢献したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	11. 第二次世界大戦後の音楽振興(ポピュラー音楽)に誰が手を差しのべたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	12. ポピュラー音楽は、現在、どういうネットワークのなかにおかれているのか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	13. グローバル化にみるポピュラー音楽の行方	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	14. ポピュラーミュージシャンを生み出すプロダクションの戦略	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	15. 世界音楽史における近代日本音楽史の特質とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	16. 伝統音楽の脱コンテクスト化とは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	17. 日本の音楽はだれによって発見され、国外に連れ出されたのか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	18. 近代化の道を歩みはじめた時、伝統音楽はどういう危機に遭遇したか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	19. 欧米ツアーに連れ出された江戸の音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	20. 西洋人創作オペラに引用された日本音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	21. 外地でのラジオ放送が在留邦人の音楽体験に与えたもの	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	22. 能の宗家による外地での公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	23. 日本伝統音楽の外地での教習の実態	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	24. 新作狂言に魅了される現代の聴衆	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	25. 現代音楽に組み込まれた和太鼓	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	26. 映画音楽に組み込まれた和楽器	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	27. 現代の近世邦楽の海外公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	28. 現代の歌舞伎の海外公演	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	29. 津軽三味線の世界ツアー	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	30. 文化・民族・社会・音楽の関係(総括)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。	

フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	55%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	25%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
	発表、ディスカッション	20%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に、適宜、提示する。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:

作曲家/演奏家の視点から見た声楽作品研究

授業の概要:

ドイツ歌曲やオペラ等の声楽作品が作曲されるにあたり、作曲時の生活環境や心理状態が、作品に何らかの影響を及ぼしていると考えられる。それを演奏するにあたり、関係文献を精読、分析し、パフォーマーからの目で見たい解釈を進めていく。

到達目標:

1. 参考文献の精読による理解と解説力。
2. 歌詞の解釈と表現力。
3. 声の出し方。

授業方法:

授業開始ににイタリア、ドイツ、日本の声楽作品から研究作品を決め、その時代の文献を精読し、授業内での発表と実演を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
3.	発声と歌唱(2) 発声の仕方と楽曲へのアプローチ	次週の発表についての準備。
4.	作曲家研究発表 1	資料を作成し、配布できるように準備。
5.	発声と歌唱(3) より煮詰めた歌唱	歌唱作品の音楽上の準備。
6.	発声と歌唱(4)	平素より声を出すトレーニングをしておく。
7.	発声と歌唱(5)	
8.	作曲家研究発表 2	資料作成と配布の準備。
9.	発声と歌唱(6)	
10.	発声と歌唱(7)	
11.	発声と歌唱(8)	
12.	作曲家研究発表 3	資料作成と配布の準備。
13.	発声と歌唱(9)	
14.	発声と歌唱(10)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。
15.	まとめ+α	資料作成と配布の準備。
16.	春学期とは違うジャンルの作曲家研究。	歌曲かオペラ作品かを事前に決定しておくこと。
17.	発声と歌唱(11) 発声について自分流を開発する。	歌唱に入れるように譜読みをしておく。
18.	発声と歌唱(12)	声のトレーニング。
19.	作曲家研究発表 4	資料作成と配布準備。
20.	発声と歌唱(13)	
21.	発声と歌唱(14)	
22.	作曲家研究発表 5	資料作成と配布準備。
23.	発声と歌唱(15)	
24.	発声と歌唱(16)	
25.	発声と歌唱(17)	
26.	作曲家研究発表 6	資料作成と配布準備。
27.	発声と歌唱(18)	
28.	発声と歌唱(19)	
29.	発声と歌唱(20)	歌唱と最終段階での資料まとめに入る。
30.	総括	資料作成と配布の準備。
1.	授業説明と研究作品についての質疑応答。	授業開始までに自分であらかじめ研究作曲家を決めておく。
2.	発声と歌唱(1) 声を出すこととは	発声についての準備はいらないが、研究作曲家については文献の精読を開始しておく。 歌唱作品についての譜読み。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

発表毎に教室にて解説をします。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表、討論	40%	研究レポートをもとに説明の仕方と質疑応答などの理解度を段階的に評価する。
	授業への参加度	60%	演習の歌唱における発声と発音の到達度と、質疑応答の参加度を段階的に評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメール(tinoue@dwc.doshisha.ac.jp)

授業テーマ:

すぐれた文学作品を精読する。

授業の概要:

受講生と話し合いの上、とりあげる作品を決定し、それを分析していく。

到達目標:

小説の言語は、一つの単純な辞書的な意味に還元できるものではなく、様々なイメージを喚起する強い力を持っている。それをじっくりと味わい、作品の世界を豊かに立ち上げることをめざす。

授業方法:	演習	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 打ち合わせ(春学期)	なし
	2. 芸術としての文学を読むためのトレーニング	前回の指示に従うこと
	3. 芸術としての文学を読むためのトレーニング	前回の指示に従うこと
	4. 芸術としての文学を読むためのトレーニング	前回の指示に従うこと
	5. 芸術としての文学を読むためのトレーニング	前回の指示に従うこと
	6. 受講生による作品研究	発表準備
	7. 受講生による作品研究	発表準備
	8. 受講生による作品研究	発表準備
	9. 受講生による作品研究	発表準備
	10. 受講生による作品研究	発表準備
	11. 受講生による作品研究	発表準備
	12. 受講生による作品研究	発表準備
	13. 受講生による作品研究	発表準備
	14. 受講生による作品研究	発表準備
	15. ふりかえり	なし
	16. 打ち合わせ(秋学期)	発表準備
	17. 受講生による作品研究	発表準備
	18. 受講生による作品研究	発表準備
	19. 受講生による作品研究	発表準備
	20. 受講生による作品研究	発表準備
	21. 受講生による作品研究	発表準備
	22. 受講生による作品研究	発表準備
	23. 受講生による作品研究	発表準備
	24. 受講生による作品研究	発表準備
	25. 受講生による作品研究	発表準備
	26. 受講生による作品研究	発表準備
	27. 受講生による作品研究	発表準備
	28. 受講生による作品研究	発表準備
	29. 受講生による作品研究	発表準備
	30. ふりかえり	なし

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

教室で解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	50	到達目標の作品の世界を的確に分析できているかを評価する
	レポート	50	到達目標の作品の世界を的確に分析できているかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール

授業テーマ:	日本古典文学研究法		
授業の概要:	日本文化の隆盛期である平安時代を主な対象とし、そこで成立した仮名文学の文学的研究を行う。具体的には古典文学作品(特に物語文学、和歌文学)を据え、本文解釈・用例検討などを通して、文学の本質に迫っていく。あわせて論文執筆の指導も行う。		
到達目標:	大学院の専門科目として、知識や考え方の幅を広げていくのみならず、文学研究としての本文読解を深めていき、そこから独自の研究視点が持てるようになってほしい。修士論文をめざしての論文作成についてもレベルアップしてほしい。		
授業方法:	講義及び演習(個人研究発表)		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. ガイダンス及びスケジュール調整	卒業論文など、個人発表できるものを準備する	
	2. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	3. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	4. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	5. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	6. 修士論文へ向けてのガイダンス	テーマについて考えておく	
	7. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	8. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	9. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	10. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	11. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	12. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	13. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	14. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	15. 夏休みの自主学習に向けてのガイダンス及び秋学期のスケジュール調整	夏休みの研究予定を考えておく	
	16. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	17. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	18. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	19. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	20. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	21. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	22. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	23. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	24. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	25. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	26. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	27. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	28. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	29. 各自の研究発表及び討議	個人発表の準備	
	30. 総括	レポートの準備	
受講者へのメッセージやアドバイス:	幅広く学んでほしい		
フィードバックの方法:	各自の発表については、その場で意見や批判を行う。レポートについては朱を入れて返却し、直ちに修正・再提出してもらう。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法 レポート	割合 100	評価基準 レポートの内容・分量などを総合的に判断して評価する
教科書:	特になし		
参考書:	特になし		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	研究室での対応及びメールでのやりとり		

授業テーマ:

ひととまちの景観:「まちを生きる」諸相からみえる「まちの姿」を、住まいから出発して、界隈を散策し、そして、周辺郊外へと遠出する仮想のルートを辿って、近現代京都の風景の成り立ちと変容を理解する。その途上、さまざまな媒体に表現される京都イメージや、また海外都市のすまいの事情との比較により、虚実入り交じった京都のイメージ世界を探索してみよう。

授業の概要:

よくも悪しくも人間社会がつくり出してきた都市的環境を人がどのように捉えてきたかという、人と環境の関係の歴史(履歴)認識には、虚実が交錯する都市景観のイメージが伴っている。モノの変化としての都市の変貌は記録できるものであるが、人の係わり(文化的・歴史的な慣習の変容を伴う)の履歴は、それぞれの時代を生きたひとびとの共通了解として共有されながら、それとして記録されにくい。都市環境への人の係わりのイメージ表現として景観を捉えると、そのイメージを記録する媒体にはいろいろなものがある。本講義では、文学作品やエッセイそして映画などに表現される都市イメージ、あるいは都市計画の構想や事業の経過、そして都市の町並みや建築自体を、都市環境と人間(社会)の係りの記憶装置や痕跡、あるいは媒体として捉え、都市景観の多彩な立ち現れ方を解釈する方法について演習する。その具体的なフィールドが近現代の京都だが、京都を相対化するために他の都市文化を参照する。履修には、院生の側の上記問題への関心が前提であるから、授業には院生による問題発掘を期待するため、できるだけ時間に余裕のある修士1年生や博士後期1年生での履修を推奨する。

到達目標:

1.理論的目標都市相貌を景観と受け取る通俗的な理解に止まらず、土地の風土的な特性の表現のひとつが「都市景観」であることを、人文科学的に理解する。
2.表現媒体の多様性現実の都市街区に止まらず、都市景観の現象はさまざまな表象媒体におよんでいることを理解すると、都市文学、都市映像、そして都市計画などの表現手段の多様性が理解できる。
3.歴史的経緯の尊重土地の風土的特徴の形成には、それなりの歴史的文化的経緯がかかわっていることを理解する。
4.風評への批判力時代ごとに流行る景観イメージの虚実に対する批判力を知的に形成する。

授業方法:

ゼミ室での講義・演習を主とするが、テーマが決まった段階で受講生が実地調査や資料探索をするアドヴァイスを適宜、個人別にする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:風土と景観と風景:文献紹介	参考書などを大学・公設図書館で探索する場合の助言を行う。
2.	原論演習1「風土」「景観」「風景」とは何か	基本的に準備的学習は不要だが、授業で紹介した参考文献を個人的に消化するのは、授業時間外の受講生の努力に負うことになる。以下、すべて同じ。
3.	原論演習2	
4.	講義 京都のすまい方の風景:エッセイを通してみる町家のくらし	見学できる町家を紹介
5.	講義 同上(続き)	
6.	講義 欧州都市のすまいの風景(1):ロンドンにあって京都にないもの	都市を舞台とした映画を紹介するので、授業外にビデオでみることを推奨する。
7.	講義 欧州都市のすまいの風景(2):英国映画にみる都市住まい	
8.	講読 京都の路地と辻子(1):エッセーにみる都市遊歩	類似エッセーの読書
9.	講読 京都の路地と辻子(2):都市史研究にみる辻子と路地	参考文献紹介
10.	講読 京都の路地と辻子(3):京都映画にみるまちの界隈の記憶	都市を舞台とした映画を紹介するので、授業外にビデオでみることを推奨する。
11.	講義 欧州都市のすまいの風景(3) 資料紹介:パリにあって京都にもあるもの	
12.	講義 欧州都市のすまいの風景(3) 資料紹介:パリにあって京都にないもの	
13.	講義 欧州都市のすまいの風景(5):映画にみるパリ住まいと界隈	都市を舞台とした映画を紹介するので、授業外にビデオでみることを推奨する。
14.	講義 近代京都の道路景観の変容(1):明治と大正	受講生自身がまち歩きをすることを推奨する。
15.	講義 京都近代の道路景観の変容(2):戦前昭和	同上
16.	中間発表1 受講生の関心テーマについて、発表と議論	
17.	中間発表2 同上	
18.	講義 戦後京都のまちの変容:広幅員道路の誕生	
19.	講義 戦後京都のすまいの変容:まちやとマンション	見学できる町家を訪ねた印象をベースにしなが
20.	講義 戦後京都の都市景観の変容	
21.	講義 まちの風景(1):現代の京都が失ったものとパリが得たもの	
22.	講義 まちの風景(2):同上	
23.	討議 現代のまちの観察(1) 京都の魅力は町家にあるのか	
24.	討議 現代のまちの観察(2) 京都は町家で生き残れるのか	
25.	討議「京都の歴史イメージと現代」	
26.	受講生発表1 調査・研究成果の発表	
27.	受講生発表2 調査・研究成果の発表	
28.	まとめ	
29.	レポート講評(1)	
30.	レポート講評(2)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

後期授業。講義にはビデオ・パソコンによるプログラム・紙媒体の資料などを使用し、実地見学に出ることがある。受講者は、授業中に紹介する文献や映像資料などを出発点として、自分が関心する京都についての著作や問題について、主体的に調査して面白い問題を掘り出してほしい。対象は文学・エッセイ・映画あるいは祭礼などのイベント、特定の歴史的な事象など、ジャンルは問わない。過去或いは現在の具体的な問題を取り上げてもよい。例えば、京都を描いた文学作品に関しては、いくつか編集されている『京都文学散歩』が参照できる。映画であれば、制作年代の京都のまちのイメージが背景に見え隠れする。作品に描かれる京都イメージの成り立ちやその虚実の関係を分析し授業中に発表してほしい。最終的にレポートにまとめる。試験はない。主題選択には相談に応ずる。少人数授業のため、欠席予定の際は、事前連絡を送ること。

フィードバックの方法:

中間発表へのコメントや講評は口頭で行う。授業中の質問には適宜応じる。最終的には、期末レポートを提出してもらうが、個別に講評結果をメールにて回答する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	出席は8割以上ないと、内容が理解できない。
	中間発表への出席と内容	30	
	最終レポートの提出	40	

教科書:

参考書:

丸山・伊従・高木編『みやこの近代』思文閣出版、2008年
同上編者『近代京都研究』思文閣出版、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

授業中にメールアドレスを伝える

授業テーマ:	日本における一年の暮らしと芸能	
授業の概要:	全国各地には様々な祭礼や芸能がある。祭や芸能は「〇〇祭」として、それだけを取り上げられることが多い。芸能それ自体の研究も重要であるが、一年間の行事・祭礼・芸能は、それぞれの地域の自然や生業と、密接な関係にある。本講では、一年を通しての、全国各地の人々のさまざまな暮らしや生産活動を取り上げ、それに関わる行事や祭礼に込められた人々の想いを追求していきたい。さらにそれらの生活の中で発生し、伝えられてきた祭礼や芸能と、芸能それ自体の発展、変容についても講じていきたい。また、日本全国の具体事例を知るために映像資料を多用する。 ただし、大学院生対象の講義であることから、受講生が少ない場合、その受講生の専門性に関わる民俗学の著作や論文をテキストにし、講読を行う場合もある。	
到達目標:	(1)祭や芸能が単独で存在してきたわけではなく、人々の生活の中ではなくてきた民俗であることを確認できる。 (2)学生諸氏にとっては、祭礼や芸能の中にとどめられている歴史性や文学性、あるいは宗教性や芸術性に気づき、専門との関わりを持たせることができる。	
授業方法:	5:講義/演習の混合	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス:講義の進め方を説明する。受講生の人数と専門性を確認し、それによって、受講生の専門と関わりの深い書籍、論文の講読に変更することもあり得る。あるいは、春学期は講義形式にし、秋学期を講読にすることもあり得る。 2. マクロな視点から見た日本の地域:バリエーション豊富な自然と様々な言語・文化などから、日本の南北、日本の東西、農村と山村(水田耕作と焼き畑)、中央と地方(都市と農村)などの区分について概観する。 3. 日本の地域(その1):雪国の暮らし 4. 日本の地域(その2):南島の暮らし 5. 日本の地域(その3):山村の暮らし 6. 日本の地域(その4):漁村の暮らし 7. 日本の地域(その5):湖岸の暮らし 8. 日本の地域(その6):焼き畑をする暮らし 9. 日本の地域(その7):畑作民の暮らし 10. 日本の地域(その8):狩猟民の暮らし 11. 日本の地域(その9):水田耕作民の暮らし 12. 生業サイクルと四季の祭:冬から春の祭、夏の祭、秋の祭、それぞれが持つ意味を考える。 13. 冬から春の祭(予祝行事):愛知県花祭り、静岡県西浦田楽などの事例から 14. 夏の祭(厄払い行事 その1):京都祇園会の事例から 15. 夏の祭(厄払い行事 その2)と盆:京都やすらい花、夏越の祓、そして馬音内盆踊りなどから 16. 秋の祭(収穫感謝祭):熊本県球磨地方などの事例から 17. 都市の祭(その1):滋賀県長浜市曳山祭、福井県小浜祭などの事例から 18. 都市の祭(その2):大阪市天神祭、長崎くんちなどの事例から 19. 修験系行事:岩手県早池峰神楽、黒森神楽などの事例から 20. 神楽:京都市太田神社巫女舞、石清水八幡宮の御神楽などの事例から 21. 言祝ぐ行事:三河万歳、秋田万歳、佐渡の春駒などから漫才へ 22. 仏教行事(その1):当麻寺練供養、四天王寺の聖霊会などから 23. 仏教行事(その2 念仏・説経):京都市六歳念仏や空也堂踊躍念仏、節談説経などから 24. 芸能の展開の道筋:これまで見てきた芸能の流れを整理する。 25. 仏教行事(その3 教化の芝居):千葉県鬼来迎、京都市壬生狂言などから芝居へ 26. 唱える芸能:念仏、声明から歌へ 27. 語る芸能:青森のイタコ、そして説経節、義太夫、そして浪曲、落語 28. 歌う芸能:様々な民謡と歌 29. 見せる芸能:江戸期に展開した芝居文化 30. 総括:人の暮らしと芸能の関係を整理し、確認する。	網野善彦『東と西の語る日本の歴史』など東西を論じる書籍に目を通してみる。 市川健夫『雪国の自然と暮らし』などに目を通してみる。 伊波普猷『をなり神の島 1』などに目を通してみる。 湯川洋司『変容する山村ー民俗再考』などに目を通してみる。 山口徹『海的生活誌 ー半島と島の暮らし』などに目を通してみる。 橋本鉄男『琵琶湖の民俗誌』、長谷川嘉和『近江の民具ー滋賀県立琵琶湖博物館の収蔵品から』などに目を通してみる。 佐々木高明『日本の焼き畑』などに目を通してみる。 白石昭臣『畑作の民俗』などに目を通してみる。 山村民俗の会『狩猟 ー狩りの民俗と山の動物誌』などに目を通してみる。 坪井洋文『稲を選んだ日本人』などに目を通してみる。 早川孝太郎『花祭り』などに目を通してみる。 脇田晴子『中世京都と祇園祭ー疫神と都市の生活』などに目を通してみる。 山路興造『京の歳時記 今むかし』などに目を通してみる。 三隅治雄『踊りの宇宙ー日本の民族芸能』などに目を通してみる。 植木行宣、福原敏男『山・鉾・屋台行事ー祭りを飾る民俗造形』などに目を通してみる。 米山俊直『天神祭ー大阪の祭礼』などに目を通してみる。 宮古市教育委員会『黒森神楽<資料篇>ー無形民俗文化財』などに目を通してみる。 本田安次『日本の民俗芸能<第1>神楽(1966年)』などに目を通してみる。 小沢昭一『芸人の肖像』などに目を通してみる。 五来重『仏教と民俗 仏教民俗入門』などに目を通してみる。 梅原猛、西川 照子『壬生狂言の魅力ー梅原猛の京都遍歴』などに目を通してみる。 五来重『踊り念仏』などに目を通してみる。 岩崎武夫『さんせう太夫考ー中世の説経語り』などに目を通してみる。 町田嘉章、浅野建二『日本民謡集』などに目を通してみる。 服部幸雄『大いなる小屋 江戸歌舞伎の祝祭空間』などに目を通してみる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

このラインナップはあくまで目安であり、それぞれの専門性に関わる分野を拡大したり、あるいは専門性に合わせた著作、論文を読む形で講義を進めることも可能である。民俗学に興味のある学生から相談を受けた場合は臨機応変に対応したい。

フィードバックの方法:

人数であることが予想されるため、質問等には直接対応できると思われる。また、最終的なレポートは、返却の予定はないが、希望者にはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	小論文	60	それぞれの専門性に関わらせて、民俗学を理解し、応用できているかどうかを、レポート内容によって評価する。
	発言	40	講義時にどれだけ積極的に考え、発言したかを評価する。

教科書:

参考書:

準備学習等の内容に取り上げた書籍をはじめ、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、

教員との連絡方法:

講義時に対応する。Eメールも可能。講義時にアドレスを伝える。

授業テーマ：	天皇陵の考古学	
授業の概要：	かつて考古学は「狭義の歴史学(文献史学)の補助学」であるとか、「文献が残っていない時代だけを扱う学問」であるとか思われてきたけれども、近年の考古学の進展はそんなような考え方がすでに過去のものになったことを如実に語ってくれている。今や、考古学の成果を抜きにしては歴史を語ることはできないのである。この講義では、考古学とはどういう学問であり、また考古学が解き明かす歴史とはどのようなものであるかを、具体例に即して理解していただく。	
到達目標：	考古学の研究の方法論を、具体的な遺跡・遺物によって学ぶやりかたを理解する。また、文献史学と考古学の相互関係を、これも具体的事例をもとに理解することができるようにする。	
授業方法：	デジタルカメラやビデオによる映像を使用しながら授業を進める。今出川キャンパス周辺の博物館や史跡の見学をとりいれ る。なお、自主的に各地の遺跡や遺跡博物館の実地見学をするなど、積極的に学ぶ意欲のある学生の参加を希望する。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 天皇陵問題とは何か	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	2. 天皇陵の概念	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	3. 天皇陵の沿革と制度	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	4. 天皇陵研究の歴史1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	5. 天皇陵研究の歴史2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	6. 天皇陵研究の歴史3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	7. 天皇陵研究の歴史4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。
	8. 古墳時代前期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	9. 古墳時代前期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	10. 古墳時代前期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	11. 古墳時代前期の大王墓4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	12. 古墳時代中期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	13. 古墳時代中期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	14. 古墳時代中期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	15. 古墳時代中期の大王墓4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	16. 古墳時代後期の大王墓1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	17. 古墳時代後期の大王墓2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	18. 古墳時代後期の大王墓3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	19. 飛鳥時代の天皇陵1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	20. 飛鳥時代の天皇陵2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	21. 飛鳥時代の天皇陵3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	22. 奈良時代の天皇陵1	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	23. 奈良時代の天皇陵2	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	24. 奈良時代の天皇陵3	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。
	25. 奈良時代の天皇陵4	考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。

- | | | |
|-----|-----------|--|
| 26. | 平安時代の天皇陵1 | 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。 |
| 27. | 平安時代の天皇陵2 | 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。 |
| 28. | 平安時代の天皇陵3 | 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。 |
| 29. | 平安時代の天皇陵4 | 考古学の関連書籍に目を通しておくとともに、それぞれの時代の日本史の概要を把握しておくこと。できれば、その時代の天皇陵を見学すること。 |
| 30. | まとめ | 授業での内容をまとめなおしておくこと。 |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法
大レポート

割合
50

評価基準

到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする

平常点
ミニ・レポート

30
20

積極的に授業に参加したかどうか。
到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡
方法:

FZK06736@nifty.ne.jp

授業テーマ：日本語教育とプロフィシエンシー

授業の概要：プロフィシエンシーという概念を理解し、それに基づいた教材の作成を考える。具体的には「生」ではなく「生きた」教材とは何か。その点を理解し、各技能における実際の教材作りも試みる。

到達目標：プロフィシエンシーの概念を理解し、自己にとって何が「生きた」教育であり、また、それを実現するための教育方法を知ること

授業方法：教科書を批判的に読み、積極的議論を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. OPIとプロフィシエンシー(1)	
	2. OPIとプロフィシエンシー(2)	
	3. OPIとプロフィシエンシー(3)	
	4. OPIとプロフィシエンシー(4)	
	5. OPIとプロフィシエンシー(5)	
	6. OPIとプロフィシエンシー(6)	
	7. OPIとプロフィシエンシー(7)	
	8. OPIとプロフィシエンシー(8)	
	9. 接触場面とプロフィシエンシー(1)	
	10. 接触場面とプロフィシエンシー(2)	
	11. 接触場面とプロフィシエンシー(3)	
	12. 接触場面とプロフィシエンシー(4)	
	13. 接触場面とプロフィシエンシー(5)	
	14. 接触場面とプロフィシエンシー(6)	
	15. 接触場面とプロフィシエンシー(7)	
	16. 接触場面とプロフィシエンシー(8)	
	17. 教育現場とプロフィシエンシー(1)	
	18. 教育現場とプロフィシエンシー(2)	
	19. 教育現場とプロフィシエンシー(3)	
	20. 教育現場とプロフィシエンシー(4)	
	21. 教育現場とプロフィシエンシー(5)	
	22. 教材作成とプロフィシエンシー(1)	
	23. 教材作成とプロフィシエンシー(2)	
	24. 教材作成とプロフィシエンシー(3)	
	25. 教材作成とプロフィシエンシー(4)	
	26. 教材作成とプロフィシエンシー(5)	
	27. 談話とプロフィシエンシー(1)	
	28. 談話とプロフィシエンシー(2)	
	29. 談話とプロフィシエンシー(3)	
	30. 談話とプロフィシエンシー(4)	

受講者へのメッセージやアドバイス：言葉の習得の原点は何かをしっかりと考えて欲しい。それを無視して、言語教育を語るのは邪道でしょう。

フィードバックの方法：リアクションペーパーを定期的に課し、それに対するフィードバックを送ります。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	積極的議論の展開	25	A 90 -100% B 80 - 90% C 70 - 80%
	リアクションペーパー	25	A 90 -100% B 80 - 90% C 70 - 80%
	レポート	50	A 90 -100% B 80 - 90% C 70 - 80%

教科書：鎌田修他編著(2008)『プロフィシエンシーを育てる』凡人社
鎌田修他編著(2012)『対話とプロフィシエンシー』凡人社
鎌田修他編著(2015)『談話とプロフィシエンシー』凡人社

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法：kamadaosamu@gmail.com

授業テーマ：外国人の視点から日本語・日本文化・日本人を考える

授業の概要：色々なテーマから日本人を取り巻く環境を考える
特に視点を変えて考える

到達目標：グローバルな視野を持つ

授業方法：講義＋演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. オリエンテーション	シラバスを読んで、どのようなことが期待できるかを考えて来る
	2. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(1)	「悪魔の言語」と言われた理由を考えてくる
	3. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(2)	何故オノマトペが多いのかを考えてみる
	4. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(3)	役割語について調べてくる
	5. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(4)	「やさしい日本語」は、どのようにやさしいのかを考えてくる
	6. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(5)	貴女が外国人なら、日本語を勉強するかを考えてくる
	7. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(6)	ハイ・コンテクストを調べてくる
	8. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(7)	日常生活における日本的スキーマを考えてくる
	9. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(8)	ローマ字の必要性を考えてくる
	10. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(9)	同音異義語が多い理由を考えてくる
	11. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(10)	なぜ、しりとりで「ん」を使うといけないのかを考えてくる
	12. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(11)	「文化の島」について調べてくる
	13. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(12)	言語における6技能とは、どの様なものか考えてくる
	14. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(13)	心的レキシコンとは、どの様なものか調べてくる
	15. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(14)	国語と日本語の違いを調べてくる
	16. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(15)	「やさしい日本語」とは、どんなものか、成立の背景を調べてくる
	17. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(16)	「やさしい日本語」が求めているものは、何かを考えてくる
	18. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(17)	やさしい日本語への言い換え・書き換えを調べてくる
	19. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(18)	DIGゲーム ,HUGゲームについて調べてくる
	20. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(19)	義務教育におけるマイノリティーの待遇について調べてくる
	21. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(20)	日本での在留資格について調べてくる
	22. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(21)	国際結婚について考えてくる
	23. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(22)	移住するならどこかと、その理由を考えてくる
	24. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(23)	異文化理解と多文化共生の相違点を考えてくる
	25. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(24)	スキーマの違いを考えてくる
	26. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(25)	以心伝心文化のコミュニケーションにおけるメリットを考えてくる
	27. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(26)	ステレオタイプ化された日本人像について考えてくる
	28. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(27)	サブカルチャーについて考えてくる(1)
	29. 外国から見た日本語・日本文化・日本人(28)	サブカルチャーについて考えてくる(2)
	30. まとめ	外国人の視点から日本語・日本文化・日本人について纏めてくる

受講者へのメッセージやアドバイス：毎回の課題を楽しみながらクリアーしてみましょう

フィードバックの方法：毎回のQ&Aタイムの設置

「成績評価方法」:	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	課題達成度	40	予・復習の完成度
	授業態度	40	授業における貢献度
	その他	20	全体的なバランス

教科書：特に指定しない(必要な場合は、授業にて連絡する)

参考書：特にない(ネット、新聞、書籍、論文等)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法：マナビー利用予定

授業テーマ:

平安朝文学を読む

授業の概要:

平安朝文学、主に源氏物語を対象としてその作品分析を行う。本文をどのように読み、そこからどのように研究へ発展させるかということに関して、引用や特殊表現に注目し、また文学史的な展望の中で問題を掘り下げていく。

到達目標:

自立して研究ができるようになることをめざす。そのために研究法の確立、問題点を発見する力、論理の展開、結論への導き方などを体得することをめざす。あわせて学位論文の執筆。

授業方法:	演習、討議方式	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス	発表の準備
	2. 演習及び討議	発表の準備
	3. 演習及び討議	発表の準備
	4. 演習及び討議	発表の準備
	5. 演習及び討議	発表の準備
	6. 演習及び討議	発表の準備
	7. 演習及び討議	発表の準備
	8. 演習及び討議	発表の準備
	9. 演習及び討議	発表の準備
	10. 演習及び討議	発表の準備
	11. 演習及び討議	発表の準備
	12. 演習及び討議	発表の準備
	13. 演習及び討議	発表の準備
	14. 演習及び討議	発表の準備
	15. 演習及び討議	発表の準備
	16. 演習及び討議	発表の準備
	17. 演習及び討議	発表の準備
	18. 演習及び討議	発表の準備
	19. 演習及び討議	発表の準備
	20. 演習及び討議	発表の準備
	21. 演習及び討議	発表の準備
	22. 演習及び討議	発表の準備
	23. 演習及び討議	発表の準備
	24. 演習及び討議	発表の準備
	25. 演習及び討議	発表の準備
	26. 演習及び討議	発表の準備
	27. 演習及び討議	発表の準備
	28. 演習及び討議	発表の準備
	29. 演習及び討議	発表の準備
	30. 総括	論文執筆の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

学位取得をめざして頑張ってほしい

フィードバックの方法:

口頭発表についてはそのつど意見・批判を行う。論文については質問・相談に応じ、草稿に朱をいれて完成にむけて修正を行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート(論文)	100	論文の内容によって評価する

教科書:

特になし

参考書:

特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業時及び研究室にて対応。メールでも対応する。

授業テーマ:

ヘボン訳新約聖書『馬可伝』を読む

授業の概要:

ヘボン訳『馬可伝』(全16章)の訳語を「明治元訳」および『和英語林集成』収録語と比較しながら読み進める。

到達目標:

聖書と訳史におけるヘボン訳の歴史的意義を具体的に明らかにする。

授業方法:

演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究対象とする資料の説明	ヘボンの経歴と仕事について調べておくこと。
2.	研究のために用いる資料と調査方法の考察	同時の日本語に係わる辞書にどのようなものがあったかを調べておくこと。
3.	『和英語林集成』についての説明	検討する章の文と「明治元訳」の文との比較、および『和英語林集成』所収語との関係を調査しておくこと。
4.	先行研究の一例を読む	同上
5.	第1章の検討	同上
6.	第2章の検討	同上
7.	第3章の検討	同上
8.	第4章の検討	同上
9.	第5章の検討	同上
10.	第6章の検討	同上
11.	第7章の検討	同上
12.	第8章の検討	同上
13.	第9章の検討	同上
14.	第10章の検討	同上
15.	第11章の検討	同上
16.	第12章の検討	同上
17.	第13章の検討	同上
18.	第14章の検討	同上
19.	第15章の検討	同上
20.	第16章の検討	同上
21.	疑問として残されたものの再検討①	
22.	疑問として残されたものの再検討②	
23.	気づかれた点および問題点の整理	
24.	研究報告と討議①	
25.	研究報告と討議②	
26.	研究報告と討議③	
27.	研究報告と討議④	
28.	研究報告と討議⑤	
29.	研究報告と討議⑥	
30.	研究報告と討議⑦	

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前に現代語訳の『マルコ伝』を読み込んでおくこと。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	発表	50	正確な調査が行われているかを重視する。
	レポート	50	論文としての完成度を重視する。

教科書:

こちらで本文のコピーを用意する。

参考書:

授業中に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

OA、またEメール。

授業テーマ：日本漢文学史の展望

授業の概要：平安時代から江戸時代に至る日本漢詩の流れについて、例語を挙げながら、読解し、論議する。嵯峨天皇は勅撰三集を代表する平安初期の詩人。島田忠臣は最も早く著しい白居易詩の影響を受けた詩人。菅原道真は古代を代表する詩人、というように時代を代表する詩人を取挙げるに始まり、『和漢朗詠集』は後世にも大きな影響を与えた摘句集であり、院政期を代表する『本朝無題詩』は俳句題詩を収めた平安朝最大の詩集で、和歌世界との連関する。禅林では雪村友梅・一休らの個性的な詩に触れ、江戸期には学者詩人や女流の作品を取挙げ論ずる。

到達目標：日本漢詩の広い世界を知り、日本漢詩の歴史的展開を論述すると共に、詩人一人ひとりの表現の達成を評価する。また、中国古典詩の享受と、日本文学の中における日本漢詩の位置付けについて思いをめぐらす。

授業方法：演習。毎回参加により読解を進め論議を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の進め方（導入）	
2.	嵯峨天皇詩論①	事前配布のプリントを読む
3.	嵯峨天皇詩論②	事前配布のプリントを読む
4.	嵯峨天皇詩論③	事前配布のプリントを読む
5.	島田忠臣の表現①	事前配布のプリントを読む
6.	島田忠臣の表現②	事前配布のプリントを読む
7.	島田忠臣の表現③	事前配布のプリントを読む
8.	菅原道真の詩の世界①	事前配布のプリントを読む
9.	菅原道真の詩の世界②	事前配布のプリントを読む
10.	菅原道真の詩の世界③	事前配布のプリントを読む
11.	菅原道真の詩の世界④	事前配布のプリントを読む
12.	紀長谷雄の詩	事前配布のプリントを読む
13.	藤原道長とその時代	事前配布のプリントを読む
14.	和漢朗詠集の世界①	事前配布のプリントを読む
15.	和漢朗詠集の世界②	事前配布のプリントを読む
16.	和漢朗詠集の世界③	事前配布のプリントを読む
17.	本朝無題詩の世界①	事前配布のプリントを読む
18.	本朝無題詩の世界②	事前配布のプリントを読む
19.	本朝無題詩の世界③	事前配布のプリントを読む
20.	禅林の詩人達①	事前配布のプリントを読む
21.	禅林の詩人達②	事前配布のプリントを読む
22.	禅林の詩人達③	事前配布のプリントを読む
23.	禅林の詩人達④	事前配布のプリントを読む
24.	江戸漢詩の世界①	事前配布のプリントを読む
25.	江戸漢詩の世界②	事前配布のプリントを読む
26.	江戸漢詩の世界③	事前配布のプリントを読む
27.	江戸漢詩の世界④	事前配布のプリントを読む
28.	女流詩人の出現①	事前配布のプリントを読む
29.	女流詩人の出現②	事前配布のプリントを読む
30.	まとめ	事前配布のプリントを読む

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法：すべての対応は、授業の前後やオフィスアワー、又は研究室在室時に行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート(16000字程度)	60%	日本漢詩略史として、自分自身の切り口でまとめる
	授業への積極的参加度	40%	積極的な論議、話題提供力

教科書：最初の授業時にプリント配布（無料）

参考書：授業時に随時提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法：オフィスアワー・授業前後や研究室在室時

授業テーマ:	音楽以外の芸術家が描き出し、観察した東西の音楽文化	
授業の概要:	日本には多種多様な音楽が存在し、それらを創出し奏でる芸術家、そして受容する聴衆により育まれてきた。しかしこれら両者は表裏一体の立場にあるケースも多く、双方向から音楽文化を観察している。またその中にはプロフェッショナルな立場とアマチュアの立場を往来しながら観察行為を行っているものもある。そしてそれらの人々は常にそこに存在する「境」を巧みに迂回あるいは越境し、変幻自在に視点を読み替えている。春学期は邦楽、秋学期は西洋音楽を対象として分析、考察する。	
到達目標:	本演習では、音楽以外の芸術家や文化人に焦点を絞り、かれらが音楽をどのように観察しているかを、彼らの日記や小説、評論文章を読み解きながら、1) 背後からたち現れる文化の特性について分析考察する力を向上させ、2) 音楽行動の背後にある巧みな仕掛けを見抜き、また3) どのような視点で文化を観察しているかを看守する力を修得する。	
授業方法:	講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 語ること、読むこと、聞くことの関係	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	2. 平安時代の物語作家の場合	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	3. 宣教師の観察した日本の音楽(1)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	4. 宣教師の観察した日本の音楽(2)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	5. 歌舞伎台本にみる鳴り響く音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	6. 歌舞伎評判記にみる鳴り響く音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	7. 明治期に来日した外交官が観察した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	8. 明治期に来日した民俗学者が観察した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	9. 明治期に来日した医者が観察した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	10. 大正期に来日したツーリストが観察した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	11. 大正期に来日したジャーナリストが観察した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	12. 昭和期に来日したパフォーマーが観察した音楽(1)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	13. 昭和期に来日したパフォーマーが観察した音楽(2)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	14. 昭和期に来日したジャーナリストが観察した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	15. 観察された音楽の評価の共通性と相違点の分析	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	16. 憧れの目線でみつめた西洋音楽を聴くことと理解すること	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	17. 幕末海を越えた武士が視聴した音楽(1)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	18. 幕末海を越えた武士が視聴した音楽(2)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	19. 明治期の米欧派遣団員が視聴した音楽(1)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	20. 明治期の米欧派遣団員が視聴した音楽(2)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	21. 夏目漱石が理解した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	22. 森鷗外が理解した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	23. 島崎藤村が理解した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	24. 上田敏が理解した音楽(1)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	25. 上田敏が理解した音楽(2)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	26. 石川啄木が理解した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	27. 永井荷風が理解した音楽(1)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	28. 永井荷風が理解した音楽(2)	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	29. 小林秀雄が理解した音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
	30. 邦楽が鳴り響く音楽環境で育った人が、西洋音楽を理解することとは	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)
受講者へのメッセージやアドバイス:	講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。	
フィードバックの方法:	提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。	

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	55%	課題各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	25%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
	発表、ディスカッション	20%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。
教科書:	特に指定しない。		
参考書:	講義時に適宜、提示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡 方法:	授業の前後に教室内で対応する。		

授業テーマ:	音楽療法の定義と実践		
授業の概要:	音楽療法の歴史と領域にまたがる内容を概観する。		
到達目標:	様々な定義や理念、その方法論を文献やケーススタディ、体験、そして調査から学ぶ。		
授業方法:	講義、ケーススタディの観察、分析、ディスカッション、		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 音楽療法の理念と実践(1)-音楽活用	教科書の予習	
	2. 音楽療法の理念と実践(2)-医療的活用	教科書の予習	
	3. 音楽療法の理念と実践(3)-教育的活用	教科書の予習	
	4. 音楽療法の理念と実践(4)-福祉的活用	教科書の予習	
	5. 音楽療法の理念と実践(5)-心理的活用	教科書の予習	
	6. 音楽療法の音楽(1)		
	7. 音楽療法の音楽(2)		
	8. 音楽療法の音楽(3)		
	9. 体験と分析(1)		
	10. 体験と分析(2)		
	11. 体験と分析(3)		
	12. ケーススタディ(1)		
	13. ケーススタディ(2)		
	14. レポート発表		
	15. 前期の概要		
	16. 調査の報告(1)	資料配布準備	
	17. 調査の報告(2)	資料配布準備	
	18. 改めて定義の必要性を確認する	教科書の予習	
	19. 3つのレベルとその役割		
	20. 個人音楽療法(1)		
	21. 個人音楽療法(2)		
	22. 集団音楽療法(1)		
	23. 集団音楽療法(2)		
	24. 受動的音楽療法の体験(1)		
	25. 受動的音楽療法の体験(2)		
	26. 受動的音楽療法の体験(3)		
	27. 体験から引き出される定義	資料準備	
	28. 定義のまとめー討論		
	29. 定義のまとめー発表		
	30. 総括		
受講者へのメッセージやアドバイス:	理論を学ぶだけでなく、自分自身も音楽療法を受ける体験をする。自己開示の準備が十分できていない受講者は注意深く受けること。		
フィードバックの方法:	時に小レポートの提出を求める。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	50	出欠
	レポート	25	内容
	グループ活動	25	参加状況
教科書:	ケネスEブルシア著、生野里花訳「音楽療法を定義する」東海大学出版会		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、		
教員との連絡方法:	音楽学科事務室		

授業テーマ:

日本語辞書の諸問題

授業の概要:

日本語辞書を対象にその理想と現実をめぐって考究する。

到達目標:

辞書が提供する言語情報に対して批判的にとらえ、必要な調査・分析を実施したうえで、見出し項目のたて方・語釈・用例・注記等に関するその改善案を提示する力をやしなう。

授業方法:

参加者による報告・質疑を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	辞書とは何か(1)	指示された課題にとりくむ。
3.	辞書とは何か(2)	指示された課題にとりくむ。
4.	辞書とは何か(3)	指示された課題にとりくむ。
5.	辞書の分類(1)	指示された課題にとりくむ。
6.	辞書の分類(2)	指示された課題にとりくむ。
7.	辞書の分類(3)	指示された課題にとりくむ。
8.	辞書の分類(4)	指示された課題にとりくむ。
9.	辞書の構成(1)	指示された課題にとりくむ。
10.	辞書の構成(2)	指示された課題にとりくむ。
11.	辞書の構成(3)	指示された課題にとりくむ。
12.	辞書の構成(4)	指示された課題にとりくむ。
13.	辞書の構成(5)	指示された課題にとりくむ。
14.	辞書の構成(6)	指示された課題にとりくむ。
15.	春学期の総括	指示された課題にとりくむ。
16.	辞書についての研究(1)	報告または質疑の準備をする。
17.	辞書についての研究(2)	報告または質疑の準備をする。
18.	辞書についての研究(3)	報告または質疑の準備をする。
19.	辞書についての研究(4)	指示された課題にとりくむ。
20.	辞書についての研究(5)	報告または質疑の準備をする。
21.	辞書についての研究(6)	報告または質疑の準備をする。
22.	辞書についての研究(7)	報告または質疑の準備をする。
23.	辞書についての研究(8)	報告または質疑の準備をする。
24.	辞書についての研究(9)	報告または質疑の準備をする。
25.	辞書についての研究(10)	報告または質疑の準備をする。
26.	辞書についての研究(11)	報告または質疑の準備をする。
27.	辞書についての研究(12)	報告または質疑の準備をする。
28.	学年末レポートを作成する(1)	学年末レポートの草稿を作成する。
29.	学年末レポートを作成する(2)	学年末レポートの草稿を作成する。
30.	学年末レポートを作成する(3)	学年末レポートの草稿を完成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

参加者の興味・関心や報告の進捗状況によって等によって授業内容の構成等が変更されることがあります。

フィードバックの方法:

基本的には授業時に対応します。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	50	到達目標により評価する。
	学年末レポート	50	レポートの完成度により評価する。

教科書:

参考書:

適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:

参加者と相談して決定する。

授業テーマ:

日本近現代文学研究の方法と読解

授業の概要:

19世紀半ばから現在に及ぶ長い期間に生成した日本近代文学の諸作品を読みながら、その研究と方法について考えます。明治初期に発生した日本近代文学と呼ばれる範疇は、もはや150年ちかくの歴史を持つこととなった。本授業では、その歴史をたどりながら、作品がもつ文学的喚起力を手掛かりに、文学研究の方法を学びます。
具体的には受講生が任意に作品を選択して、それを基盤に文学分析の様々な方法にアプローチします。特に文学理論の応用をどのように考えていけばいいかについてじっくりと考えていきたいと思います。
受講生は本授業の履修を通じて、文学研究とは何か、という根源的な問題について考えていってもらいたいと望んでいます。

到達目標:

受講生各自が文学研究の目的と、その実践について深い認識を得ること。
文学理論の受容を通じて文学研究の目的を考えること

授業方法:

講義と発表、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本近現代文学の流れ1 明治期文学と近代化への目覚め	日本近代文学史の概略を学習する
2.	日本近現代文学の流れ2 大正期から昭和期の文学勃興期	日本近代文学史の概略を学習する
3.	日本近現代文学の流れ3 昭和文学と戦争	日本近代文学史の概略を学習する
4.	日本近現代文学の流れ4 戦後文学から高度経済成長へ	日本近代文学史の概略を学習する
5.	日本近現代文学の流れ5 同時代文学とジェンダー	日本近代文学史の概略を学習する
6.	プレゼンテーション1 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
7.	プレゼンテーション2 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
8.	プレゼンテーション3 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
9.	プレゼンテーション4 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
10.	プレゼンテーション5 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
11.	プレゼンテーション6 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
12.	プレゼンテーション7 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
13.	プレゼンテーション8 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
14.	プレゼンテーション9 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
15.	総合討議	前期末レポート作成の準備
16.	日本文学研究と文学理論1 ナラトロジー	文学理論の読解と質問
17.	日本文学研究と文学理論2 文体論	文学理論の読解と質問
18.	日本文学研究と文学理論3 構造主義からポスト構造主義へ	文学理論の読解と質問
19.	日本文学研究と文学理論4 ジェンダー理論	文学理論の読解と質問
20.	日本文学研究と文学理論5 ポストコロニアル理論	文学理論の読解と質問
21.	プレゼンテーション1 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
22.	プレゼンテーション2 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
23.	プレゼンテーション3 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
24.	プレゼンテーション4 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
25.	プレゼンテーション5 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
26.	プレゼンテーション6 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
27.	プレゼンテーション7 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
28.	プレゼンテーション8 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
29.	プレゼンテーション9 (発表と共同討議)	発表準備とディスカッションの準備
30.	総合討議	後期レポート作成と準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では日本文学を研究するというのがどのような意味を持ち、またその実践に向けてどのような基礎知識を学習しなければならないかについて勉強します。自分の主たる研究テーマに沿って、受講生は自由にそのテーマを考えてゆくとともに、具体的な作品分析の方法についても学びます。毎授業時に出たトピックについて、毎回それを身に付けていくスキルを獲得してください。

フィードバックの方法:	各自の修士論文に資することを考えていきます。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業の参加度	50	授業の出席、課題の進捗状況などを加味して総合的に判断する
	各期末レポート	30	
	発表	20	
教科書:	受講時に各自に指示します。		
参考書:	受講時に各自に指示します。		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、文学理論の読解力、プレゼンテーション力		
教員との連絡方法:	授業時に指示します		

授業テーマ：	オペラ作品の歌唱とその表現		
授業の概要：	オペラ作品のアリア、重唱の歌唱、演技を通じて音楽作品再現時に、自分自身の個性と音楽スタイルの調和をどう図るか演習・演唱を通じて考察する。		
到達目標：	作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。		
授業方法：	演習・演唱・ディスカッション		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション、及び声質に合う曲目の選択。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	2. モーツァルト作品①		
	3. モーツァルト作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	4. モーツァルト作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	5. モーツァルト作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	6. モーツァルト作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	7. ロッシーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	8. ロッシーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	9. ロッシーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	10. ロッシーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	11. ドニゼッティ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	12. ドニゼッティ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	13. ドニゼッティ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	14. ドニゼッティ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の研究発表までに修正しておくこと。	
	15. 研究発表		
	16. ヴェルディ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	17. ヴェルディ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	18. ヴェルディ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	19. ヴェルディ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	20. プッチーニ作品①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	21. プッチーニ作品②	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	22. プッチーニ作品③	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	23. プッチーニ作品④	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	24. プッチーニ作品⑤	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	
	25. 各自の個性に合った作品研究①	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次の授業までに修正しておくこと。	

26. 各自の個性に合った作品研究②
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
27. 各自の個性に合った作品研究③
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
28. 各自の個性に合った作品研究④
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
29. 各自の個性に合った作品研究⑤
与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。そして、指摘された箇所は、次回の研究発表までに修正しておくこと。
30. 研究発表

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。
研究発表	40%	研究発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。

教科書: その都度指定する。

参考書: 授業内で紹介する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、自己実現力

教員との連絡
方法: Eメール

授業テーマ:	管弦楽作品研究		
授業の概要:	バロックから現代までの代表的な作曲家の主要作品の分析をおこない、それぞれの時代の音楽文化の特徴や音楽的背景を楽譜から探る。各々の作曲家のオーケストレーションを研究する。		
到達目標:	楽譜から考察するスキルの習得		
授業方法:	楽曲の分析と解釈の講義および課題実習		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容		準備学習等の内容
	1.	オーケストラの歴史 1	17世紀のオーケストラについて調べる
	2.	オーケストラの歴史 2	18世紀のオーケストラについて調べる
	3.	オーケストラの歴史 3	19世紀のオーケストラについて調べる
	4.	バロック 1 作品研究 1	関連楽譜と文献を調べる
	5.	バロック 2 作品研究 2	関連楽譜と文献を調べる
	6.	バロック 3 作品研究 3	関連楽譜と文献を調べる
	7.	バロック 4 作品研究 4	関連楽譜と文献を調べる
	8.	バロック 5 作品研究 5	関連楽譜と文献を調べる
	9.	古典派 1 作品研究 6	関連楽譜と文献を調べる
	10.	古典派 2 作品研究 7	関連楽譜と文献を調べる
	11.	古典派 3 作品研究 8	関連楽譜と文献を調べる
	12.	古典派 4 作品研究 9	関連楽譜と文献を調べる
	13.	古典派 5 作品研究 10	関連楽譜と文献を調べる
	14.	古典派 5 作品研究 11	関連楽譜と文献を調べる
	15.	ロマン派 1 作品研究 12	関連楽譜と文献を調べる
	16.	ロマン派 2 作品研究 13	関連楽譜と文献を調べる
	17.	ロマン派 3 作品研究 14	関連楽譜と文献を調べる
	18.	ロマン派 4 作品研究 15	関連楽譜と文献を調べる
	19.	近代 1 作品研究 16	関連楽譜と文献を調べる
	20.	近代 1 作品研究 17	関連楽譜と文献を調べる
	21.	近代 1 作品研究 18	関連楽譜と文献を調べる
	22.	近代 1 作品研究 19	関連楽譜と文献を調べる
	23.	近代 1 作品研究 20	関連楽譜と文献を調べる
	24.	現代 1 作品研究 21	関連楽譜と文献を調べる
	25.	現代 1 作品研究 22	関連楽譜と文献を調べる
	26.	現代 1 作品研究 23	関連楽譜と文献を調べる
	27.	現代 1 作品研究 24	関連楽譜と文献を調べる
	28.	現代 1 作品研究 25	関連楽譜と文献を調べる
	29.	研究発表 1	研究発表の準備
	30.	研究発表 2	研究発表の準備
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	教室でまとめて解説する		
「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	課題実習	50	
	研究発表	30	
	平常点	20	授業への取り組み、貢献度、積極度、授業時のディスカッションなど学習態度による平常点
教科書:	ヴォルター・ピストン著 戸田邦雄訳 管弦楽法(音楽之友社) リュリ、バッハ、ヘンデル、モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェン、ブラームス、ドヴォルザーク、リムスキー・コルサコフ、ドビュッシー、ラヴェル、バルトーク、シェーンベルク、ウェーベルン、メシアンのスコア		
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、プレゼンテーション力、構成力		
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応		

授業テーマ:

スペイン音楽研究

授業の概要:

スペイン音楽の歴史は、ローマ帝国の植民地だった古代から始まり、イスラム教徒たちによる占領時代のアラビア音楽の影響、多くのロマの人々の存在によるジプシー音楽の影響、そして地域ごとに非常に特色のある民俗音楽の展開、そして近現代におけるヨーロッパ近隣諸国からの影響などで、非常に複雑なものとなっている。そのような複雑な音楽史を通史的考察により把握しようと試みる。

到達目標:

知識・理解: 英語による読解によってスペイン音楽史を理解する。
関心・意欲・態度: 毎回の予習復習によって授業内容を深める。
表現・技能・能力: 最終レポートによって自らの知識をまとめる。

授業方法:

Gilbert Chase, The Music of Spain (Dover, 1960)を読み進めて行く。必要に応じて参考資料などを配布し、視聴覚資料についても当該機器を活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:スペイン音楽	スペイン音楽についての興味を探る。
2.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」1	「ルネサンス時代の世俗音楽」1の部分を読んでおく。
3.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」2	「ルネサンス時代の世俗音楽」2の部分を読んでおく。
4.	テキスト講読。「ルネサンス時代の世俗音楽」3	「ルネサンス時代の世俗音楽」3の部分を読んでおく。
5.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」1	「初期ギターの巨匠たち」1の部分を読んでおく。
6.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」2	「初期ギターの巨匠たち」2の部分を読んでおく。
7.	テキスト講読。「初期ギターの巨匠たち」3	「初期ギターの巨匠たち」3の部分を読んでおく。
8.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」1	「オルガン奏者と音楽理論家」1を読んでおく。
9.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」2	「オルガン奏者と音楽理論家」2を読んでおく。
10.	テキスト講読。「オルガン奏者と音楽理論家」3	「オルガン奏者と音楽理論家」3を読んでおく。
11.	テキスト講読。「スカルラッチィを中心として」1	「スカルラッチィを中心として」1を読んでおく。
12.	テキスト講読。「スカルラッチィを中心として」2	「スカルラッチィを中心として」2を読んでおく。
13.	テキスト講読。「スカルラッチィを中心として」3	「スカルラッチィを中心として」3を読んでおく。
14.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」1	「アルベニスとグラナドス」1を読んでおく。
15.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」2	「アルベニスとグラナドス」2を読んでおく。
16.	テキスト講読。「アルベニスとグラナドス」3	「アルベニスとグラナドス」3を読んでおく。
17.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」1	「マヌエル・デ・ファリャ」1を読んでおく。
18.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」2	「マヌエル・デ・ファリャ」2を読んでおく。
19.	テキスト講読。「マヌエル・デ・ファリャ」3	「マヌエル・デ・ファリャ」3を読んでおく。
20.	テキスト講読。「若い世代」1	「若い世代」1を読んでおく。
21.	テキスト講読。「若い世代」2	「若い世代」2を読んでおく。
22.	テキスト講読。「若い世代」3	「若い世代」3を読んでおく。
23.	テキスト講読。「名演奏家たち」1	「名演奏家たち」1を読んでおく。
24.	テキスト講読。「名演奏家たち」2	「名演奏家たち」2を読んでおく。
25.	テキスト講読。「名演奏家たち」3	「名演奏家たち」3を読んでおく。
26.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」1	「イベリアの民族音楽」1を読んでおく。
27.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」2	「イベリアの民族音楽」2を読んでおく。
28.	テキスト講読。「イベリアの民族音楽」3	「イベリアの民族音楽」3を読んでおく。
29.	テキスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」1	「1941年以後のスペイン音楽」1を読んでおく。
30.	テキスト講読。「1941年以後のスペイン音楽」2	「1941年以後のスペイン音楽」2を読んでおく。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法: レポートについては、可能な範囲で、コメントおよび解説をする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する
	授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する

教科書: プリント

参考書: 講義時に適宜必要に応じ指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール: rshiina@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

音楽美学研究

授業の概要:

哲学的観点から音楽美学を捉え直す方法を探る。そのために、哲学と芸術、哲学と音楽(美学)の接点において重要な役割を果たした著作を、なるべく原文(最低限、英文)によって読み解いてゆく。具体的には、ショーペンハウアー、ニーチェ、ベルグソン、フッサール、ハイデッガー、ズッカーカンドル、ダールハウス、ダニエル・シャルルなどの著作から適宜選択する。

到達目標:

知識・理解:テキストの講読によって哲学的観点による音楽美学を理解する。
関心・意欲・態度:毎回の予習復習によって関心をもって学習する。
表現・技能・能力:学習によって得られた知識にもとづき自らの思考を構築する。

授業方法:

テキスト(主に英文)の講読と討論。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
11.	講読(テキスト28〜30頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト28〜30頁部分を読んでおく。
12.	講読(テキスト31〜33頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト31〜33頁部分を読んでおく。
13.	講読(テキスト34〜36頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト34〜36頁部分を読んでおく。
14.	講読(テキスト37〜39頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト37〜39頁部分を読んでおく。
15.	講読(テキスト40〜42頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト40〜42頁部分を読んでおく。
16.	講読(テキスト43〜45頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト43〜45頁部分を読んでおく。
17.	講読(テキスト46〜48頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト46〜48頁部分を読んでおく。
18.	講読(テキスト49〜51頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト49〜51頁部分を読んでおく。
19.	講読(テキスト52〜54頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト52〜54頁部分を読んでおく。
20.	講読(テキスト55〜57頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト55〜57頁部分を読んでおく。
21.	講読(テキスト58〜60頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト58〜60頁部分を読んでおく。
22.	講読(テキスト61〜63頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト61〜63頁部分を読んでおく。
23.	講読(テキスト64〜66頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト64〜66頁部分を読んでおく。
24.	講読(テキスト67〜69頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト67〜69頁部分を読んでおく。
25.	講読(テキスト70〜72頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト70〜72頁部分を読んでおく。
26.	講読(テキスト73〜75頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト73〜75頁部分を読んでおく。
27.	講読(テキスト76〜78頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト76〜78頁部分を読んでおく。
28.	講読(テキスト79〜81頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト79〜81頁部分を読んでおく。
29.	講読(テキスト82〜84頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト82〜84頁部分を読んでおく。
30.	講読(テキスト85〜87頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト85〜87頁部分を読んでおく。
1.	導入とテキスト選定。	自らの音楽美学的興味について考えておく。
2.	講読(テキスト1〜3頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト1〜3頁部分を読んでおく。
3.	講読(テキスト4〜6頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト4〜6頁部分を読んでおく。
4.	講読(テキスト7〜9頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト7〜9頁部分を読んでおく。
5.	講読(テキスト10〜12頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト10〜12頁部分を読んでおく。
6.	講読(テキスト13〜15頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト13〜15頁部分を読んでおく。
7.	講読(テキスト16〜18頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト16〜18頁部分を読んでおく。
8.	講読(テキスト19〜21頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト19〜21頁部分を読んでおく。
9.	講読(テキスト22〜24頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト22〜24頁部分を読んでおく。
10.	講読(テキスト25〜27頁部分の訳読と解説・議論)	テキスト25〜27頁部分を読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートについては、可能な範囲で、コメント・解説をする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	レポート	50	到達目標に達しているかどうかで評価する。
	授業への積極的参加	50	授業へ積極的に参加しているかどうかで評価する。

教科書:

プリント

参考書:

適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール: rshiina@dw.doshisha.ac.jp

授業テーマ:

レトリック論と文学

授業の概要:

レトリック(修辞)という言葉現象の解明に向けて、1970年代以降、さまざまな研究領域からアプローチがなされている。この授業では近年のレトリック論を概観し、受講生の関心にしたがって、そのなかから特定のテーマに関する研究についてより深く学ぶ。そこで得た知見をもとに特定の文学作品におけるレトリックの分析を試みる。

到達目標:

1.伝統的なレトリック観について説明できる
2.認知科学やコミュニケーション論とレトリックとの関係を説明できる
3.上記の知見をもとに近現代文学のレトリックについて分析できる

授業方法:

毎週、受講生が教科書の各章をレジュメにまとめて発表し、その内容について議論しながら理解を深める。特定テーマ研究では、受講生が関心を持ったテーマについて、より踏み込んだ論考を対象にする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス(授業の進め方、発表スケジュール)	
	2. 伝統的なレトリック観1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	3. 伝統的なレトリック観2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	4. 伝統的なレトリック観3	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	5. 認知革命とレトリック1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	6. 認知革命とレトリック2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	7. 認知革命とレトリック3	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	8. コミュニケーションとレトリック1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	9. コミュニケーションとレトリック2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	10. コミュニケーションとレトリック3	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	11. コミュニケーションとレトリック4	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	12. 哲学思想とレトリック1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	13. 哲学思想とレトリック2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	14. 哲学思想とレトリック3	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	15. 前期のまとめ	
	16. 前期の復習	
	17. レトリック論の総括と展望1	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	18. レトリック論の総括と展望2	教科書の該当章をレジュメにまとめる
	19. 問題点の再確認とより深く探求するテーマの決定	
	20. 特定テーマ研究1	発表準備
	21. 特定テーマ研究2	発表準備
	22. 特定テーマ研究3	発表準備
	23. 特定テーマ研究4	発表準備
	24. 特定テーマ研究5	発表準備
	25. 文学テキストのレトリック分析1	発表準備
	26. 文学テキストのレトリック分析2	発表準備
	27. 文学テキストのレトリック分析3	発表準備
	28. 文学テキストのレトリック分析4	発表準備
	29. 文学テキストのレトリック分析5	発表準備
	30. 後期のまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

受講人数にもよるが、教科書やより専門的な文献の内容を毎週(or隔週)レジュメにまとめる作業が課される。

フィードバックの方法:

授業中に発表に対してコメントする。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	報告・議論の内容	60	欠席1回につき10点減点とする。
	期末レポート	40	

教科書:

菅野盾樹編『レトリック論を学ぶ人のために』(世界思想社、2007)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法:

学内メール:kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

第一実技Ⅰ～Ⅳ(2012年度以前入学生適用)

各コース実技担当教員

授業テーマ:	専門実技		
授業の概要:	声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。(鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。)		
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。		
授業方法:	個人指導		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験・コンサートシリーズ(3・4年生)で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。	
	2. 個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	3. 個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	4. 個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	5. 個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	6. 個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	7. 個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	8. 個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	9. 個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	10. 個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	11. 個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	12. 個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	13. 個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	14. 個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	15. 個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	16. 個人指導⑯	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	17. 個人指導⑰	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	18. 個人指導⑱	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	19. 個人指導⑲	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	20. 個人指導⑳	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	21. 個人指導㉑	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	22. 個人指導㉒	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	23. 個人指導㉓	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	

24.	個人指導 ^㉔	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
25.	個人指導 ^㉕	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
26.	個人指導 ^㉖	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
27.	個人指導 ^㉗	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
28.	個人指導 ^㉘	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
29.	個人指導 ^㉙	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
30.	個人指導 ^㉚	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
各学期末1回、計2回の実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。ただし、全コースともに3・4年次生については「コンサートシリーズ」への出演を前提とする。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡
方法:

Eメール

第二実技声楽Ⅳ

各コース実技担当教員

授業テーマ:	声楽実技(声楽コース以外対象)		
授業の概要:	声楽コース以外を対象とする声楽実技。		
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。		
授業方法:	個人指導		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:		授業内容 準備学習等の内容	
	1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通して近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
	2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	16.	個人指導⑯	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	17.	個人指導⑰	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	18.	個人指導⑱	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	19.	個人指導⑲	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	20.	個人指導⑳	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	21.	個人指導㉑	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	22.	個人指導㉒	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	23.	個人指導㉓	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	24.	個人指導㉔	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

25.	個人指導⑳	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
26.	個人指導㉑	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
27.	個人指導㉒	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
28.	個人指導㉓	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
29.	個人指導㉔	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
30.	個人指導㉕	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
各学期末1回、計2回の実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡
方法: Eメール

第二実技ピアノⅣ

各コース実技担当教員

授業テーマ:	ピアノ実技(鍵盤楽器コースのピアノ以外対象)		
授業の概要:	鍵盤楽器コースのピアノ以外を対象とするピアノ実技。		
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。		
授業方法:	個人指導		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通して近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。	
	2. 個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	3. 個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	4. 個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	5. 個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	6. 個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	7. 個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	8. 個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	9. 個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	10. 個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	11. 個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	12. 個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	13. 個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	14. 個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	15. 個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	16. 個人指導⑯	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	17. 個人指導⑰	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	18. 個人指導⑱	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	19. 個人指導⑲	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	20. 個人指導⑳	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	21. 個人指導㉑	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	22. 個人指導㉒	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	23. 個人指導㉓	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	
	24. 個人指導㉔	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。	

25.	個人指導⑳	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
26.	個人指導㉑	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
27.	個人指導㉒	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
28.	個人指導㉓	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
29.	個人指導㉔	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
30.	個人指導㉕	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	各学期末1回、計2回の実 技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽 的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡
方法: Eメール

授業テーマ:

日本語史に関する研究

授業の概要:

日本語史に関わる最新の論文を読み、日本語史研究の動向を知ると同時に、論文の読み方を学び、仮に設定したテーマに関わるレビューを作成する

到達目標:

①日本語史についての知識を得る。(知識・理解)
②身近な日本語の歴史的变化について関心をもち、説明できるようにする(関心・意欲・態度)
③日本語の歴史に関する論文のサマリーを簡潔にまとめることができる。(表現・技能)

授業方法:

講義とディスカッションを中心に進める。説明を聞いた上で、各自が担当する論文を精読してきた上で要約して説明し、その内容についてディスカッションを行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス・担当決め	特になし
2.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
3.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
4.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
5.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
6.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
7.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
8.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
9.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
10.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
11.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
12.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
13.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
14.	春学期講読分のまとめ1	特になし
15.	春学期講読分のまとめ2	特になし
16.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
17.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
18.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
19.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
20.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
21.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
22.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
23.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
24.	担当者による報告とディスカッション	担当者はレビューの作成。他の受講者は論文を読んでくこと。
25.	秋学期講読分のまとめ	特になし
26.	年間講読分のまとめ	特になし
27.	仮想の課題についての「レビュー」を各	レビュー原案の作成
28.	レビュー(レポート)作成指導	レビュー原案の作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業中に解説する

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加と貢献度	50%	各授業の発表や質疑応答により、到達目標①②の達成度を評価する。 レポートにより、到達目標③の達成度を評価する。
	レポート	50%	

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡
方法:

Eメールによる(アドレスは授業時に開示する)

専門実技

各専攻実技担当者

授業テーマ:	専門実技		
授業の概要:	声楽専攻・鍵盤楽器専攻・管弦打楽器専攻の全学生が必修とする専門実技。(鍵盤楽器専攻は伴奏法を含む。)		
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。		
授業方法:	個人指導		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:		授業内容	準備学習等の内容
	1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、修了試験・コンサートシリーズで演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
	2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	16.	個人指導⑯	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	17.	個人指導⑰	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	18.	個人指導⑱	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	19.	個人指導⑲	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	20.	個人指導⑳	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	21.	個人指導㉑	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	22.	個人指導㉒	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	23.	個人指導㉓	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
	24.	個人指導㉔	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

25.	個人指導⑳	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
26.	個人指導㉑	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
27.	個人指導㉒	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
28.	個人指導㉓	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
29.	個人指導㉔	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
30.	個人指導㉕	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	公開修了試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。ただし、全専攻ともに「コンサートシリーズ」への出演を前提とする。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡
方法: Eメール

授業テーマ:	真に豊かでゆとりある「くらし」の確立と卒論発表および卒論提出をめざして	
授業の概要:	21世紀は、グローバル化と少子・高齢・人手不足・長時間労働・格差社会の時代である一方、持続可能な生産活動・流通活動・消費生活と男女共同参画社会＝ワーク・ライフ・バランス社会形成の必然性を持った時代でもある。本ゼミでは、上記のような21世紀をしっかりと見据えて、真に豊かでゆとりある「くらし」の確立を共通の目的意識とし、経済学を中心にした社会科学の方法を駆使して学習・研究を行う。卒論ゼミでは、各自、自主的、主体的、自由に卒論テーマを選定し、卒論発表および卒論提出を目指して、卒論テーマの諸課題に関する学習および研究を行うとともに、その成果をまとめ、お互いに発表しコメント・議論し合って深めて行く。	
到達目標:	本卒論ゼミを通して、社会科学(経済学)を中心にした総合科学的な認識力および実践能力、研究能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等を養成し、自らを生活の専門家として社会で積極的に活かせる人材の育成を目指している。	
授業方法:	ゼミナール形式(レジュメの作成・輪番制報告・質疑応答・コメント・討論)で授業を行う。各自、卒論発表会および卒論提出を目指して、卒論テーマの諸課題に関する先行研究成果の学習および研究を自主的積極的に推進し、その成果をまとめ、お互いに発表し質問・コメント・議論し合って深めて行く。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容 1. 春学期のオリエンテーション・打合せ 補講(1)卒論ゼミと就活・アルバイトの両立の努力、(2)ブラック企業・ブラックアルバイトに要注意、(3)心身の健康維持のため規則正しい日常生活を。 2. 卒論テーマの再検討と確定 1 * 卒論テーマ(タイトル)と具体的な研究課題の個別報告と質問・コメント・指導(1)A・Bの報告者 3. 卒論テーマの再検討と確定 2 * 卒論テーマ(タイトル)と具体的な研究課題の個別報告と質問・コメント・指導(2)C・Dの報告者 4. 卒論テーマの再検討と確定 3 * 卒論テーマ(タイトル)と具体的な研究課題の個別報告と質問・コメント・指導(3)A・B・C・Dの報告者 5. 卒業研究の仕方と心構え * 卒業論文の目標と計画 6. 卒論テーマに関する先行研究成果(雑誌論文・著書等)の収集と参考文献リストの作成方法 * 補講 卒論レジュメの作成方法 7. 先行研究成果の学習成果と課題の設定に関する個別報告と質問・コメント・討論・指導(1)A・Bの報告者 8. 先行研究成果の学習成果と課題の設定に関する個別報告と質問・コメント・討論・指導(2)C・Dの報告者 9. 先行研究成果の学習成果と課題の設定に関する個別報告と質問・コメント・討論・指導(3)A・Bの報告者 10. 先行研究成果の学習成果と課題の設定に関する個別報告と質問・コメント・討論・指導(4)C・Dの報告者 11. 先行研究成果の学習成果と課題の設定に関する個別報告と質問・コメント・討論・指導(5)A・Bの報告者 * まとめ 12. 先行研究成果の学習成果と課題の設定に関する個別報告と質問・コメント・討論・指導(6)C・Dの報告者 * まとめ 13. 卒論タイトルおよび章構成の作成・提出・報告と指導 14. 卒業論文の書き方の解説・指導(1)基礎編 15. 卒業論文の書き方の解説・指導(2)応用編 * ゼミ合宿の計画について(日程・場所・目的・内容) 16. 秋学期のゼミ計画の打ち合わせ * 10月初旬のゼミ合宿 * 卒論要旨の提出期限 * 卒論発表原稿スライド原稿提出期限 * 卒論発表会 17. 卒論要旨の書き方の解説・指導 18. 卒業研究成果の個別報告と質問・コメント・討論・指導(1)A・Bの報告者 19. 卒業研究成果の個別報告と質問・コメント・討論・指導(2)C・Dの報告者 20. 卒業研究成果の個別報告と質問・コメント・討論・指導(3)A・Bの報告者 21. 卒業研究成果の個別報告と質問・コメント・討論・指導(4)C・Dの報告者 22. 卒業研究成果の個別報告と質問・コメント・討論・指導(5)A・B・C・Dの報告者 * 総括 23. 卒論タイトルおよび章節構成の作成・提出・報告と個別指導による卒論タイトルの確定	準備学習等の内容 * 卒論の春学期・年間計画の説明 * 卒論テーマに関するアンケート調査の回答票の作成・提出 * 左記補講(1)～(3)関連の新聞記事切抜き資料は、大事な箇所にマークペンで線を引きながら精読し保存してノート作り。 * 各自、卒論テーマの再検討と確定 * 各自、卒論テーマの再検討と確定 * 各自、卒論テーマの再検討と確定 * 各自、卒論論文の目標と計画を立てる * まず各自、(1)卒論テーマに関連するキーワードを使用してインターネットで徹底的に情報検索し情報収集してみてください。次いで、(2)国立情報学研究所のオンラインDB「CiNii Articles」や「CiNii Books」などで雑誌・図書を検索してみてください。 * 報告者は、事前に補講「卒論レジュメの作成方法」に従ってレジュメを作成・提出し報告して下さい。 * 同上 * 同上 * 同上 * 同上 * 同上 * 各報告者は個別報告の成果と質問・コメント・討論・指導を踏まえて、卒論タイトルおよび章構成を作成・提出・報告し指導を受ける。 * 夏期休暇中には、「卒業論文の書き方」(基礎編・応用編)を踏まえて、卒論の作成をできるだけ進めて行って下さい。 * 同上 * 10月上旬のゼミ合宿では、夏休み中の学習・研究の成果を発表してもらいます。 * 卒論の作成(文章化)に本格的に取りかかって下さい。 * 冬休み前の最大の課題は卒論要旨の作成・提出。 * ゼミナール形式で授業を行う。各自、卒論テーマの諸課題に関する先行研究成果の学習および研究を自主的積極的に推進し、その成果をまとめ、お互いに発表し質問・コメント・議論し合って深めて行く。 * 同上 * 同上 * 同上 * 各報告者は個別報告の成果と個別指導によって、卒論タイトルおよび章構成を確定。

- | | | |
|-----|--|---|
| 24. | 全員、卒論要旨下書きの提出と個別添削指導 | *各自、卒論要旨下書き原稿およびUSBフラッシュメモリーの提出 |
| 25. | 全員、添削卒論要旨の点検・完成と卒論委員会への提出 | *卒論委員が各自の卒論タイトルと卒論要旨をそれぞれ一つに編集して卒論委員会に提出。 |
| 26. | 卒論発表原稿・スライド原稿の作成方法の解説・指導(1)両原稿の作成方法 | *年明けの最大の課題は、両原稿の作成・提出。 |
| 27. | 卒論発表原稿・スライド原稿の作成方法の解説・指導(2)先輩の作成したスライドの視聴 | *先輩たちの経験に学ぶ。 |
| 28. | 卒論発表原稿・スライド原稿の作成・提出と個別指導・完成(1)A・B・C・Dの発表者 | *各自、両下書き原稿を仕上げて提出し、口頭で発表に臨み個別指導を受ける。 |
| 29. | 卒論発表原稿・スライド原稿の作成提出と個別指導・完成(2)A・B・C・Dの発表者 | *同上 |
| 30. | 卒論発表会の打ち合わせ
*スライド進行の仕方
*アニメーション効果挿入箇所の確認 | *二人一組でペアを組み、報告と裏方さん(スライド進行係)を相互協力で行う。 |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

(1)卒業研究(卒論要旨の作成・卒論発表・卒業論文の作成)は、3年次の応用演習と4年次の卒論ゼミにおける2年間の学習・研究の成果であるばかりではなく、4年間の大学生活の集大成ともいえるべきものであります。真剣に主体的に取り組んで下さい。
(2)文系学部の卒業論文は、本格的な研究論文とは言えません。高度なレポートといってもいいと思います。本格的な研究論文は、オリジナリティ・独創性が要求され、レポートや評論、感想文ではありません。文系の研究者になるためには、一般的に先行研究成果の学習から始まる、大学院博士前期課程・博士後期課程での4～5年の修業が必要となります。

フィードバックの
方法:

授業中の私のコメント・感想・討論・指導を通してフィードバック
e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jpでフィードバック

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
(1)卒論発表	30%	卒論要旨・発表原稿・スライド原稿の内容の質、発声・発表態度などのプレゼンテーション力
(2)卒業論文	30%	卒論内容の質と量、研究倫理規準
(3)ゼミでの個別報告	20%	発表内容の質と量、研究倫理規準、発声・発表態度などのプレゼンテーション力
(4)授業態度を含む出席率重視	20%	ゼミへの積極的参加を伴う出席数を重視

教科書: 講義資料は、適宜、授業中に配布する。

参考書:

御船美智子編著『家庭生活の経済』放送大学教育振興会、1996年
日本家政学会家庭経済学部会編『多様化するライフスタイルと家計』建帛社、2002年
日本家政学会家庭経済学部会関東地区会編『少子高齢社会と生活経済』建帛社、2004年
日本家政学会家庭経済学部会編『規制改革と家庭経済の再構築』建帛社、2007年
伊藤セツ・川島美保共編著『三訂 消費生活経済学』光生館、2008年
吉田良子編著『消費者問題入門(第3版)』建帛社、2006年
加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸編著『現代流通入門』有斐閣ブックス、2007年
日経MJ(流通新聞)編『日経MJトレンド情報源 流通・消費2017勝者の法則』日本経済新聞社、2016年
高橋正郎編著『食料経済(第4版)』理工学社、2010年
日本農業市場学会編『食料・農産物の流通と市場Ⅱ』筑波書房、2008年

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法:

e-mail ; yiwatani@d.w.c.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内や研究室内で対応。

授業テーマ:	いのちと倫理～思想研究を通し～		
授業の概要:	4年間の様々な学びの集大成として、各人の設定した研究テーマを探究します。ゼミ内での討論等を通し、互いに切磋琢磨し、研究の方法、まとめ方、発表の仕方等を習得します。		
到達目標:	1. 各人のテーマに即し、先行研究に基づき、論理的に考察した卒業論文を完成し、所定の期日までに指導教員に提出します。 2. 12月初旬には卒業論文のテーマを提出し、12月下旬には卒業論文発表会の要旨を提出します。 3. プレゼンテーションの技術を習得し、卒論委員会が運営する卒論発表会において、ゼミ生全員が卒業論文の要旨を口頭発表します。		
授業方法:	演習形式を基本とします。個人発表、グループ討議、グループ批評等を通し、学習者相互の思考を深めます。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション 演習での学びの振り返り。	シラバスにより当該科目の内容、到達目標、評価基準を整理する。	
	2. 基礎学習とテーマ探し1 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理。	
	3. 基礎学習とテーマ探し2 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介、方法論確認)と発表ポイントの整理。	
	4. 基礎学習とテーマ探し3 問題意識の探求と他者評価による検証	個人発表にむけた、資料作成(資料紹介と方法論確認)と発表ポイントの整理。	
	5. 卒論デザイン作成、及び、先行研究検索、基本文献検索、批評に向けた確認	卒論デザイン作成に向けて、自身の卒論の焦点を絞る。仮説と論証方法を模索し、整理する。	
	6. 先行研究と資料収集1	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。	
	7. 先行研究と資料収集2	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。	
	8. 先行研究と資料収集3	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。	
	9. 先行研究と資料収集4	個人発表にむけた、資料作成(課題論文批評と資料紹介)と発表ポイントの整理。方法論を模索と提示。	
	10. 卒論デザイン作成説明	配布資料や参考文献を用いて、卒業論文を執筆の方法論などを再考しつつ、深め、整理する。	
	11. 卒論デザイン発表1	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。	
	12. 卒論デザイン発表2	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理。	
	13. 卒論デザイン発表3	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。	
	14. 卒論デザイン発表4	自身の卒論デザインを発表。受講生と相互議論ができるよう、思考過程を整理し、配布資料を作成。	
	15. 中間原稿提出に向けて	夏季休暇後の中間原稿提出に向けて思索の深化と下書き作成準備。	
	16. 中間原稿提出。	夏季休暇を用いて、中間原稿執筆。自己の関心事を文章化し、論点を明示する。	
	17. 中間原稿相互批判	事前に預かった受講生の中間原稿への批評コメント作成。他者からのコメントに対応できるよう、自身の卒論を再検討する。	
	18. 中間原稿の深化と発展1	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。	
	19. 中間原稿の深化と発展2	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。	
	20. 中間原稿の深化と発展3	新たな資料紹介、先行研究批判など。配布資料の作成。	
	21. ポスター発表(ゼミ内)	ポスター発表資料準備。後輩にむけ、卒論の論理構成を提示。自己の卒論の論理構成を確認。	
	22. ポスター発表後の再検討課題発表1	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。	
	23. ポスター発表後の再検討課題発表2	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。	
	24. ポスター発表後の再検討課題発表3	ポスター発表でのコメントなどを参考に改善点を整理する。	
	25. 卒業論文第一次提出。ゼミ内査読者選定。	卒業論文第一次原稿を執筆。提出用と査読用の2部準備。	
	26. 卒論タイトル・要旨の最終確認。	相互議論、相互批評による、タイトルの明確化、要旨の的確化に努める。配布資料の作成。	
	27. 卒論査読者よりコメント。	冬季休暇を用いて、他の受講者の卒論批評。自分自身の卒論ポイントの整理と深化。配布資料の作成。	
	28. 各卒論への批評大会。	他者からの批評に耐えうるよう、自身の卒論の再検証。及び、最終提出に向けた整理。	
	29. 発表資料作成による卒論の深化	卒論の中心テーマ、結論への吟味。再度、構成の確認など。発表用資料の作成。	
	30. 卒業論文の提出。卒論発表会に向けて淳義。	最終原稿の提出。発表会に向けた資料作成など。引用方法などを含め、誤字脱字等、校正の上、提出。	
受講者へのメッセージやアドバイス:	授業時間外の自主学習及びグループ学習等が求められます。先行研究(文献研究など)を踏まえた上での思想の構築が期待されます。		
フィードバックの方法:	毎回のゼミ内で、相互の学びを深めるコメントペーパーを作成します。ゼミ生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを積極的に用います。学生からのコメントはゼミ内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有し、かつ個々人へフィードバックします。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	クラスへの参加・貢献	40	クラス内での互いの学びへの批判力、貢献度などにより評価します。

教科書： 教室にて指示します。

参考書： 教室にて指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力： 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡方法： 授業前後の対応を基本としますが、オフィスアワー、Eメール、別途個人面談など随時対応します。

授業テーマ:

社会福祉の歴史・制度・実践

授業の概要:

応用演習ⅠⅡで学んだ社会福祉の歴史・制度・実践を踏まえ、各自でテーマを絞り込み、研究計画に基づいて卒業論文の作成および論文要旨の口頭発表を行う。

到達目標:

卒業論文の完成

授業方法:

レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議などをとし、一部で社会福祉見学実習を行うことによって、各自の研究テーマを深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	資料読解	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	中間発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	中間発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
16.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
17.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
18.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
19.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
20.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
21.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
22.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
23.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
24.	論文作成	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
25.	最終発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
26.	最終発表	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
27.	論文修正	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
28.	論文提出	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
29.	論文講評	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
30.	論文講評	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席	30	出席を含む授業への参加・態度
	卒業論文	70	卒業論文および論文要旨の口頭発表による総合評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール等を利用

授業テーマ:

社会心理学(日常を計量する)

授業の概要:

社会心理学は、日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として,そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。卒業研究では,「社会心理学」という学問ツールに触れることによって,だれもが「体感」している日常素材を対象として各自が実際に「心の冒険」をし<=研究>,卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ,学問領域だけでなく,実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力や他の処理スキルを身につけることも併せて目指します。
この演習の最終目標は,各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめ発表することです。これは,「感想文」とは異なり,あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての研究(卒業論文+口頭発表)の形にします。これによって,演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残すことになります。

到達目標:

特定主題での社会心理学的研究の達成

授業方法:

1時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく,その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC, スマホで可能),授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	1年間の概観	本演習のシラバスでの確認
2.	卒業研究テーマの同定作業	前回演習作業の確認
3.	卒業研究テーマの同定作業と研究準備	前回演習作業の確認
4.	卒業研究テーマの同定作業と研究準備	前回演習作業の確認
5.	卒業研究の準備	前回演習作業の確認
6.	卒業研究の準備と着手	前回演習作業の確認
7.	卒業研究の着手	前回演習作業の確認
8.	卒業研究の着手	前回演習作業の確認
9.	収集データの整理	前回演習作業の確認
10.	収集データの整理	前回演習作業の確認
11.	収集データの整理	前回演習作業の確認
12.	収集データの整理と解析	前回演習作業の確認
13.	収集データの整理と解析	前回演習作業の確認
14.	卒業研究の中間発表	前回演習作業の確認
15.	卒業研究の中間発表	演習全体での作業確認
16.	卒業論文作成に向けた概観	演習全体での作業確認
17.	収集データの解析	演習全体での作業確認
18.	収集データの解析	演習全体での作業確認
19.	卒業研究データの「図表」化作業	演習全体での作業確認
20.	卒業研究データの「図表」化作業	演習全体での作業確認
21.	卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
22.	卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
23.	卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
24.	卒業研究データの「図表」化作業+卒業論文・本文の作成	演習全体での作業確認
25.	卒業論文全体の作成	演習全体での作業確認
26.	卒業論文全体の作成	演習全体での作業確認
27.	卒業論文の完成	演習全体での作業確認
28.	発表会用の「要約」の作成,発表会用の「発表スライド」の作成作業	演習全体での作業確認
29.	発表会用の「発表スライド」の作成作業	演習全体での作業確認
30.	発表会の最終準備(発表スライド+口頭発表)	演習全体での作業確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の1週間にこそ、自己進歩があることを忘れないようにしましょう。

フィードバックの方法:

演習時の応答およびマナビー

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席と研究取り組み状況	50	授業時・時間外の熱心さ
	卒業論文の完成	25	論文としての完成度
	卒論発表会パフォーマンス	25	呈示と発表の完成度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:

マナビーおよび日常的接触

授業テーマ： 児童文化の世界の広がり深みを研究する。

授業の概要： 児童文化には、人間でも動物でもない、第三の幻の生き物がうごめいている。そういう第三の生き物と共に暮らしている私たちの世界の豊かさや、そういう世界に支えられている私たちのあり方を追求し研究する。

到達目標：

- ① 文献を調べ、実地見学もし、先行研究の広がりを調べる。
- ② 調べたことは毎回パワーポイントにして発表し、みんなの意見を聞く。
- ③ みんなにわかるようにパワーポイントを作ることも大きな目標。
- ④ ゼミ生同士は、発表されたテーマについて意見を言い、疑問をぶつけ合う。
- ⑤ 質問に答えられなかった分を宿題として持ち帰り、さらに調べて発表し合う。
- ⑥ プレゼンテーションの力を付ける。

授業方法： パワーポイント使って毎回、自分の卒論のテーマに関わる研究を発表する。
司会者と発表者を順番に持ち回りして、学生同士で発表しやすい雰囲気をつくる。

「授業内容」
および
「準備学習等の内
容」:

授業内容

準備学習等の内容

1. オリエンテーション(1)
2. 自分なりのテーマ探し(2)
3. 自分なりのテーマ探し(3)
4. 自分なりのテーマ探し(4)
5. 自分なりのテーマ探し(5)
6. 自分なりのテーマ探し(6)
7. 自分なりのテーマ探し(7)
8. 自分なりのテーマ探し(8)
9. 自分なりのテーマ探し(9)
10. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(1)
11. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(2)
12. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(3)
13. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(4)
14. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(5)
15. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(6)
16. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(7)
17. チームを組んでプレゼンテーションと質疑応答(8)
18. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(1)
19. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(2)
20. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(3)
21. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(4)
22. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(5)
23. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(6)
24. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(7)
25. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(8)
26. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(9)
27. 個人でプレゼンテーション 質疑応答(10)
28. 研究の成果の冊子作り
29. 研究の成果の冊子作り
30. 研究の成果の冊子作り

[illegible]

受講者への
メッセージや
アドバイス:

好きな児童文学作品にこだわるのではなく、幅広く、世界の児童文化に関心を広げる努力をすること。

フィードバックの方法:

調べて発表してきたことは、冊子にして、それを元に卒論につなげる道筋をアドバイスする。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表の内容	65	自分独自の視点で調べられていることを重視する。
	質疑応答の積極性	25	他に人の研究に積極的に関心を持ち、質問や助言ができているか、重視する。
	遅刻。欠席	10	厳しく、対応する。
教科書:	随時、指示する。		
参考書:	随時、指示する。		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力、すべてが要求される。		
教員との連絡 方法:	ラインを使って、グループ同士の連絡の取り合い、教員との連絡も密に取っている。		

授業テーマ：居住環境の評価

授業の概要：人間生活学科における学びの集大成として卒業論文を執筆する

到達目標：各人が設定するテーマに基づき、問題解決のための手法を検討し、その結果をわかりやすく提示する

授業方法：各自のテーマに基づき、問題解決手法（文献調査、フィールド調査、心理実験）を実施し、進捗状況を授業内で発表・議論する。卒業論文を執筆し、卒業論文発表会にて発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマ・研究手法の発表1	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
2.	研究テーマ・研究手法の発表2	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
3.	研究テーマ・研究手法の発表3	各自のテーマに基づき、適切な研究手法について先行研究などを調べる
4.	研究計画の発表1	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
5.	研究計画の発表2	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
6.	研究計画の発表3	各自のテーマに基づき、卒業研究全体のスケジュールを考える
7.	研究計画の発表4	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
8.	研究計画の発表5	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
9.	研究計画の発表6	他者からの指摘内容に対して、回答できるよう準備する
10.	進捗状況の発表1	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
11.	進捗状況の発表2	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
12.	進捗状況の発表3	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
13.	進捗状況の発表4	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
14.	進捗状況の発表5	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
15.	進捗状況の発表6	自身が取り組んでいる内容を客観的データとしてまとめ、自身の考えを説明できるよう準備する
16.	中間発表1	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする
17.	中間発表2	これまでの進捗をまとめると同時に、今後必要となるデータ／分析をピックアップする
18.	研究結果の発表1	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
19.	研究結果の発表2	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
20.	研究結果の発表3	データから考察への論理展開について自身の考えをまとめる
21.	研究結果の発表4	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
22.	研究結果の発表5	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
23.	研究結果の発表6	他者の意見に対する自身の意見を述べるための資料を集める
24.	研究要旨の作成1	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす
25.	研究要旨の作成2	自身の研究内容を、端的にまとめられるよう研究ノートをまとめなおす
26.	研究概要の作成1	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する
27.	研究概要の作成2	自身の研究内容を、A4用紙2枚にまとめられるよう、図表を整理する
28.	卒論発表資料の作成1	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える
29.	卒論発表資料の作成2	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える
30.	卒論発表資料の作成3	卒業研究の内容を、正しく、わかりやすく伝える手段／工夫を考える

受講者へのメッセージやアドバイス：フィードバックの方法：授業中にディスカッションしながらフィードバックする

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	30	ゼミでの発表内容、他者発表時の質問・ディスカッションなど
	ディスカッション	30	他者の発表に関する議論、自身の発表に対する回答など
	論文	40	研究の実施状況、論文の出来栄

教科書:

参考書:

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力

教員との連絡
方法: e-mail

授業テーマ:

服飾文化の歴史と現在

授業の概要:

4年間の学びの集大成として卒業論文を執筆します。これまでにされてきた服飾文化に関する研究をととして生活文化のさまざまな課題を探究し、これからあるべき生活にむけてその可能性を示すことを目指します。ゼミでのプレゼンテーションや意見交換のなかで互いに知見を広め思考を深めるとともに論文執筆の手順と方法を習得します。

- 到達目標:
- ①卒業論文として適切な文章表現を身につける。

②卒業論文として適切な情報収集と論理的な分析の手法を身につける。

③互いの卒業研究に関して建設的なディスカッションができる。

③卒業論文の成果をプレゼンテーションで表現し伝えることができる。

授業方法:

ゼミナール形式を基本に個人指導も行います。各自で研究テーマを設定し、論文執筆にむけて計画をたて、それにもとづいて資料収集、調査、執筆をすすめます。中間報告や経過報告をととして進行状況を確認しながら卒業論文の完成を目指します。完成した卒業論文は所定の期日までに指導教員に提出し、その後、卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表しま

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. 卒業研究の進め方	
	2. テーマ発表①	テーマについてのレポート作成および発表準備
	3. テーマ発表②	テーマについてのレポート作成および発表準備
	4. テーマ発表③	テーマについてのレポート作成および発表準備
	5. 文献資料の検索と収集	
	6. 研究計画を発表①	研究計画書の作成および発表準備
	7. 研究計画を発表②	研究計画書の作成および発表準備
	8. 研究計画を発表③	研究計画書の作成および発表準備
	9. 文献資料研究①	文献資料に関するレポート作成
	10. 文献資料研究②	文献資料に関するレポート作成
	11. 文献資料研究③	文献資料に関するレポート作成
	12. 中間報告Ⅰおよび意見交換①	中間レポートの作成および発表準備
	13. 中間報告Ⅰおよび意見交換②	中間レポートの作成および発表準備
	14. 中間報告Ⅰおよび意見交換③	中間レポートの作成および発表準備
	15. 学外見学	
	16. 中間発表Ⅱおよび意見交換①	中間レポートの作成および発表準備
	17. 中間発表Ⅱおよび意見交換②	中間レポートの作成および発表準備
	18. 中間発表Ⅱおよび意見交換③	中間レポートの作成および発表準備
	19. 論文作成と経過報告	
	20. 論文作成と経過報告	
	21. 卒業論文タイトル検討①	
	22. 卒業論文タイトル検討②	
	23. 卒業論文要旨および概要作成①	要旨および概要の下書き
	24. 卒業論文要旨および概要作成②	要旨および概要の下書き
	25. 卒業論文要旨および概要作成③	要旨および概要の下書き
	26. 卒業論文発表会準備 パワーポイント作成①	パワーポイント作成の準備
	27. 卒業論文発表会準備 パワーポイント作成②	パワーポイント作成の準備
	28. 卒業論文発表会準備 原稿作成①	原稿下書き
	29. 卒業論文発表会準備 原稿作成②	原稿下書き
	30. 卒業論文発表会準備 仕上げ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業内でコメントし、適宜授業時間外にも個人指導を行います。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	30	授業への準備と到達目標③に関する態度や発言を評価する。
	論文	50	到達目標①②および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。
	口頭発表	20	到達目標④および途中経過における取り組みについて達成度を評価する。

教科書:

参考書:

適宜指示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、

教員との連絡方法:

オフィスアワー マナビーの掲示板機能

授業テーマ:

授業の概要: 各自が設定した卒業論文のテーマに基づき、先行研究調査、現地調査、データ分析等を行ない、その進捗状況を報告する。その際、積極的に質疑を受け、応答し、討議を行なう。また、個人ゼミを行なうことで、進行状況を確認しつつ、より卒業論文テーマの内容について深めていく。
最終的には、卒業論文を期日までに提出し、卒業論文発表会にて発表する。

到達目標: ・設定したテーマに対し、研究の方法、まとめ、発表の仕方を習得する
・卒業論文の完成

授業方法: ゼミナール形式で行なう。進捗状況の報告時にはレジュメを用意し、質疑応答、討議ができるようにしておく。なお、現地調査、データ分析などにおいて授業時間外の作業を伴うことが多い。
また、卒業論文の完成には数回の修正を求めることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の進め方と卒業論文に関する説明	学んだ内容を整理しておくことを求める
2.	研究テーマ・研究計画の報告1	研究テーマの確認と研究計画について、レジュメの作成を求める
3.	研究テーマ・研究計画の報告2	研究テーマの確認と研究計画について、レジュメの作成を求める
4.	研究の進捗状況報告1	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
5.	研究の進捗状況報告2	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
6.	研究の進捗状況報告3	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
7.	研究の進捗状況報告4	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
8.	研究の進捗状況報告5	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
9.	研究の進捗状況報告6	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
10.	研究の進捗状況報告7	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
11.	研究の進捗状況報告8	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
12.	研究の進捗状況報告9	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
13.	研究の進捗状況報告10	研究の進捗状況についてレジュメの作成を求める
14.	中間報告1	中間発表に向けてスライドの作成を求める
15.	中間報告2	中間発表に向けてスライドの作成を求める
16.	進捗報告と今後の作業計画報告	これまでの進捗状況と今後の作業計画についてレジュメの作成を求める
17.	研究結果の報告1	研究結果についてレジュメの作成を求める
18.	研究結果の報告2	研究結果についてレジュメの作成を求める
19.	研究結果の報告3	研究結果についてレジュメの作成を求める
20.	研究結果の報告4	研究結果についてレジュメの作成を求める
21.	卒業論文目次の作成	卒業論文執筆に向け、全体構成を確認するため目次を検討し、レジュメを作成することを求める
22.	研究結果の報告5	研究結果についてレジュメの作成を求める
23.	研究結果の報告6	研究結果についてレジュメの作成を求める
24.	研究結果の報告7	研究結果についてレジュメの作成を求める
25.	研究結果の報告8	研究結果についてレジュメの作成を求める
26.	卒業論文要旨・概要の作成1	卒業論文の内容について要旨・概要の作成を求める
27.	卒業論文要旨・概要の作成2	前回指摘を受けた箇所について再考し、再度作成することを求める
28.	卒業論文発表資料作成1	卒業論文口頭発表時に用いるスライドの作成を求める
29.	卒業論文発表資料作成2	前回指摘を受けた箇所を修正し、スライドの作成を求める
30.	卒業論文発表資料作成3	前回指摘を受けた箇所を修正し、スライドの作成を求める

受講者へのメッセージやアドバイス: 4年間の学びの集大成として、多少つらい時期があるかもしれないが、最後まで粘り強く取り組むことを望む。

フィードバックの方法: 個々の提出物については、コメントを付け、教室で返却するほか、マナビー掲示板機能によりコメントすることもある。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、卒業論文の完成に向けて取り組んでいるかを評価する。
	卒業論文・口頭発表	50	自身が調べた内容に対し、きちんとまとめ、発表できているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー、Eメール、マナビー掲示板機能を利用

授業テーマ:	被服造形とデザイン		
授業の概要:	大学での学びの集大成として、主に被服造形およびデザインの視点から被服学に関する研究に取り組む。研究成果は、論文にまとめ、所定の期日までに指導教員に提出する。また卒業論文発表会において論文要旨を口頭発表する。		
到達目標:	1.造形・デザインを中心に被服学分野の諸問題への関心を高め、知見を広げる。 2.被服学分野における独自の視点にたった思考力・表現力を養う。 3.効果的な研究成果のまとめとプレゼンテーションの手順および方法を習得する。		
授業方法:	ゼミナール形式および個人面談を中心とする。各自で研究に取り組み、授業時には報告とディスカッション等を行う。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. オリエンテーション	各自の研究テーマ・手法について考える。	
	2. 研究テーマ・手法の発表(1)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究準備を進める。	
	3. 研究テーマ・手法の発表(2)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究準備を進める。	
	4. 研究計画(1)	研究計画書を作成する。	
	5. 研究計画(2)	研究計画書を作成する。	
	6. 経過報告とディスカッション(1)	研究に取り組む。	
	7. 経過報告とディスカッション(2)	研究に取り組む。	
	8. 経過報告とディスカッション(3)	研究に取り組む。	
	9. 経過報告とディスカッション(4)	研究に取り組む。	
	10. 経過報告とディスカッション(5)	研究に取り組む。	
	11. 経過報告とディスカッション(6)	研究に取り組む。	
	12. 経過報告とディスカッション(7)	研究に取り組む。	
	13. 中間発表(1)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。	
	14. 中間発表(2)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。	
	15. 中間発表(3)	発表準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえて研究を進める。	
	16. 研究の進捗確認とディスカッション	これまでの研究成果と今後の計画についてまとめる。	
	17. 経過報告とディスカッション(8)	研究に取り組む。	
	18. 経過報告とディスカッション(9)	研究に取り組む。	
	19. 作品撮影と資料整理	作品・資料を整理する。	
	20. 論文作成(1)	論文を執筆する。	
	21. 論文作成(2)	論文を執筆する。	
	22. 論文作成(3)	論文を執筆する。	
	23. 論文作成(4)	論文をまとめ、仮提出する。	
	24. 卒業論文要旨および概要作成(1)	卒業論文要旨および概要を作成する。	
	25. 卒業論文要旨および概要作成(2)	卒業論文要旨および概要を作成する。	
	26. 卒業論文発表会の資料作成(1)	発表用のパワーポイントを作成する。	
	27. 卒業論文発表会の資料作成(2)	発表用のパワーポイントを作成する。	
	28. 卒業論文発表会の原稿作成(1)	発表原稿を作成する。	
	29. 卒業論文発表会の原稿作成(2)	発表原稿を作成する。	
	30. 卒業論文発表会の準備とまとめ	卒業論文発表会の発表練習を行う。	
受講者へのメッセージやアドバイス:			
フィードバックの方法:	研究計画書はディスカッションの際に解説して返却する。 仮提出した要旨や論文は添削して返却する。		
「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	論文(作品を含む)	40	研究内容と作品および論文完成度により評価する。 到達目標3を実践し、研究成果を正しく明瞭に伝えることができたかを基準とする。
	口頭発表	20	
	参加度	40	研究および授業への取り組みへの積極性、態度・意欲を評価する。
教科書:			
参考書:			
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	Eメール, オフィスアワー		

授業テーマ:	研究の実施, 卒業論文の作成とプレゼンテーション		
授業の概要:	栄養・調理・食品の各分野の専任教員の指導のもとに大学4年間の締めくくりとして、テーマを定めて1年間研究を行う。その成果を卒業論文発表会において発表し、卒業論文としてまとめる。これらを通して、学術研究における倫理的規範を身につけると共に、研究のすすめ方、問題点の解決法、研究のまとめ方、プレゼンテーションの方法を学ぶ。		
到達目標:	持続的な研究活動により、配属研究室独自の高い技能を学修するだけでなく、分析・思考力やプレゼンテーション力、さらに計画立案・実行力、変化対応力、リーダーシップ、責任感と自己管理力、協同性など、社会人として求められる資質を身につける。得られた最終成果を論文にまとめて指導教員に提出し、学科主催の卒業論文発表会において専任教員と在学生の前で口頭発表する。		
授業方法:	授業方法は担当する教員によって異なる。1テーマにつき1～複数名で行う。年間を通して教員の指導のもとで研究を進めるが、受け身ではなく、各自がグループ内で協調的に役割を果たしつつ、自律的に行動する。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1.	1. オリエンテーション(心構え、研究の進め方、研究倫理など)	研究を遂行するに当たっては、各自がテーマに関連する科学論文を読み、計画をたて、実験や調査を行い、結果を分析する作業が必須である。そのため、授業時間外に継続的にまとめた時間を確保する必要がある。また、卒業論文発表会用のスライド作成や卒業論文をまとめる作業も、必要に応じて授業時間外に行う。
	2.	2-27. 文献検索、討論、実験・調査(準備、測定、フィールドワーク、培養・飼育、データ処理、後片付けなど)を各研究室および各自の研究内容に応じて行い、研究室内で中間発表を行う。さらに、卒業論文発表会にむけて研究成果をまとめ、論文を作成する	
	3.	28-30. 卒業論文まとめ	
	受講者へのメッセージやアドバイス:	3年次に実施したオリエンテーションでの説明を参照して下さい。	
フィードバックの方法:	教員が日常的に学生とディスカッションを行う。		
「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	積極的参加度および研究に対する貢献度	50	
	卒業論文発表会の発表および卒業論文	50	「卒業論文」に関しては、研究活動に対する取り組み状況、提出された論文や卒業論文発表会での内容に基づいて、指導教員が総合評価する。なお、卒業論文発表会では多数の専任教員と在学生の前で口頭発表し、その完成度が評価される。
教科書:	特に指定なし		
参考書:	卒業論文のテーマにより異なる		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法:	研究室内で対応		

691860

臨床栄養学特殊研究Ⅱ

伊藤節子、今井晋二、石岡千寛、岩川裕美、米谷子、齋藤俊、小森邦明、徳重敏明、西本誠、柴田裕紀克己

授業テーマ:

臨床栄養学

授業の概要:

春学期は臨床検査学や食品の文責について学ぶ。秋学期は妊産婦と小児、骨粗鬆症について臨床現場で働く医師と管理栄養士による講義を受け、ディスカッションを行う。

到達目標:

臨床検査と各疾患の病態をよく理解して臨床現場で行われている栄養管理について学ぶ

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. 病態解析検査学	臨床検査について予習する
2. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習
3. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習
4. 病態解析検査学	前回の講義内容の復習
5. 健康食品管理	前回の講義内容の復習
6. 健康食品管理	前回の講義内容の復習
7. 健康食品管理	前回の講義内容の復習
8. 健康食品管理	前回の講義内容の復習
9. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習
10. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習
11. 食品検査と微生物学	前回の講義内容の復習
12. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習
13. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習
14. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習
15. 栄養と病態解析	前回の講義内容の復習
16. 妊産婦・婦人科疾患	妊産婦と婦人科疾患についての知識の整理
17. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習
18. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習
19. 妊産婦・婦人科疾患	前回の講義内容の復習
20. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理	前回の講義内容の復習
21. 妊産婦・婦人科疾患の栄養管理	前回の講義内容の復習
22. 小児科疾患	小児と成人の違いと成長発達および臨床栄養学の復習
23. 小児科疾患	前回の講義内容の復習
24. 小児科疾患	前回の講義内容の復習
25. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習
26. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習
27. 小児の栄養管理	前回の講義内容の復習
28. 骨粗鬆症	骨粗鬆症についての知識の整理
29. 骨粗鬆症	前回の講義内容の復習
30. まとめ	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

遅刻しないこと。
予習としてあらかじめ知識の整理をしておく(学部生時代に習ったことの復習や臨床現場で得た知識等)と講義の理解度が増すので、実践すること。
講義を受けたあとは必ず復習をすること。

フィードバックの方法:

毎回の授業において質疑応答を行う

「成績評価方法」

「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
まとめの試験	100	70点以上を合格とする

教科書:

参考書:

伊藤節子編著 臨床病態学 化学同人

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業後

授業テーマ: 臨床病態学および臨床栄養学

授業の概要： 消化器疾患、肝臓、胆のう、すい臓疾患について内科、外科両面から病態や治療についてそれぞれの分野の専門医(医)が最近の進歩や話題を含めて講述するとともに、それら諸疾患の栄養治療・栄養管理について管理栄養士(栄)が講述する。また、必要に応じて討論やグループワークを行う。

到達目標: 当該疾患の病態と栄養管理の関係性を説明でき、栄養管理プロセスの実施に反映することができる

授業方法: 講義形式。スライドやビデオ、プリントなど補助教材を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	内科:上部消化管(1)(前川高天)	上部消化管の疾患について予習を行う
2.	内科:上部消化管(2)(前川高天)	上部消化管の疾患について予習を行う
3.	上部消化管の栄養管理(院生活未定2)	上部消化管における栄養摂取に関する生理機能と栄養管理の関連について予習を行う
4.	内科:下部消化管(1)(前川高天)	下部消化管の疾患について予習を行う
5.	内科:下部消化管(2)(前川高天)	下部消化管の疾患について予習を行う
6.	下部消化器疾患の栄養管理(1)(小松龍史)	下部消化管における栄養摂取に関する生理機能と栄養管理の関連について予習を行う
7.	下部消化器疾患の栄養管理(2)(小松龍史)	下部消化管における栄養摂取に関する生理機能と栄養管理の関連について予習を行う
8.	内科:肝臓・胆嚢(1)(片岡慶正)	肝臓および胆嚢疾患について予習を行う
9.	内科:肝臓・胆嚢(2)(片岡慶正)	肝臓および胆嚢疾患について予習を行う
10.	肝・胆疾患の栄養管理(1)(院生活未定2)	肝臓及び胆嚢機能低下と栄養管理の関係性について予習を行う
11.	肝・胆疾患の栄養管理(2)(院生活未定2)	肝臓及び胆嚢機能低下と栄養管理の関係性について予習を行う
12.	内科:膵臓(1)(阪上順一)	膵臓疾患について予習を行う
13.	内科:膵臓(2)(阪上順一)	膵臓疾患について予習を行う
14.	内科:膵臓(3)(阪上順一)	膵臓疾患について予習を行う
15.	膵疾患の栄養管理(院生活未定2)	膵臓疾患の栄養代謝の特性と栄養管理について予習を行う
16.	外科:消化管(1)(永井利博)	上部および下部消化管がんなどの手術前後の栄養課題について予習を行う
17.	外科:消化管(2)(永井利博)	上部および下部消化管がんなどの手術前後の栄養課題について予習を行う
18.	外科:消化管(3)(永井利博)	上部および下部消化管がんなどの手術前後の栄養課題について予習を行う
19.	外科:肝臓(1)(門田一宣)	肝臓疾患の術前術後の代謝変動と栄養課題について予習を行う
20.	外科:肝臓(2)(門田一宣)	肝臓疾患の術前術後の代謝変動と栄養課題について予習を行う
21.	外科:胆嚢・膵臓(1)(北岡昭宏)	胆嚢・膵臓疾患の術前術後の代謝変動と栄養課題について予習を行う
22.	外科:胆嚢・膵臓(2)(北岡昭宏)	胆嚢・膵臓疾患の術前術後の代謝変動と栄養課題について予習を行う
23.	外科疾患の栄養管理(院生活未定2)	外科術後の栄養課題を整理して、栄養管理プロセスへ反映させるべき点を検討しておく
24.	経静脈・経腸栄養学(1)(辻川知之)	強制栄養補給法の種類と合併症などを整理しておく
25.	経静脈・経腸栄養学(2)(辻川知之)	強制栄養補給法の種類と合併症などを整理しておく
26.	経静脈・経腸栄養学(3)(荒木信一)	強制栄養補給法の種類と合併症などを整理しておく
27.	経静脈・経腸栄養学(4)(佐々木雅也)	強制栄養補給法の種類と合併症などを整理しておく
28.	消化管疾患の栄養管理のまとめ(1)(小松龍史)	消化管の部位、疾患の種類により栄養管理がどのように異なるかを整理しておく
29.	消化管疾患の栄養管理のまとめ(2)(小松龍史)	消化管の部位、疾患の種類により栄養管理がどのように異なるかを整理しておく
30.	まとめ(小松龍史)	

受講者への テーマによっては討論やグループワークを行うので、テーマに応じて十分に予習を行うことが必要である。

フィードバックの方法： 講義中のディスカッションや個別対応による

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業への参加度	40%	
	試験	60%	

合格基準:70点以上
科目によりレポートが課せられる場合には評価に加味される。

教科書: 使用しない

参考書: 関連分野の専門書等

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:

教員との連絡
方法:

テーマにより担当教員が異なるので、学内担当教員を通じて問い合わせること

授業テーマ：	臨床栄養学		
授業の概要：	臨床現場で働く医師と管理栄養士による講義とディスカッション		
到達目標：	各疾患の病態をよく理解して臨床現場で行われている栄養管理について学ぶ		
授業方法：	講義形式		
「授業内容」および「準備学習等の内容」：	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 腎疾患	腎・尿路系の臨床病態学の復習	
	2. 腎疾患	前回講義内容の復習	
	3. 腎疾患	前回講義内容の復習	
	4. 腎疾患の栄養管理	前回講義内容の復習	
	5. 内分泌疾患	内分泌系の臨床病態学の復習	
	6. 内分泌疾患	前回講義内容の復習	
	7. 内分泌疾患	前回講義内容の復習	
	8. 内分泌疾患	前回講義内容の復習	
	9. 内分泌疾患の栄養管理	前回講義内容の復習	
	10. 血液疾患	血液失火の臨床病態学の復習	
	11. 血液疾患	前回講義内容の復習	
	12. 血液疾患の栄養管理	前回講義内容の復習	
	13. アレルギー性疾患	食物アレルギーについての知識のまとめ	
	14. アレルギー性疾患	前回講義内容の復習	
	15. アレルギー性疾患	前回講義内容の復習	
	16. 呼吸器疾患	呼吸器系の臨床病態学の復習	
	17. 呼吸器疾患	前回講義内容の復習	
	18. 呼吸器疾患の栄養管理	前回講義内容の復習	
	19. 老年者の疾患	老年者の疾患と神経疾患についての臨床病態学の復習	
	20. 老年者の疾患	前回講義内容の復習	
	21. 老年者の疾患	前回講義内容の復習	
	22. 老年者の疾患	前回講義内容の復習	
	23. 老年者の疾患の栄養管理	前回講義内容の復習	
	24. 老年者の疾患の栄養管理	前回講義内容の復習	
	25. 悪性腫瘍	病理学、特に悪性腫瘍についての臨床病態学の復習	
	26. 悪性腫瘍	前回講義内容の復習	
	27. 悪性腫瘍	前回講義内容の復習	
	28. 悪性腫瘍の栄養管理	前回講義内容の復習	
	29. 悪性腫瘍の栄養管理	前回講義内容の復習	
	30. まとめ	総復習	
受講者へのメッセージやアドバイス：	遅刻しないこと。 予習としてあらかじめ知識の整理をしておく(学部生時代に習ったことの復習や臨床現場で得た知識等)と講義の理解度が増すので、実践すること。 講義を受けたあとは必ず復習をすること。		
フィードバックの方法：	授業中の質疑応答による		
「成績評価方法」 「成績評価基準」：	評価方法 まとめの試験	割合 100	評価基準 70点以上を合格
教科書：			
参考書：	伊藤節子編著 臨床病態学 化学同人		
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理能力、自己実現力		
教員との連絡方法：	授業後		

授業テーマ:	問題解決能力の醸成	
授業の概要:	研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。	
到達目標:	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。	
授業方法:	実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
	2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
	3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
	4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
	5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
	6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
	7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。
	8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを独力で遂行する。

9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
14. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
15. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
16. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
17. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
18. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
19. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
20. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
21. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
22. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
23. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
24. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
25. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
26. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
27. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
28. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
29. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
30. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。

[illegible]

受講者への
メッセージや
アドバイス:

全員毎回出席が原則。

フィードバックの方法:

指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評鑑方法」
「成績評鑑基準」：

評価方法	割合	評価基準
積極的な研究態度	50	積極的に研究しているかを評価する。
発表・研究論文内容	50	研究内容を適正に発表・纏めているかを評価する。

教科書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

参考書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	各教員で対応

授業テーマ:	問題解決能力の醸成																		
授業の概要:	研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。																		
到達目標:	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。																		
授業方法:	実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度) </td><td> テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 </td></tr> <tr> <td>2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> </tbody> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。	2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	
授業内容	準備学習等の内容																		
1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。																		
2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			

9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
14. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
15. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
16. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
17. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
18. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
19. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
20. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
21. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
22. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
23. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
24. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
25. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
26. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
27. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
28. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
29. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
30. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。

[illegible]

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評鑑方法」
「成績評鑑基準」：

評価方法	割合	評価基準
積極的な研究態度	50	積極的に研究しているかを評価する。
発表・研究論文内容	50	研究内容を適切に発表・纏められているかを評価する。

教科書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

参考書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	各教員で対応

授業テーマ:	問題解決能力の醸成																		
授業の概要:	研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。																		
到達目標:	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。																		
授業方法:	実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。																		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table border="1"> <thead> <tr> <th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度) </td><td> テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 </td></tr> <tr> <td>2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> <tr> <td>8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。</td><td></td></tr> </tbody> </table>	授業内容	準備学習等の内容	1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。	2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。		8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	
授業内容	準備学習等の内容																		
1. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 E1(1)－1)～7) 1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。(態度) 2. 問題点を自ら進んで解決しようと努力する。(態度) 3. 課題の達成を目指して論理的思考を行い、生涯にわたって醸成する。(態度) 4. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。(態度) 5. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。(態度) 6. 環境に配慮して、研究に取り組む。(態度) 7. チームの一員としてのルールやマナーを守る。(態度) (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 E1(2)－1)～13) 1. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。(知識・技能) 2. 課題に関連するこれまでの発表論文を読解できる。 3. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。(技能) 4. 実験計画を立案できる。(知識・技能) 5. 実験系を組み、実験を実施できる。(技能) 6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。(技能・態度) 7. 研究活動中に生じたトラブルを指導者に報告する。(態度) 8. 研究の各プロセスを正確に記録する。(技能・態度) 9. 研究の結果をまとめることができる。(技能) 10. 研究の結果を考察し、評価できる。(技能) 11. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。(技能・態度) 12. 研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能) 13. 自らの研究成果に基づいて、次の研究課題を提案する。(知識・技能) (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 E1(3)－1)～3) 1. 研究課題を通して、現象を的確に捉える観察眼を養う。(知識・技能・態度) 2. 新規な課題に常にチャレンジする研究者としての創造的精神を醸成する。(態度) 3. 科学の発展におけるセレンディピティについて説明できる。(知識・態度)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。 テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。																		
2. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
3. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
4. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
5. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
6. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
7. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			
8. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。																			

9. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
10. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
11. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
12. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
13. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
14. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
15. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
16. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
17. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
18. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
19. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
20. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
21. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
22. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
23. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
24. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
25. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
26. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
27. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
28. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
29. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。
30. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など、自立した研究者として独力で遂行する。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

全員毎回出席が原則。

フィードバックの方法:

指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	卒業論文	30	研究内容が論文として適正に纏められているかを評価する。
	発表会	20	研究内容が適切に発表できているかを評価する。
	研究(平常点)	50	積極的に研究を行っているかを評価する。

教科書：それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

参考書: それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理能力、自己実現力
教員との連絡 方法:	各教員で対応

授業テーマ:	安全で安楽な生活援助技術を修得する		
授業の概要:	看護の基本となる生活援助技術を、対象の安全・安楽と、看護者自身の安全・安楽、ボディメカニクスの視点を踏まえて学ぶ。 生活援助技術としては、環境、活動、清潔、食事、排泄、安楽の援助に関する項目を含む。		
到達目標:	1. 安全・安楽な生活援助技術を行うために必要な基礎的知識を習得することができる。 2. 安全・安楽に配慮した生活援助技術を獲得することができる。		
授業方法:	授業は、講義、デモンストレーション、演習より構成される。 講義では、科学的根拠および、対象者や看護者の安全・安楽に関する視点に重点をおいて行う。 演習では、2～4名の小グループで看護師役、患者役、観察者役を交代で実施し、倫理的態度を身に付ける視点も含める。 また、演習後も振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 生活環境①【病床と病室内環境】 (グループワーク/発表)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 発表準備を行う	
	2. 生活環境②【病床と病室内環境】 (グループワーク/発表)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 発表準備を行う	
	3. 科目オリエンテーション/生活環境とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習)	
	4. 安全・安楽に配慮した生活援助技術とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習)	
	5. 病床の作り方と整備① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	6. 病床の作り方と整備② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	7. 移動の援助	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を実施する(予習) プラクティカルサポートセンターで自己・グループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	8. 体位と体位変換① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を実施する(予習) プラクティカルサポートセンターで自己・グループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	9. 体位と体位変換② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を実施する(予習) プラクティカルサポートセンターで自己・グループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	10. ストレッチャーと車椅子移乗と移送① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	11. ストレッチャーと車椅子移乗と移送② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	12. 清潔の援助	教科書関連ページを読む(予習・復習)	
	13. 衣生活の援助	教科書関連ページを読む(予習・復習)	
	14. リネン・寝衣交換① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	15. リネン・寝衣交換② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	16. 全身清拭① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	17. 全身清拭② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	18. 整容・洗髪① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	19. 整容・洗髪② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)	
	20. 食事・口腔清拭の援助	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習)	

21.	食事・口腔清拭の援助① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにて関連項目を学習する(復習)
22.	食事・口腔清拭の援助② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにて関連項目を学習する(復習)
23.	排泄の援助	教科書関連ページを読む(予習) プラクティカルサポートセンターでグループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにて関連項目を学習する(復習)
24.	床上排泄・陰部洗浄① (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習) プラクティカルサポートセンターでグループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにて関連項目を学習する(復習)
25.	床上排泄・陰部洗浄② (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読む(予習) プラクティカルサポートセンターでグループ学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにて関連項目を学習する(復習)
26.	安楽の技術【足浴・電法】	教科書関連ページを読む(予習・復習)
27.	安楽の技術①【足浴・電法】 (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにて関連項目を学習する(復習)
28.	安楽の技術②【足浴・電法】 (デモンストレーション/実技演習)	教科書関連ページを読み、指定した事前課題を行う(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにて関連項目を学習する(復習)
29.	実技チェック	プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う 全学習範囲の総復習を行う
30.	まとめ	プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う 全学習範囲の総復習を行う

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

各单元ごとに課したレポートの内容を確認後、個々にコメントをつけて返却します。
また、技術に対しコメントをします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技チェック	40%	到達目標2. に対する達成度より評価する。
筆記試験	30%	到達目標1. に対する知識や理解度より評価する。
レポート	20%	到達目標1. 2. を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し配慮をもって技術を達成できたかを基準とする。
演習態度 欠席	10%	到達目標2. に対する準備状態と態度・意欲より評価する。 減点する。

教科書: 阿曾洋子ほか、基礎看護技術、第7版、医学書院
看護技術がみえるVOL1 基礎看護技術、MEDIC MEDIA

参考書: 角濱春美ほか、看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術第2版、メヂカルフレンド社
竹尾恵子、看護技術プラクティス、学研

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: オフィスアワーを活用してください。

授業テーマ:	安全で安楽な診療の補助援助技術を修得する		
授業の概要:	看護の基本となる診療の補助援助技術を、対象の安全・安楽および、看護者自身の安全・安楽に配慮して実施する視点に重点をおいて学ぶ。 また、診療の補助援助技術としては、感染予防、薬物療法、生体検査、呼吸に伴う医療処置(吸入・吸引)、排泄に関する医療処置(導尿・浣腸)が含まれる。		
到達目標:	1. 科学的根拠に基づいて診療の補助技術を実施するために必要な基礎的知識を習得することができる。 2. 安全・安楽に配慮した診療の補助援助技術を獲得することができる。		
授業方法:	授業は、講義、デモンストレーション、演習により構成される。 講義では、科学的根拠および、対象者や看護師の安全・安楽に関して重点をおく。 演習では、2～4名の小グループで看護師役、患者役、観察者役を交代して実施し、倫理的態度を身に付ける視点も含めながら行う。 また、演習後も振り返りを実施することにより、学びを共有し、知識の習得および技術の獲得を高める。		
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容	
	1. 科目のオリエンテーション/診療の補助援助技術とは	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	2. 感染予防の基礎知識	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習・復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	3. 医療廃棄物の取り扱い	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)	
	4. 感染予防【手洗い・標準予防策①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)	
	5. 感染予防【手洗い・標準予防策②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)	
	6. 感染予防【無菌操作・滅菌物の取り扱い①】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)	
	7. 感染予防【無菌操作・滅菌物の取り扱い②】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習・復習) プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) 演習後レポートを作成する(復習)	
	8. 治療と薬物療法①	教科書関連ページを読む(予習・復習)	
	9. 治療と薬物療法②	教科書関連ページを読む(予習・復習)	
	10. 薬物療法の基礎①【滅菌物の確認・注射薬の吸い上げ】 (デモンストレーション・実技演習)	10～11. 薬物療法の基礎①②【滅菌物の確認・注射薬の吸い上げ】(デモンストレーション・実技演習)	
	11. 薬物療法の基礎②【滅菌物の確認・注射薬の吸い上げ】 (デモンストレーション・実技演習)	10～11. 薬物療法の基礎①②【滅菌物の確認・注射薬の吸い上げ】(デモンストレーション・実技演習)	
	12. 注射法【皮下注射】 (デモンストレーション・実技演習)	演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	13. 注射法【筋肉注射】 (デモンストレーション・実技演習)	演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	14. 注射法【静脈内注射①】 (デモンストレーション・実技演習)	演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	15. 注射法【静脈内注射②】 (デモンストレーション・実技演習)	演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	16. 生体検査	教科書関連ページを読む(予習・復習)	
	17. 採血法① (デモンストレーション・実技演習)	演習後レポートを作成する(復習) 関連項目のナースングスキルにおいて自己学習を行う(復習)	
	18. 採血法② (デモンストレーション・実技演習)	演習後レポートを作成する(復習) 関連項目のナースングスキルにおいて自己学習を行う(復習)	
	19. 呼吸に伴う医療処置【吸引・吸入】	教科書関連ページを読む(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	20. 呼吸に伴う医療処置【吸入】 (デモンストレーション・実技演習)	教科書関連ページを読む(予習) 演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	21. 呼吸に伴う医療処置【吸引①】 (デモンストレーション・実技演習)	演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	22. 呼吸に伴う医療処置【吸引②】 (デモンストレーション・実技演習)	演習後レポートを作成する(復習) ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習)	
	23. 排泄に関する医療処置【導尿の援助】	教科書関連ページを読む(予習・復習)	

- | | | |
|-----|---|--|
| 24. | 排泄に関する医療処置【導尿の援助①】
(デモンストレーション・実技演習) | 演習後レポートを作成する(復習)
プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) |
| 25. | 排泄に関する医療処置【導尿の援助②】
(デモンストレーション・実技演習) | 演習後レポートを作成する(復習)
プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) |
| 26. | 排泄に関する医療処置【導尿の援助③】
(デモンストレーション・実技演習) | 演習後レポートを作成する(復習)
プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(復習) |
| 27. | 排泄に関する医療処置【浣腸の援助①】(デモンストレーション・実技演習) | 演習後レポートを作成する(復習)
ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習) |
| 28. | 排泄に関する医療処置【浣腸の援助①】
(デモンストレーション・実技演習) | 演習後レポートを作成する(復習)
ナースングスキルにおいて関連項目の自己学習を行う(復習) |
| 29. | 実技チェック | プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う(復習)
全学習範囲の総復習を行う |
| 30. | まとめ | プラクティカルサポートセンター・実習室で自己学習を行う(復習)
全学習範囲の総復習を行う |

受講者への
メッセージや
アドバイス:

フィードバックの
方法:

各単元ごとに課したレポート内容を確認後、個々にコメントをつけて返却します。
また、技術に対し、コメントをします。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技チェック	40%	到達目標2. に対する達成度より評価する。
筆記試験	30%	到達目標1. に対する知識や理解度より評価する。
レポート	20%	到達目標1. 2. を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し配慮をもって技術を達成できたかを基準とする。
演習態度	10%	到達目標2. に対する準備状態と態度、意欲より評価する。
欠席		減点する。

教科書: 阿曾洋子ほか、基礎看護技術、第7版、医学書院
看護技術がみえるVOL2、基礎看護技術、MEDIC MEDIA

参考書: 角濱春美ほか、基礎看護技術、メヂカルフレンド社
竹尾恵子、看護技術プラクティス、学研
系統看護学講座、基礎看護技術Ⅱ、医学書院

獲得が期待される
基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡
方法: オフィスアワーを活用してください。

授業テーマ:

博士論文の研究課題の探索

授業の概要:

薬学特別研究は、IVに至って最終的に博士論文を完成することを目的としている。その最終目標を達成するため、まず薬学特別研究Iでは、各指導教員の助言のもとに、学生は自身の論文のテーマを選定して、研究科委員会に提出する。このテーマ関連領域の論文講読と内容発表、および研究の方向性の探索を主とした研究を行う。便宜上、以下に15項目を列挙したが、順序やそれぞれの回数は内容に応じて流動的である。

到達目標:

博士論文のテーマを選定し、研究を遂行する上で必要となる知識、技能および態度を修得する。

授業方法:

定期的にラボミーティングを行い、実験データ、実験方法、実験条件、次の実験方針、関連する先端的研究の内容などについて討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	テーマ選定のための討議1 興味の対象の洗い出し	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
2.	テーマ選定のための討議2 仮説の提唱	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
3.	テーマに関連する問題点の洗い出し、研究テーマの報告	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
4.	目標達成のための方法論の討議	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
5.	方法論決定のための関連論文検索	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
6.	論文講読と発表1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
7.	論文講読と発表2	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
8.	検証実験1（テーマによっては調査）と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
9.	検証実験2と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
10.	検証実験3と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
11.	検証実験4と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
12.	検証実験5と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
13.	検証実験6と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
14.	データのまとめと論点整理	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
15.	発表会での討議、方向性の妥当性評価	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ラボミーティングや日々の研究の中で随時、研究室で対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	研究経過報告	100%	研究の背景や原理、研究手法に関する知識、実験手技の熟練度、次の実験の立案などから総合的に到達目標への到達度を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール: rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 研究室で随時対応。

授業テーマ:

博士論文の研究課題の発展

授業の概要:

薬学特別研究は、Ⅳに至って最終的に博士論文を完成することを目的としている。その最終目標を達成するため、研究期間の後半に入る薬学特別研究Ⅲでは、中間報告会で指摘された問題点や今後の研究に対するアドバイスを踏まえて研究を進める。便宜上15項目を列挙したが、順序やそれぞれの回数は内容に応じて流動的である。

到達目標:

薬学特別研究Ⅲの成果が博士論文の中核となるように研究を進展させるとともに、必要となる専門的知識や技能を修得する。

授業方法:

定期的にラボミーティングを行い、実験データ、実験方法、実験条件、次の実験方針、関連する先端的研究の内容などについて討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学特別研究Ⅱの評価と方向性の確認のための討議1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
2.	テーマに関連する問題点の洗い出し、関連論文の検索	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
3.	目標達成のための方法論の討議、仮説の再構築	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
4.	関連論文講読・発表1	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
5.	関連論文講読・発表2	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
6.	検証実験1と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
7.	検証実験2と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
8.	検証実験3と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
9.	検証実験4と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
10.	検証実験5と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
11.	検証実験6と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
12.	検証実験7と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
13.	検証実験8と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
14.	検証実験9と結果の精査	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など
15.	研究の進捗状況並びに進捗状況の評価	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定など

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ラボミーティングや日々の研究の中で随時、研究室で対応する。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	ラボミーティング	100%	研究の背景や原理、研究手法に関する知識、実験手技の熟練度、次の実験の立案、分かりやすい研究のプレゼンテーション力から総合的に到達目標への到達度を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

Eメール: rkizu@dw.doshisha.ac.jp、研究室で随時対応。

授業テーマ:	博物館学芸員としての基礎的技術の習得	
授業の概要:	今日の博物館は、学校教育のみならず生涯教育の場として、また文化の保存・伝承と研究発信の場として現代社会の中で大きな役割を果たしている。この「博物館実習」は「博物館学芸員資格」取得のための要となる授業であり博物館学芸員としての基礎的な心構えと技術を習得することを目的とする。 そうした実際の博物館での実習を行う上で必要な博物館資料の取り扱いから展示の実現まで、主として考古学・歴史学の立場を軸としつつも、地理学・民俗学・美術史など幅広い観点から、多様な実務についての基礎技術を実習し、また、さまざまな博物館のあり方を現地で学び、地域社会における博物館のあり方を総合的に学習することを目標とする。 また「博物館実習」の単位を取得するためには大学内での受講だけではなく実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」(5～14日間程度)に参加することが必要となる。	
到達目標:	博物館学芸員としての基礎的な技術を習得する。	
授業方法:	実習形式とする。教室における屋内実習、野外でおこなう屋外実習、学外の博物館を訪れる見学実習がある。実際の作業や、ディスカッション等も含めて積極的な姿勢が前提となる。また、夏期を中心として実際の博物館での「館園実習」への参加も前提となる。また受講にあたっては定められた実習費を納めることが必要である。 なお、この科目は、京田辺キャンパスと今出川キャンパスの双方で開講する。それぞれのキャンパスの特性を活かして、京田辺では博物館資料の取り扱い方に重点を置き、今出川では京都市内の博物館の実地見学実習(入館料・交通費は自己負担となる)を多く取り入れることとする。	
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	授業内容	準備学習等の内容
	1. ガイダンス 博物館実習の心構え(両キャンパス共通) 2. 博物館の実地見学実習1(共通) 3. 博物館広報チラシの比較検討(共通) 4. 博物館資料室の見学(京田辺)/博物館の実地見学実習2(今出川) 5. 民俗資料実習1～信仰資料の整理(共通) 6. 民俗資料実習2～信仰資料の整理(共通) 7. 民俗資料実習3～信仰資料の整理(共通) 8. 考古学資料実習1～遺物の扱い方(京田辺)/博物館の実地見学実習3(今出川) 9. 考古学資料実習2～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習1～拓本(今出川) 10. 考古学資料実習3～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習2～拓本(今出川) 11. 考古学資料実習4～遺物実測(京田辺)/考古学資料実習3～拓本(今出川) 12. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習4(今出川) 13. 考古学資料実習5～拓本(京田辺)/博物館の実地見学実習5(今出川) 14. 考古学資料実習6～拓本(京田辺)/博物館学芸員の仕事(今出川) 15. 博物館館園実習に関する事前指導(共通) 16. 博物館館園実習の個別報告1(共通) 17. 博物館館園実習の個別報告2(共通)/博物館の実地見学実習6(今出川) 18. 歴史地理学資料実習1～古地図資料(京田辺)/考古学資料実習4～遺物実測(今出川) 19. 歴史地理学資料実習2～近代地図資料(京田辺)/考古学資料実習5～遺物実測(今出川) 20. 美術資料実習1～掛軸(京田辺)/博物館の実地見学実習7(今出川) 21. 美術資料実習2～巻物(京田辺)/美術資料実習1～掛軸・巻物(今出川) 22. 美術資料実習3～文書(京田辺)/美術資料実習2～文書・典籍(今出川) 23. 美術資料実習4～典籍(京田辺)/博物館の実地見学実習8(今出川) 24. 写実実習1(共通) 25. 写実実習2(共通) 26. 展示図録1～印刷の知識(共通) 27. 展示図録2～図録のレイアウト(共通) 28. 展示会の構成1～展示計画の立案(共通) 29. 展示会の構成2～展示計画の発表(共通) 30. 博物館実習の総括	これまでの博物館学芸員関係科目の内容を復習しておく。 なお、この回は学期最初の授業であるため、欠席してはならない。 博物館の見学のマナーを考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 自分が館園実習に行く博物館についてまとめておく。 館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。 館園実習で経験したことをまとめ、説明できるようにしておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 博物館資料についての取り扱い方を考えておく。 展示計画を立案する。 立案した展示計画を発表できるようにしておく。 授業全般をふりかえり、自分なりに総括しておく。
受講者へのメッセージやアドバイス:	実習の各作業に積極的に参加する姿勢が求められる。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない(公欠は除く)。特に、学期最初、学期末の授業は欠席してはならない。多くの博物館を自主的に見学することも必須となる。特に実際の博物館の現場でおこなわれる「館園実習」は学外の博物館の厚意によって受け入れていただくものであるから生半可な気持ちで参加することは許されないことを肝に銘じていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ覚悟を持たない者はこの授業を受講してはならないことを強調しておく。	
フィードバックの方法:	教室内でまとめておこなう。	

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	出席及びペーパー提出	50	遅刻せずに出席し、また、指定されたペーパー等を提出したか。実習授業であるので、4分の1以上の欠席は、理由のいかんを問わず認めない(公欠は除く)。
	授業への積極的参加度	30	きちんと受講し、授業への積極的に参加したかどうか。
	館園実習での評価	20	館園実習をきちんと受講したかどうか。

教科書:

参考書: 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『博物館実習マニュアル』(芙蓉書房出版2002年2,700円＋税)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理能力、自己実現力

教員との連絡方法: kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

授業テーマ:	情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法及び主題組織法(分類法、件名索引法)の実践演習																																																															
授業の概要:	本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法、分類法・件名索引法の実践を演習し、理解を図る。 春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタログリング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。また、作成した書誌レコードを使用して、簡易OPACを構築し、評価する。 秋学期には主題索引法(分類法、件名索引法)について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法(分類法、件名索引法)の理解を図るとともに、実戦能力の獲得を目指す。																																																															
到達目標:	本科目では情報資源組織論の講義を受けて、記述目録法、分類法・件名索引法の実践を演習し、理解を図る。 春学期には記述目録法について、演習を通じて書誌レコードのコピーカタログリング、新規作成を学習する。さらに、典拠レコードの作成と書誌レコードとのリンクを演習して、書誌コントロールの意味を実体験し、理解を獲得する。また、作成した書誌レコードを使用して、簡易OPACを構築し、評価する。 秋学期には主題索引法(分類法、件名索引法)について、演習を通じて学習する。分類法の演習では、『日本十進分類法』を使用する。件名索引法では、『基本件名標目表』を使用する。ともに、日本図書館界で標準的に使用されている主題索引のツールである。本演習を通じて、主題索引法(分類法、件名索引法)の理解を図るとともに、実戦能力の獲得を目指す。																																																															
授業方法:	記述目録法、分類法・件名索引法の演習 準備学習(予習・復習)等の内容: OPAC、CiNii、国立国会図書館サーチに慣れておくこと。 他大学のOPACとの違いにも注意を向けておくこと。 常より実際の図書館情報資源がどのように整理されているかを確認しておくこと。																																																															
「授業内容」および「準備学習等の内容」:	<table><tr><th>授業内容</th><th>準備学習等の内容</th></tr><tr><td>1. 書誌データベースと書誌レコード、アクセスポイント、コード化情報の理解</td><td>DOORS、Nii、NDL-OPACなどで、実際の資料を検索しておくこと。</td></tr><tr><td>2. 図書書誌レコードの検索、書誌レコードの表現、所蔵レコードとのリンク1</td><td>自分の気に入りの本を図書館より借りて、OPACでプリントアウトして持参する。</td></tr><tr><td>3. 図書書誌レコードの検索、書誌レコードの表現、所蔵レコードとのリンク2</td><td>NACSIS-CATのファイル構造をネットで確認し書誌レコード、所蔵レコードの関係を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>4. 図書書誌レコードの流用入力、その修正1</td><td>NACSIS-CATのファイル構造をネットで確認し、流用入力の意味を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>5. 図書書誌レコードの流用入力、その修正2</td><td>同上</td></tr><tr><td>6. 図書書誌レコードの新規入力1</td><td>コード化情報ブロックにおけるコード類を教科書により確認しマスターしておく。</td></tr><tr><td>7. 図書書誌レコードの新規入力1</td><td>コード化情報ブロックにおけるコード類を教科書により確認しマスターしておく。</td></tr><tr><td>8. 図書書誌レコードの新規入力2</td><td>同上</td></tr><tr><td>9. 図書書誌レコードの流用入力と典拠レコードとのリンク形成</td><td>NDLの著者名典拠データの仕組みをネットで調べ理解しておくこと。</td></tr><tr><td>10. 図書書誌レコードの流用入力と典拠レコード新規作成とリンク形成</td><td>同上</td></tr><tr><td>11. 雑誌レコードの所蔵登録</td><td>DOORSで雑誌の書誌レコードと所蔵レコードの関係を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>12. 雑誌レコードの修正入力と所蔵レコードのリンク</td><td>所蔵レコードの実際の記載方法をDOORSで理解しておく。</td></tr><tr><td>13. 雑誌レコードの新規作成と所蔵レコードのリンク</td><td>雑誌の新規レコード作成の基準を理解しておくこと。</td></tr><tr><td>14. 簡易OPACの構築と書誌レコードの評価</td><td>USBに蓄積したものを持参する。</td></tr><tr><td>15. 記述目録法演習全体のまとめ</td><td>春学期のまとめをしておくこと。</td></tr><tr><td>16. 主題分析、要約、圧縮、表現の理解と演習</td><td>配布資料の熟読</td></tr><tr><td>17. 分類表本表(NDC): 記号の階層性と概念の階層構造の理解と演習</td><td>配布資料の熟読</td></tr><tr><td>18. 分類表の本表の構造、各種指示の意味の理解と演習1</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>19. 分類表の本表の構造、各種指示の意味の理解と演習2</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>20. 相関索引の使用法、本表との関係の理解と演習</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>21. 補助表: 知識と形式の索引の理解の理解と演習1</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>22. 補助表: 知識と形式の索引の理解の理解と演習2</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>23. 本表中の補助表: その適用の実際演習</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>24. 書誌分類付与と所在記号の決定演習</td><td>演習問題の予習</td></tr><tr><td>25. 件名標目表: 件名標目の構造理解とその演習1</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>26. 件名標目表: 件名標目の構造理解とその演習2</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>27. 件名標目表: 細目展開とその演習</td><td>配布資料の熟読、演習問題の予習</td></tr><tr><td>28. 分類表と件名標目表の関係理解とその演習</td><td>演習問題をNDCで付与しBSHに変換する。</td></tr><tr><td>29. 他の主題索引体系の演習</td><td>NDLSC(国立国会図書館分類表)、NDLSH(国立国会図書館件名標)を、ネットで調べておくこと。</td></tr><tr><td>30. 分類法、件名索引法全体のまとめ</td><td>秋学期のまとめをしておくこと。</td></tr></table>	授業内容	準備学習等の内容	1. 書誌データベースと書誌レコード、アクセスポイント、コード化情報の理解	DOORS、Nii、NDL-OPACなどで、実際の資料を検索しておくこと。	2. 図書書誌レコードの検索、書誌レコードの表現、所蔵レコードとのリンク1	自分の気に入りの本を図書館より借りて、OPACでプリントアウトして持参する。	3. 図書書誌レコードの検索、書誌レコードの表現、所蔵レコードとのリンク2	NACSIS-CATのファイル構造をネットで確認し書誌レコード、所蔵レコードの関係を理解しておくこと。	4. 図書書誌レコードの流用入力、その修正1	NACSIS-CATのファイル構造をネットで確認し、流用入力の意味を理解しておくこと。	5. 図書書誌レコードの流用入力、その修正2	同上	6. 図書書誌レコードの新規入力1	コード化情報ブロックにおけるコード類を教科書により確認しマスターしておく。	7. 図書書誌レコードの新規入力1	コード化情報ブロックにおけるコード類を教科書により確認しマスターしておく。	8. 図書書誌レコードの新規入力2	同上	9. 図書書誌レコードの流用入力と典拠レコードとのリンク形成	NDLの著者名典拠データの仕組みをネットで調べ理解しておくこと。	10. 図書書誌レコードの流用入力と典拠レコード新規作成とリンク形成	同上	11. 雑誌レコードの所蔵登録	DOORSで雑誌の書誌レコードと所蔵レコードの関係を理解しておくこと。	12. 雑誌レコードの修正入力と所蔵レコードのリンク	所蔵レコードの実際の記載方法をDOORSで理解しておく。	13. 雑誌レコードの新規作成と所蔵レコードのリンク	雑誌の新規レコード作成の基準を理解しておくこと。	14. 簡易OPACの構築と書誌レコードの評価	USBに蓄積したものを持参する。	15. 記述目録法演習全体のまとめ	春学期のまとめをしておくこと。	16. 主題分析、要約、圧縮、表現の理解と演習	配布資料の熟読	17. 分類表本表(NDC): 記号の階層性と概念の階層構造の理解と演習	配布資料の熟読	18. 分類表の本表の構造、各種指示の意味の理解と演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習	19. 分類表の本表の構造、各種指示の意味の理解と演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習	20. 相関索引の使用法、本表との関係の理解と演習	配布資料の熟読、演習問題の予習	21. 補助表: 知識と形式の索引の理解の理解と演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習	22. 補助表: 知識と形式の索引の理解の理解と演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習	23. 本表中の補助表: その適用の実際演習	配布資料の熟読、演習問題の予習	24. 書誌分類付与と所在記号の決定演習	演習問題の予習	25. 件名標目表: 件名標目の構造理解とその演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習	26. 件名標目表: 件名標目の構造理解とその演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習	27. 件名標目表: 細目展開とその演習	配布資料の熟読、演習問題の予習	28. 分類表と件名標目表の関係理解とその演習	演習問題をNDCで付与しBSHに変換する。	29. 他の主題索引体系の演習	NDLSC(国立国会図書館分類表)、NDLSH(国立国会図書館件名標)を、ネットで調べておくこと。	30. 分類法、件名索引法全体のまとめ	秋学期のまとめをしておくこと。	
授業内容	準備学習等の内容																																																															
1. 書誌データベースと書誌レコード、アクセスポイント、コード化情報の理解	DOORS、Nii、NDL-OPACなどで、実際の資料を検索しておくこと。																																																															
2. 図書書誌レコードの検索、書誌レコードの表現、所蔵レコードとのリンク1	自分の気に入りの本を図書館より借りて、OPACでプリントアウトして持参する。																																																															
3. 図書書誌レコードの検索、書誌レコードの表現、所蔵レコードとのリンク2	NACSIS-CATのファイル構造をネットで確認し書誌レコード、所蔵レコードの関係を理解しておくこと。																																																															
4. 図書書誌レコードの流用入力、その修正1	NACSIS-CATのファイル構造をネットで確認し、流用入力の意味を理解しておくこと。																																																															
5. 図書書誌レコードの流用入力、その修正2	同上																																																															
6. 図書書誌レコードの新規入力1	コード化情報ブロックにおけるコード類を教科書により確認しマスターしておく。																																																															
7. 図書書誌レコードの新規入力1	コード化情報ブロックにおけるコード類を教科書により確認しマスターしておく。																																																															
8. 図書書誌レコードの新規入力2	同上																																																															
9. 図書書誌レコードの流用入力と典拠レコードとのリンク形成	NDLの著者名典拠データの仕組みをネットで調べ理解しておくこと。																																																															
10. 図書書誌レコードの流用入力と典拠レコード新規作成とリンク形成	同上																																																															
11. 雑誌レコードの所蔵登録	DOORSで雑誌の書誌レコードと所蔵レコードの関係を理解しておくこと。																																																															
12. 雑誌レコードの修正入力と所蔵レコードのリンク	所蔵レコードの実際の記載方法をDOORSで理解しておく。																																																															
13. 雑誌レコードの新規作成と所蔵レコードのリンク	雑誌の新規レコード作成の基準を理解しておくこと。																																																															
14. 簡易OPACの構築と書誌レコードの評価	USBに蓄積したものを持参する。																																																															
15. 記述目録法演習全体のまとめ	春学期のまとめをしておくこと。																																																															
16. 主題分析、要約、圧縮、表現の理解と演習	配布資料の熟読																																																															
17. 分類表本表(NDC): 記号の階層性と概念の階層構造の理解と演習	配布資料の熟読																																																															
18. 分類表の本表の構造、各種指示の意味の理解と演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
19. 分類表の本表の構造、各種指示の意味の理解と演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
20. 相関索引の使用法、本表との関係の理解と演習	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
21. 補助表: 知識と形式の索引の理解の理解と演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
22. 補助表: 知識と形式の索引の理解の理解と演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
23. 本表中の補助表: その適用の実際演習	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
24. 書誌分類付与と所在記号の決定演習	演習問題の予習																																																															
25. 件名標目表: 件名標目の構造理解とその演習1	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
26. 件名標目表: 件名標目の構造理解とその演習2	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
27. 件名標目表: 細目展開とその演習	配布資料の熟読、演習問題の予習																																																															
28. 分類表と件名標目表の関係理解とその演習	演習問題をNDCで付与しBSHに変換する。																																																															
29. 他の主題索引体系の演習	NDLSC(国立国会図書館分類表)、NDLSH(国立国会図書館件名標)を、ネットで調べておくこと。																																																															
30. 分類法、件名索引法全体のまとめ	秋学期のまとめをしておくこと。																																																															
受講者へのメッセージやアドバイス:	・USBメモリを必ず持参すること。(毎回、作成したデータを保存するため、忘れると授業を受講することができない。システムはUSBメモリーがないと保存ができない仕組みになっているため、授業を受けることができないので注意すること。) ・教科書に従って授業を行う。教科書は必ず購入のこと。(春学期・秋学期とも同じ教科書) ・毎回ホームワークの課題を出す。 ・一つ一つ積み上げの授業のため、遅刻は認めない。また、欠席しないように努力すること。 ・欠席した場合、教科書・レジュメを基に独習し、課題・レポートは必ず提出すること。																																																															
フィードバックの方法:	授業終わりに質問紙を提出、次回の授業始めに解説または回答する。																																																															

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	授業態度	20	演習の回答発表
	課題	30	提出率と課題の正確性
	試験	50	正答率
教科書:	北克一・村上泰子共著『資料組織演習』改訂第3版(M.B.A)		
参考書:	『日本目録規則 1987年版 改訂3版』日本図書館協会, 2003 (授業時貸出) 『日本十進分類法 第10版』日本図書館協会, 2014 (授業時貸出) 『基本件名標目表 第4版』日本図書館協会, 1999 (授業時貸出) 田窪直規ほか『改訂 情報資源組織演習』樹村房, 2017 田窪直規ほか『改訂 情報資源組織論』樹村房, 2016 和中幹夫ほか『改訂 情報資源組織演習』日本図書館協会, 2016		
獲得が期待される 基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力		
教員との連絡 方法:	Eメール: kawasaki.hideko@gmail.com		